

[illegible]

[illegible]

一般	必修	力学基礎	1A065	履修単位	2	22																		堀尾 明 宏宇野 秀 晃	
一般	必修	言語文化	2A001	履修単位	2	22																		田貝 和 子	
一般	必修	政治・経済	2A003	履修単位	2	22																		田口 有 理,石 関 正典	
一般	必修	保健・体育	2A004	履修単位	2	22																		佐藤 孝 之	
一般	必修	英語A	2A005	履修単位	2	22																		横山 孝 一	
一般	必修	英語B	2A006	履修単位	2	22																		伊藤 文 彦	
一般	必修	数学AⅠ	2A007	履修単位	2	4																		北田 健 策	
一般	必修	数学AⅡ	2A008	履修単位	2	4																		北田 健 策	
一般	必修	数学B	2A009	履修単位	2	22																		大森 祥 輔	
一般	必修	物理Ⅰ	2A010	履修単位	2	4																		宇治野 秀晃	
一般	必修	物理Ⅱ	2A011	履修単位	2	4																		宇治野 秀晃	
一般	必修	言語文化	2A012	履修単位	2	22																		田貝 和 子	
一般	必修	政治・経済	2A014	履修単位	2	22																		石関 正 典	
一般	必修	保健・体育	2A015	履修単位	2	22																		佐藤 孝 之	
一般	必修	英語A	2A016	履修単位	2	22																		横山 孝 一	
一般	必修	英語B	2A017	履修単位	2	22																		伊藤 文 彦	
一般	必修	数学AⅠ	2A018	履修単位	2	4																		市村 和 也	
一般	必修	数学AⅡ	2A019	履修単位	2	4																		松本 敦	
一般	必修	数学B	2A020	履修単位	2	22																		谷中 勝 ,北田 健策, 布施 川 秀紀	
一般	必修	物理Ⅰ	2A021	履修単位	2	4																		渡邊 悠 貴	
一般	必修	物理Ⅱ	2A022	履修単位	2	4																		渡邊 悠 貴	
一般	必修	言語文化	2A023	履修単位	2	22																		田貝 和 子	
一般	必修	政治・経済	2A025	履修単位	2	22																		石関 正 典	
一般	必修	保健・体育	2A026	履修単位	2	22																		佐藤 孝 之	
一般	必修	英語A	2A027	履修単位	2	22																		横山 孝 一	
一般	必修	英語B	2A028	履修単位	2	22																		伊藤 文 彦	
一般	必修	数学AⅠ	2A029	履修単位	2	4																		奈須田 祐大	
一般	必修	数学AⅡ	2A030	履修単位	2	4																		奈須田 祐大	
一般	必修	数学B	2A031	履修単位	2	22																		碓氷 久	
一般	必修	物理Ⅰ	2A032	履修単位	2	4																		高橋 徹	
一般	必修	物理Ⅱ	2A033	履修単位	2	4																		高橋 徹	
一般	必修	言語文化	2A034	履修単位	2	22																		田貝 和 子	
一般	必修	政治・経済	2A036	履修単位	2	22																		石関 正 典	
一般	必修	保健・体育	2A037	履修単位	2	22																		佐藤 孝 之	
一般	必修	英語A	2A038	履修単位	2	22																		横山 孝 一	
一般	必修	英語B	2A039	履修単位	2	22																		伊藤 文 彦	

[illegible]

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語表現
科目基礎情報						
科目番号	1A002		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	探求 現代の国語：桐原書店：9784342121012					
担当教員	田貝 和子					
到達目標						
☐ 論理的な文章を客観的に理解することができる。 ☐ 論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。 ☐ 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 ☐ 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章を客観的に理解することが十分にできる。		論理的な文章を客観的に理解することができる。		論理的な文章を客観的に理解することができない。	
評価項目2	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することが十分にできる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができない。	
評価項目3	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることが十分にできる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、文章表現力の錬成も兼ねて「論旨の要旨」をまとめる作業を行う。					
授業の進め方・方法	1 学年の国語表現では、読むことを中心に行います。正確に読解することを通じて、考える力を身につけてください。それが、自分の考えを他人に正確に伝えるための表現力につながります。					
注意点	ノートを一冊用意してください。また、国語辞典も常に机の上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
		2週	口語文法		常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	
		3週	体験と思索Ⅰ 読書は必要か？ 1		筆者のものの見方や感じ方を理解することができる。	
		4週	体験と思索Ⅰ 読書は必要か？ 2		読書について考えることができる。	
		5週	評論Ⅰ 言葉の力 1		文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることができる。	
		6週	評論Ⅰ 言葉の力 2		日本の言葉について自分の考えを深めることができる。	
		7週	評論Ⅰ 言葉の力 3		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。	
		8週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 1		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
	2ndQ	9週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 2		論理性に着眼して評論を読み解く方法を学ぶことができる。	
		10週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 3		筆者の考えをまとめることができる。	
		11週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 4		現代の科学について自分の考えを深めることができる。	
		12週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 1		常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	
		13週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 2		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
		14週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 3		文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることができる。	
		15週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 4		社会のあり方について自分の考えを深めることができる。	
		16週	前期到達目標の確認		言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。	

後期	3rdQ	1週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
		2週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 2	他者の生き方から普遍的な価値を見出し、テーマに対する筆者の姿勢を理解することができる。
		3週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 3	生きることについての考えを深めることができる。
		4週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 1	社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。
		5週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 2	コミュニケーションに関する文章を読んで理解することができる。
		6週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 3	筆者の主張を踏まえた上で他者と自分との関係性について考えることができる。
		7週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 4	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。
		8週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
	4thQ	9週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 2	言語についての文章を読んで理解することができる。
		10週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 3	筆者の主張を踏まえたうえで、現代的テーマについて考えることができる。
		11週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 4	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。
		12週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
		13週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 2	社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。
		14週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 3	思考の相対化をテーマとした文章を読んで理解することができる。
		15週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 4	筆者の主張を踏まえたうえで、「相対性」といった現代的テーマについて考えることができる。
		16週	後期到達目標の確認	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	歴史
科目基礎情報						
科目番号	1A003		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『詳述歴史総合』（実教出版）、『ダイアログ歴史総合』（第一学習社）					
担当教員	篠澤 文雄					
到達目標						
世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象について学ぶ。さらに、地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かし、かつ日本の歴史に多大な影響をおよぼしていく実態を学ぶ。そして、これらの学習内容が、現代の世界・日本とどのような関係を有しているのかを考察し、よりよき未来を切り開くために必要な視座を獲得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果に加えて、類似の現象についても説明することができる。		世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果について理解できる。		世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果がよくわかっていない。	
評価項目2	地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解し、授業で学んだ現象についても応用することができる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解できる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解していない。	
評価項目3	世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解し、よりよき未来を切り開くための視座を獲得している。		世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解している。		世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・現代の世界と日本の歴史的背景を学習することにより、現代の課題を見出し、その解決に向けて思考し、行動するための基礎的な知的訓練を積むことができる。 ・世界の国々の文化や社会の歴史的背景を学ぶことにより、グローバル化の時代にふさわしい教養・知識を身につけることができる。 ・現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするための訓練を積むことができる。 ・歴史における人類の偉業ならびに愚行について考察することにより、これからの世界を形作るうえで必要な教訓を得ることができる。					
授業の進め方・方法	・授業は主に講義形式で行なう。指定の教科書・資料集を用いて、主に近代以降の世界史と日本史に重点を置いて学習する。 ・基本的な歴史的事実を学習した後、担当教員との質疑応答のやり取りをつうじて、講義内容の理解を深めていく。学生には積極的に発言・質問することを期待する。 ・授業中配布する資料や文章を読んだり、レポートを作成したりすることにより、思考力や文章表現力を鍛える。					
注意点	課題提出を怠らないように。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション 16～19世紀の世界の経済（1）		近代の歴史を学ぶ意義について。 17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出について学ぶ。	
		2週	16～19世紀の世界の経済（2）		前半には、18世紀におけるヨーロッパとアジアの経済の関係について学ぶ。後半には産業革命の背景について学ぶ。	
		3週	16～19世紀の世界の経済（3）		産業革命期の技術革新、エネルギー革命。産業革命が社会に与えた影響。	
		4週	主権国家体制の確立 力独立革命（1）	アメリ	16～17世紀のヨーロッパで主権国家体制が確立していくプロセスを学ぶ。後半には、独立前のアメリカ植民地の状況を概観し、なぜ人々が独立を目指したのか、について理解する。	
		5週	アメリカ独立革命（2）		アメリカ独立戦争の原因、意義、課題について学ぶ。	
		6週	フランス革命とナポレオン（1）		フランス革命とナポレオンの時代の主な出来事と世界史におけるその意義について学ぶ。	
		7週	フランス革命とナポレオン（2）		フランス革命とナポレオンの時代の主な出来事と世界史におけるその意義について学ぶ。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	フランス革命とナポレオン（3）		フランス革命とナポレオンの時代がもたらした国民国家について学ぶ。	
		10週	ウィーン体制		ナポレオン戦争後の国際秩序はどのようなものか。19世紀のヨーロッパ史の概要について学ぶ。	
		11週	19世紀のイギリスとフランス		19世紀のイギリスやフランスの政治や経済における変化、および市民社会の成立について学ぶ。	

後期		12週	ドイツとイタリアの統一	ドイツとイタリアにおける国民国家の形成過程について学び、日本との共通点、相違点を理解する。			
		13週	19世紀のロシアと東方問題	ロシアの南下政策が周辺諸国に及ぼした影響。クリミア戦争。ロシアの国内改革。			
		14週	19世紀のアメリカ合衆国	南北戦争期のアメリカについて学ぶ。奴隷制廃止と人種主義の台頭。			
		15週	前期定期試験				
		16週	世界市場の形成	「バクス＝ブリタニカ」時代の世界経済について学ぶ。			
	3rdQ	1週	アジアの変容と日本の近代化（１）	イスラーム世界の改革と再編。オスマン帝国とエジプトにおける改革と挫折について学ぶ。			
		2週	アジアの変容と日本の近代化（２）	19世紀の清王朝の動揺と改革（１）——冊封体制とアヘン戦争			
		3週	アジアの変容と日本の近代化（３）	19世紀の清王朝の動揺と改革（２）——太平天国と洋務運動			
		4週	アジアの変容と日本の近代化（４）	岩倉使節団および明治初期における清、朝鮮との外交関係について学ぶ。			
		5週	アジアの変容と日本の近代化（５）	明治初期における清、朝鮮との外交関係について学ぶ。			
		6週	アジアの変容と日本の近代化（６）	土族の反乱および1870年代の自由民権運動の高まりについて学ぶ。			
		7週	アジアの変容と日本の近代化（７）	1880年代における自由民権運動の行き詰まりと松方財政について学ぶ			
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	アジアの変容と日本の近代化（８）	大日本帝国憲法の制定と帝国議会の開設について学ぶ。			
		10週	帝国主義の時代（１）	第二次産業革命の進行と独占資本の形成が帝国主義をもたらすプロセスについて学ぶ。			
		11週	帝国主義の時代（２）	帝国主義の時代の欧米社会の諸側面。国民統合の試みや人種差別の思想の台頭について学ぶ。			
		12週	日清戦争	日清戦争とその後の展開、および1890年代の日本の政治について学ぶ。			
		13週	日露戦争から韓国併合へ（１）	1890年代の中国における改革と挫折（戊戌の変法）。義和団戦争。日露戦争の勃発について学ぶ。			
		14週	日露戦争から韓国併合へ（２）	日露戦争の結果、および韓国併合のプロセスについて学ぶ。			
		15週	後期定期試験				
		16週	まとめ	19世紀までの世界および日本の歴史についての総括			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号		1A004		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		1	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材							
担当教員		櫻岡 広					
到達目標							
☐ スポーツテストで自分自身の体力を知ることが出来る ☐ 救命処置を確実にすることが出来る ☐ 自分自身の適度な運動量を知ることが出来る ☐ エイズについて理解することが出来る							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		スポーツテストを通じて、自分の限界と適切な運動量を知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができない	
評価項目2		用具などの位置を把握し、救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができない	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		前期 ・スポーツテスト {自分自身の能力（体力）を知る} ・心拍数の測定（講義） ・球技大会の練習（スポーツ種目別の練習） ・心肺蘇生法（講義＆実習） 後期 ・至適歩行速度の説明（講義） ・トレーニング1 至適歩行速度を求める。 ・サッカー ・AIDSについて（講義）					
授業の進め方・方法		教科書は使わない、必要に応じてプリントを配布					
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		1年間の授業の説明・注意事項		
		2週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		3週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		4週	講義		身体活動の仕組みとそれを行うためのエネルギー産生について理解する		
		5週	スポーツテスト		持久走		
		6週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		7週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		8週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
	2ndQ	9週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		10週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		11週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		12週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		13週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		14週	救命処置（テスト）		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		15週	救命処置（テスト）		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		16週					
後期	3rdQ	1週	講義		至適運動強度について説明する		
		2週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		3週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		4週	テストⅠ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		5週	テストⅡ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		6週	テストⅢ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		7週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）		
		8週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）		

	4thQ	9週	フットサル	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）
		10週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		11週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		12週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		13週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		14週	講義	エイズについて理解する
		15週	講義	エイズについて理解する
		16週		

評価割合							
	試験	スポーツテスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	20	0	10	100
基礎的能力	0	10	0	20	0	10	40
専門的能力	60	0	0	0	0	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語表現
科目基礎情報						
科目番号	1A006		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Martin, David (2008) "Talk a Lot: Starter Book," EFL Press.					
担当教員	ウィリアム ファッセル					
到達目標						
Students can understand the basics of spoken English and make attempts to improve. Students can communicate in English regardless of proficiency level. Students can write simple sentences in English. Students can make effort to learn about other cultures.						
ルーブリック						
	Ideal Level		Standard Level		Unacceptable Level	
Achievement 1	Students are able to understand the textbook and written assignments accurately.		Students are able to adequately understand the textbook and written assignments.		Students are not able to understand the textbook and written assignments adequately.	
Achievement 2	Students are able to express themselves confidently and make earnest effort to improve.		Students are able to express themselves but are sometimes hesitant to speak.		Students are not able to express themselves, nor make any effort to improve.	
Achievement 3	Students seek every possible opportunity to use English in the classroom activities.		Students make a moderate effort to use English in the classroom activities.		Students make minimal to no effort to use English in the classroom activities.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The students will be learning common conversation phrases with basic grammar, and appropriate vocabulary from the textbook. The focus of the class will be improving confidence in speaking. To do this, students will participate in three types of presentations—individual, with pairs and in groups. Last, they will improve their vocabulary through creative writing exercises.					
授業の進め方・方法	Most classes will have textbook work with phrases and vocabulary that will involve individual work, pair work and group work. There will be supplementary activities to help students become familiar with textbook vocabulary and phrases and listening activities to enhance understanding of foreign cultures. Some classes will include writing activities where students express themselves freely. Exams given will cover the textbook and all materials, including presentations, done in the class.					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Introduction. Orientation. Unit 1 Vocab. Write Self-Intro and Begin Self-Intros.	Understanding class rules. Get to know friends and teacher.		
		2週	Finish Self-Intros. Learn Useful Classroom English. Unit 1 Board Game. Writing Practice.	Talk about feelings. Self-introduction presentation. Learn writing prompts.		
		3週	Unit 1 Listening. Get to Know Your Teacher. Interview Your Friend and Prepare Presentation.	Learn new words. Listening clearly. Communicate with friends.		
		4週	Introduce Friend. Unit 2 Dates & Ordinal Numbers. Japanese holidays/events/birthdays.	Presentation. Learn ordinal and large numbers. Practice Japanese holidays/events and dates.		
		5週	Unit 2 Finish Unit. Weather, world cities. Listening. Writing.	Simple present/past. Adverbs of Time. Weather vocabulary. Pronouncing world places.		
		6週	Unit 3 Personal Information. Interviews. Listening. Writing activity.	Wh-questions; pronouns. How to study for test. Learn fall words.		
		7週	Unit 3 Finish Unit. Explain test. Presentation. Exam preparation. Interview practice.	Review and study.		
		8週	Midterm Exam includes material from Units 1, 2 and 3, and worksheets.	Problem solving.		
	2ndQ	9週	Interview Test. Self-study.	Take interview test.		
		10週	Pass back exam with explanation of answers. Unit 4 Likes and Dislikes. Listening.	Talk about your favorites. Sharing information about classmates.		
		11週	Unit 6 Worksheet. Listening activity. Interview teacher. Prepare presentation.	Learn adverbs of frequency and use ‘How often’ questions.		
		12週	Presentation-partner. Begin Unit 10. Group work.	Present info about friend clearly. Work cooperatively with group.		
		13週	Group Presentation. Unit 10: Listening. Communication Activity.	Present info about your group in a fun way. Prepare for test.		
		14週	Interview Test. Self-study for exam.	Take interview test.		
		15週	Final Exam includes materials from Units 1-3, 4, 6, 10 and worksheets.	Problem solving.		
		16週	Return the final exam. English conversation games and songs.	Review the exam. Enjoy final class with conversation and songs.		
評価割合						

	Examination	Other	合計
総合評価割合	80	20	100
Basic Proficiency	80	20	100

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語A
科目基礎情報						
科目番号	1A007		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『MY WAY : English Communication I 』三省堂 『フェイバリット英単語・熟語　コーパス4500』東京書籍					
担当教員	横山 孝一					
到達目標						
1. 教科書で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 教科書の英文を読み、内容が理解できる。 4. 教科書の英語を聞いて理解することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	教科書で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が理解できない。	
評価項目 2	教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することができる。		教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。	
評価項目 3	教科書の英文を読み、内容がよく理解できる。		教科書の英文を読み、内容がある程度理解できる。		教科書の英文の内容が理解できない。	
評価項目 4	教科書の英語を聞いて内容をよく理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容をある程度理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教科書の英文読解・練習問題・リスニング問題を通じて、総合的な英語力の基礎構築を目標とする。 具体的には、英検準2級～2 級レベルの英語運用能力を目指す。					
授業の進め方・方法	冒頭で、人生の指針となる英語のことわざ名言を紹介する。教科書の英文読解を毎回 3 名の学生に発表してもらい、難しいところなどがどこか全員で考える。レッスンごとに配布する語句プリントを全員に記入してもらい、それを使って音読の練習をする。新出単語はネイティブの音声でアクセントに注意しながら練習する。本文の読解を演習形式で進め、重要な文法事項等について解説を加える。 教科書の練習問題を全員で行ない、答え合わせをする。毎回、習った構文・表現・文法を用いるオリジナルの英訳問題を宿題とし、次回、ことわざのあとに確認して応用力を養う。 中間試験と定期試験の 2 週間前に復習小テストを実施し、学習事項の要点を確認する。					
注意点	外国語を身につけるには、まず授業の予習復習を習慣づける必要があります。具体的には、英語と日本語の違いがひと目でわかる「対訳ノート」を作ってください。そのためのノートを早めに用意しておくこと。辞書を活用することで英語力が飛躍的に向上するので、辞書を引いて例文を対訳ノートに書き加えていくこともお勧めします。音声は教科書のQRコードを使って聞くことができるので自宅で活用しましょう。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Part 1		英語の学習方法を知ることができる。 動詞の現在形と過去形が理解できる。	
		2週	Lesson 1 Part 2		現在進行形の使い方が理解できる。	
		3週	Lesson 1 Part 3 総復習		SVOが理解できる。 Lesson 1 で学習した語彙・文法が理解できる	
		4週	Lesson 2 Part 1		助動詞が理解できる。	
		5週	Lesson 2 Part 2		受け身が理解できる。	
		6週	復習小テスト Lesson 2 Part 3		自分の弱点が理解できる。 助動詞のついた受け身が理解できる。	
		7週	答案返却と解説 Lesson 3 Part 1		前期中間試験範囲の要点が理解できる。 動名詞が理解できる。	
		8週	前期中間試験		上記項目の理解度が確認できる。	
	2ndQ	9週	答案返却と解説 Lesson 3 Part 2		前期中間試験の間違ったところが理解できる。 to不定詞の名詞的・副詞的用法が理解できる。	
		10週	Lesson 3 Part 3 総復習		to不定詞の形容詞的用法が理解できる。	
		11週	Lesson 5 Part 1		関係代名詞（主格）が理解できる。	
		12週	Lesson 5 Part 2		関係代名詞（目的格）が理解できる。	
		13週	復習小テスト Lesson 5 Part 3		自分の弱点が理解できる。 関係代名詞 what が理解できる。	
		14週	答案返却と解説 Lesson 5 Part 4		前期定期試験範囲の要点が理解できる。 It is + 形容詞 + to不定詞が理解できる。	
		15週	前期定期試験		上記項目の理解度が確認できる。	
		16週	答案返却と解説 Lesson 6 Part 1		前期定期試験の間違ったところが理解できる。。 現在分詞の形容詞的用法が理解できる。	
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Part 1		関係副詞 where が理解できる。	
		2週	Lesson 7 Part 2		関係副詞 when が理解できる。	

		3週	Lesson 7 Part 3	関係副詞 why が理解できる。
		4週	Lesson 7 Part 4 総復習	比較級・最上級が理解できる。 Lesson 7 で学習した語彙・文法が理解できる。
		5週	Lesson 8 Part 1	条件を表わす if 節が理解できる。
		6週	復習小テスト Lesson 8 Part 2	自分の弱点が理解できる。 仮定法過去が理解できる。
		7週	答案返却と解説 Lesson 8 Part 3	後期中間試験範囲の要点が理解できる。 i wish～が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目の理解度が確認できる。
	4thQ	9週	答案返却 Lesson 8 Part 4	後期中間試験の間違ったところが理解できる。 as if ～ が理解できる。
		10週	Lesson 9 Part 1	how to～ の第4 文型が理解できる。
		11週	Lesson 9 Part 2	SVO + to不定詞が理解できる。
		12週	Lesson 9 Part 3	SVOC（動詞の原形）が理解できる。
		13週	復習小テスト Lesson 9 Part 4	自分の弱点が理解できる。 SVOC（現在分詞）が理解できる。
		14週	復習小テスト返却と解説 Lesson10 Model 1	後期定期試験範囲の要点が理解できる。 プレゼンの基礎が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目の理解度が確認できる。
		16週	答案返却と解説 Lesson10 Model 2	後期定期試験の間違ったところが理解できる。 プレゼンの方法が理解できる。
評価割合				
	中間・定期試験	小テスト等	合計	
総合評価割合	80	20	100	
前期	40	10	50	
後期	40	10	50	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語B
科目基礎情報						
科目番号	1A008		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	dual scope English grammar in 22 stages					
担当教員	伊藤 文彦					
到達目標						
☐ 基本的な英文を読んで理解することができる(reading)。 ☐ 基本的な英文を発音することができる(speaking---発音・アクセント含む)。 ☐ 基本的な英文の構造・構文を文法的に理解できる(grammar)。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
reading	基本的な英文を読んで理解することができる		ある程度、基本的な英文を読んで理解することができる		基本的な英文を読んで理解することができない	
speaking	基本的な英文を発音することができる		ある程度、基本的な英文を発音することができる		基本的な英文を発音することがよくできない	
grammar	英文の構造・構文を文法的によく理解できる		ある程度、英文の構造・構文を文法的に理解できる		英文の構造・構文を文法的に理解できない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・体系的な文法法則を理解する。 ・文法を理解するかたわら、スピーキング力とリーディング力を身につける。					
授業の進め方・方法	教科書を中心に基本的な文法事項について学習する。					
注意点	辞書を持参すること(スマートフォン辞書は反応速度が悪く、基礎学力をつける英語学習者には不向きのため不可)。 English proficiency will be yours by virtue of daily continious practice.					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	introduction---part of speech pp.4-7		comprehend part of speech, clause, and phrase	
		2週	sentence pattern pp.10-13		comprehend five sentence patterns	
		3週	sentence pattern pp.10-13		comprehend five sentence patterns	
		4週	lesson 1, 2, 3, 4		comprehend tense	
		5週	lesson 1, 2, 3, 4		comprehend tense	
		6週	lesson 5, 6		comprehend auxiliary verb	
		7週	mid-term exam		review	
		8週	answer; lesson 7, 8		review; comprehend active and the passive voices	
	2ndQ	9週	lesson 9, 10, 11		comprehend infinitive; speaking---アオの音について	
		10週	lesson 9, 10, 11		comprehend infinitive	
		11週	lesson 9, 10, 11		comprehend gerund	
		12週	lesson 12, 13		comprehend gerund	
		13週	lesson 12, 13		comprehend participle	
		14週	lesson 14, 15; English for fun		comprehend participle; speaking---シュワサウンドについて	
		15週	final exam		review	
		16週	review		review	
後期	3rdQ	1週	lesson 14, 15		comprehend participle	
		2週	lesson 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15---reading activity		read passages	
		3週	lesson 16, 17		contrast	
		4週	lesson 16, 17		contrast	
		5週	speaking activity		1 paragraph writing and presentation	
		6週	lesson 18, 19, 20		comprehend relative pronoun	
		7週	lesson 18, 19, 20		comprehend relative pronoun; speaking---逆vの音について	
		8週	mid-term exam		review	
	4thQ	9週	review; lesson 18, 19, 20		review; comprehend relative pronoun	
		10週	lesson 18, 19, 20		comprehend relative pronoun	
		11週	lesson 21, 22		comprehend subjunctive mood	
		12週	lesson 21, 22		comprehend subjunctive mood; speaking---/ou/の音について	
		13週	lesson 1-22---reading activity		comprehend English grammar; read passages; improve writing skills---simple sentence	

		14週	lesson 1-22---reading/writing activity; English for fun			comprehend English grammar; improve writing skills---compound sentence, complex sentence	
		15週	final exam			review	
		16週	review			review	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
mid	40	0	0	0	0	10	50
final	40	0	0	0	0	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学A I
科目基礎情報						
科目番号	1A009		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	4		
教科書/教材	新基礎数学改訂版（大日本図書） / 新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	清水 理佳					
到達目標						
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。 1. 方程式と不等式 □ 2次方程式と2次不等式を解くことができる。 □ いろいろな方程式・不等式を解くことができる。 □ 方程式と恒等式の違いを説明でき、恒等式になるための条件を定めることができる。 □ 等式と不等式の証明を行うことができる。 □ 必要条件か十分条件かを、真理集合を考えて判定することができる。 □ 命題の逆・裏・対偶を述べることができる。 □ もとの命題とその対偶の真偽が一致することを納得し、証明問題に応用することができる。 2. 関数とグラフ □ 2次関数のグラフの概形を、基本的性質を考えながらかくことができる。 □ 2次関数の最大値・最小値を、グラフをかくて求めることができる。 □ 「2次関数のグラフ」、「2次方程式・不等式」、「判別式」の関係を説明できる。 □ べき関数・分数関数・無理関数のグラフをかくことができる。 □ 関数のグラフを平行移動・対称移動・拡大（収縮）したグラフが表す関数を求めることができる。 □ 関数の逆関数を求めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	複雑な方程式・不等式を基礎的知識を組み合わせて解くことができる。		教科書の例題レベルの方程式や不等式を正確に解くことができる。		教科書の例題レベルの方程式や不等式を解法が身についていない。	
評価項目2	式の変形や論証の過程を、基礎的知識を組み合わせて、厳密に書くことができる。		教科書の例題レベルの証明問題を解くことができる。		基本的な証明方法が身についていない。	
評価項目3	グラフの平行移動などの基礎的知識を組み合わせて、関数の決定ができたり、未定係数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。		教科書の例題レベルの関数のグラフを描くことができる。		関数の基本的性質が身についていないため、グラフをかくことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 方程式と不等式 ・方程式と不等式を解くための処理能力や、2次方程式の解と係数の関係など基本知識の習得を図る。 ・方程式と恒等式の違いや命題に関する基本的事柄、等式・不等式の証明を通じて論理的能力を養う。 2. 関数とグラフ ・2次関数のグラフの頂点や軸などの基本的知識を解説し、論理的思考と計算力を同時に養う。 ・2次関数、べき関数、分数関数、無理関数のグラフをかく練習をする。 また、平行移動・対称移動・拡大（縮小）の有用性を解説する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	2次方程式	2次方程式を解の公式を用いて解くことができ、解と係数の関係を説明できる。		
		2週	いろいろな方程式	高次方程式、連立方程式、分数や根号を含む方程式を解くことができる。		
		3週	恒等式・等式の証明	方程式と恒等式の違いを説明でき、恒等式になるための条件を定めることができる。また、等式の証明法を身につける。		
		4週	1次不等式	不等式の基本的性質を理解し、1次不等式を解くことができる。		
		5週	いろいろな不等式	2次不等式、高次不等式を解くことができる。		
		6週	不等式の証明	不等式の証明法を身につける。		
		7週	集合	2つの集合の共通部分、和集合、補集合の概念を理解し、ド・モルガンの法則を説明できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	命題	必要条件か十分条件かを、真理集合を考えて判定することができる。また、もとの命題とその対偶の真偽が一致することを納得し、証明問題に応用することができる。		
		10週	2次関数のグラフ	2次関数のグラフの概形を、基本的性質を考えながらかくことができる。		

		11週	2次関数の最大・最小	2次関数の最大値・最小値を，グラフをかいて求めることができる。
		12週	2次関数と2次方程式・不等式	「2次関数のグラフ」，「2次方程式・不等式」，「判別式」の関係を説明できる。また，任意の2次不等式を解くことができる。
		13週	べき関数と分数関数	グラフの平行移動を用いて，べき関数と分数関数のグラフをかくことができる。
		14週	無理関数	グラフの対称移動・拡大（縮小）に対応する関数を理解し，無理関数のグラフをかくことができる。
		15週	逆関数	逆関数を求める方法を身につけ，実際に求めることができる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学AⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	1A010			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	新基礎数学改訂版（大日本図書） / 新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）						
担当教員	清水 理佳						
到達目標							
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。							
1. 三角関数							
□鋭角に対する三角比の定義を直角三角形を用いて述べることができる。							
□正弦定理や余弦定理を用いて、図形の長さや角度、面積を求めることができる。							
□一般角において三角比の定義（単位円を用いた定義）を述べることができる。							
□三角関数の諸公式（加法定理、2倍角の公式、合成など）を駆使した計算ができる。							
□三角関数のグラフを用いて、三角方程式や不等式を解くことができる。							
2. 指数関数と対数関数							
□指数の考え方を、実数まで拡張して扱うことができる。							
□指数関数と対数関数の関係を説明することができる。							
□対数関数の諸公式が成り立つことを、定義に従って説明できる。							
□対数関数の諸公式を用いて、対数関数を含む式の計算ができる。							
□常用対数を用いて、自然数の桁数を求めることなどへの応用ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		三角比および三角関数の定義を理解し、複雑な三角方程式や不等式を正確に解くことができる。		三角比および三角関数の定義を理解し、三角方程式や不等式を解くことができる。		三角比および三角関数の定義を理解できず応用できない。	
評価項目2		正弦定理や余弦定理の仕組みを十分理解し、図形の長さや角度、面積を求めることができる。		正弦定理や余弦定理を用いて図形の長さや角度、面積を求めることができる。		正弦定理や余弦定理を使うことができない。	
評価項目3		指数関数や対数関数の定義や性質を理解し、諸公式を導き様々な問題に的確に応用できる。		指数関数と対数関数の定義や性質を理解し、諸公式を様々な問題に応用できる。		指数関数や対数関数の定義や性質を理解できず応用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		1. 三角関数 ・三角比とその応用について解説する（正弦定理、余弦定理など）。 ・三角関数の諸公式（加法定理、2倍角の公式、合成など）を解説し、論理的思考能力や図形的考察力を養う。 ・三角関数の諸公式を駆使した計算の習熟を図る。 ・三角関数のグラフと、三角方程式や不等式へ応用を解説し習熟を図る。 2. 指数関数と対数関数 ・指数の考え方が、実数にまで拡張できることを解説する。 ・指数関数と対数関数の関係やグラフについて解説する。 ・指数関数を含んだ式の計算に習熟する。 ・指数及び対数関数の有用性を応用問題を通して解説し、その演習も行う。					
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	三角比とその応用（1）		鋭角の三角比が理解できる。		
		2週	三角比とその応用（2）		鈍角の三角比が理解できる。		
		3週	三角比とその応用（3）		正弦定理、余弦定理、三角比と三角形の面積の関係が理解できる。		
		4週	三角関数（1）		一般角と弧度法が理解できる。		
		5週	三角関数（2）		三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		6週	三角関数（3）		三角関数の方程式、不等式が解ける。		
		7週	加法定理とその応用（1）		加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	加法定理とその応用（2）		加法定理の応用ができる。		
		10週	指数関数（1）		累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。		
		11週	指数関数（2）		指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		12週	指数関数（3）		指数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
		13週	対数関数（1）		対数の性質を理解し、簡単な計算ができる。		
		14週	対数関数（2）		対数関数のグラフをかくことができ、対数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
		15週	対数関数（3）		常用対数を使うことができる。		

		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	1A011		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:4 後期:2		
教科書/教材	教科書：新基礎数学改訂版（大日本図書） 問題集：新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	山内 啓					
到達目標						
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。						
1. 数と式の計算						
☐ 整式の加減乗除の計算、および因数定理等を利用した簡単な因数分解ができる。						
☐ 分数式の加減乗除の計算ができる。						
☐ 実数の絶対値について理解し、計算ができる。						
☐ 分母の有理化等の平方根の計算ができる。						
☐ 複素数の相等を理解し、加減乗除および絶対値の計算ができる。						
☐ 複素数における概念（共役、大きさなど）を、複素数平面上で説明・考察できる。						
2. 図形と式						
☐ 与えられた2点から距離や内分点を求めることができる。						
☐ 直線および円の方程式を求めることができる。						
☐ 2直線が平行・垂直になるための条件を学び、関連する問題へ応用できる。						
☐ 放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。						
☐ 二次曲線について、方程式とグラフの概形の関係を説明できる。						
☐ (連立) 不等式の表す領域を図示することができる。						
3. 数列と場合の数						
☐ 積の法則と和の法則を利用して、場合の数を求めることができる。						
☐ 積の法則と和の法則を理解し、順列および組合せの計算ができる。						
☐ 二項定理が成り立つことを納得し、実際に適用できる。						
☐ 等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。						
☐ 数列の和を総和記号を用いて表し、その和を求めることができる。						
☐ 数学的帰納法を用いて、自然数を含んだ命題の証明ができる。						
☐ 漸化式の意味を納得し、実際に漸化式を解くことができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		数と式についての複雑な計算ができる	数と式についての基本的な計算ができる	数と式についての基本的な計算ができない		
評価項目2		複雑な図形の性質を調べる事ができる	基本的な図形の性質を調べる事ができる	基本的な図形の性質を調べる事ができない		
評価項目3		場合の数の複雑な計算をすることができる	場合の数の基本的な計算をすることができる	場合の数の基本的な計算をすることができない		
評価項目4		数列の複雑な計算をすることができる	数列の基本的な計算をすることができる	数列の基本的な計算をすることができない		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 数と式の計算 ・ 整式の計算技能の習熟を図る（整式の加減乗除、因数分解）。 ・ 整式の性質の理解を図る（剰余の定理、因数定理など）。 ・ 数概念（実数、複素数）の理解と演算の習得を図る。 ・ 複素数平面を導入し、複素数は実数の拡張であることを実感させる。 2. 図形と式 ・ 座標平面における2点間の距離、直線の方程式、点と直線の距離の公式とその習熟を図る。 ・ 直線や2次曲線の方程式とグラフについて解説し、その習熟を図る。 ・ 座標平面を利用して、図形を数式で表せることの有用性を実感させる。 ・ 方程式が表す曲線だけではなく、（連立）不等式の表す領域についても解説し、その習熟を図る。 3. 数列と場合の数 ・ 順列、組合せに関する基本的な考え方を習熟する。 ・ 二項定理を解説し、実際に適用できるようにする。 ・ 等差数列と等比数列の一般項や、シグマ記号を用いていろいろな数列の和を取り扱う。 ・ 数学的帰納法のしくみを例を挙げて解説し、面白さを伝え、適用できるようにする。 ・ 漸化式の意味を解説し、実際に漸化式を解く技能を習熟する。					
授業の進め方・方法	高専での授業は座学が中心であるが、その授業形式は担当教員によって様々であるが、どの方法も高専で学修する上で必要なことである。 授業では各自の学び方によってその日の内容を理解することに注力するようにつとめてほしい。					
注意点	授業の受け方、ノートのとり方、解答の書き方など、高専での学習方法をなるべく早く身につける必要がある。 授業で学習した方法を参考にして教科書の問、練習問題をすべて解き、また必ずしも授業では取り上げられない教科書併用の問題集などの問題も積極的に解くことがのぞましい。 数学Bで学習する内容は、今後学習する数学や専門科目でもよく使われるので、授業の予習・復習と、自発的な問題演習に取り組むことを強くのぞまれる。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	整式の計算	整式の加減乗除の計算ができる。		
		2週	整式の計算	公式等を利用して因数分解ができる。		
		3週	整式の計算	公式等を利用して因数分解ができる。		
		4週	整式の計算	分数式の加減乗除の計算ができる。		

		5週	いろいろな数と式	分数式の加減乗除の計算ができる。
		6週	いろいろな数と式	実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の基本的な計算ができる。
		7週	いろいろな数と式	複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	点と直線	2点間の距離を求めることができる。
		10週	点と直線	内分点の座標を求めることができる。
		11週	点と直線	通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。 2つの直線の平行・垂直条件を理解している。
		12週	2次曲線	基本的な円の方程式を求めることができる。
		13週	2次曲線	楕円・双曲線・放物線の方程式を求めることができる
		14週	2次曲線	領域について理解できる
		15週	練習問題	章末問題や問題集が解ける。
		16週		
後期	3rdQ	1週	場合の数	積の法則と和の法則の違いを理解することができる
		2週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		3週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		4週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		5週	場合の数	二項定理をつかって多項式の計算ができる
		6週	場合の数	二項定理をつかって多項式の計算ができる
		7週	場合の数	章末問題や問題集が解ける。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	数列	数列のしくみを理解することができる
		10週	数列	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		11週	数列	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		12週	数列	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。
		13週	数列	漸化式を表すことができ、漸化式から一般項を求めることができる。
		14週	数列	数学的帰納法を用いて証明することができる。
		15週	練習問題	章末問題や問題集が解ける。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	生物
科目基礎情報						
科目番号	1A012			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	生物基礎（東京書籍）／レッツトライノート（東京書籍、問題集）／生物図録（数研出版）					
担当教員	石川 英司					
到達目標						
☐ 生物の多様性と共通性、共通性としての細胞や生命活動とエネルギーについて理解できる。 ☐ 遺伝子であるDNAとその働きについて理解できる。 ☐ 生物の体内環境の維持の仕組みについて理解できる。 ☐ 植生遷移、生物多様性とバイオーム、生態系の保全について理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	細胞器官について理解し、呼吸や光合成、ATPや酵素の働きについてそのメカニズムの概要を説明できる。		真核細胞と原核細胞の違いを説明できる。呼吸や光合成、ATPや酵素の働きについて理解している。		呼吸や光合成、ATPや酵素といった用語を用いて説明できない。	
評価項目2	遺伝子の本体としてのDNAの構造の機能について理解し、その複製、転写や翻訳、ゲノムについて説明できる。		遺伝子の本体がDNAであることや、その複製、タンパク質合成について説明できる。		遺伝子の本体としてのDNAの構造と働き（タンパク質合成など）について説明できない。	
評価項目3	恒常性の維持について、ホルモン、脳神経系、生体防御の各面から説明できる。		生物の環境応答としての恒常性について説明できる。		生物の環境応答としての恒常性について説明できない。	
評価項目4	植生遷移やバイオームの形成メカニズムや生態系における物質の流れとその保全について説明できる。		植生遷移やバイオームを形成する要因、生態系や生物多様性の保全について説明できる。		植生遷移やバイオームを形成する要因、生態系や生物多様性の保全について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度を身につける。生物学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的な見方や考え方を養う。地球をその外部や内部から概観するとともに、生命や人間活動とのかかわりについて理解と関心を高める。					
授業の進め方・方法	教科書、図録、配布するプリントを用い、板書を中心に授業を進める。必要に応じてパワーポイント、動画などの視聴覚教材を併用したり、グループや個人でのワークも含めて学生の積極的な参加を促しながら実施する。					
注意点	ノートとしっかりとり、プリントもファイルするかノートに貼るなどして整理して散逸しないようにすること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	生物の多様性と共通性（1）		細胞のつくりについて理解している。	
		2週	生物の多様性と共通性（2）		真核細胞と原核細胞について理解している。	
		3週	生命活動とエネルギー（1）ATPと酵素		生体のエネルギー通貨ATPについて理解している。	
		4週	生命活動とエネルギー（2）光合成と呼吸		光合成と呼吸、エネルギーや物質の収支について理解している。	
		5週	生命活動とエネルギー（3）ミトコンドリアと葉緑体の起源		ミトコンドリアと葉緑体の構造と機能、その起源について理解している。	
		6週	植生の多様性と遷移（1）		植生とその環境について理解している。	
		7週	前期中間試験			
		8週	植生の多様性と遷移（2）		植生の遷移について理解している。	
	2ndQ	9週	実習 1 真核細胞を顕微鏡で観察してみよう		真核細胞の構造について、観察を通じて理解している。	
		10週	植生遷移とバイオーム（1）		気候とバイオームについて理解している。	
		11週	植生遷移とバイオーム（2）		世界と日本のバイオームについて理解している。	
		12週	生態系とその保全（1）		生態系と物質の循環について理解している。	
		13週	生態系とその保全（2）		生態系におけるエネルギーの流れ、生態系のバランスと保全について理解している。	
		14週	生態系とその保全（3）		生態系のバランスと保全について理解できる。	
		15週	定期試験			
		16週	太陽系の中の地球とその成り立ち・環境		太陽系の中の地球とその成り立ちについて理解している。	
後期	3rdQ	1週	生物と遺伝子（1）		遺伝子の本体がDNAであること、その働きについて理解している。	
		2週	生物と遺伝子（2）		DNAの構造、ゲノムと遺伝情報について理解している。	
		3週	実習 2 植物からDNAを抽出してみよう		植物からDNAを取り出す実験を通じて、DNAとその性質について理解できる。	

		4週	遺伝情報の分配（１）	細胞分裂とDNAの関係について理解している。
		5週	遺伝情報の分配（２）	細胞周期と遺伝情報の複製について理解している。
		6週	遺伝情報とタンパク質の合成（１）	遺伝情報をもとにしたタンパク質合成の過程について理解している。
		7週	遺伝情報とタンパク質の合成（２）	遺伝子発現とその調節について理解している。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	体内環境（１）	体内環境の特徴、心臓と血液の循環について理解している。
		10週	体内環境（２）	血液の成分、肝臓や腎臓のはたらきについて理解している。
		11週	体内環境維持のしくみ（１）	神経系、とくに自律神経系による調節について理解している。
		12週	体内環境維持のしくみ（１）	内分泌系とホルモンのはたらきについて理解している。
		13週	免疫（１）	生体防御のいろいろな段階（自然免疫・適応免疫など）とそれらのしくみについて理解している。
		14週	免疫（２）	体液性免疫・細胞性免疫について理解し、免疫応答と病気の関係、免疫の応用についても理解している。
		15週	後期定期試験	
		16週	まとめ	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	0	10	0	0	100
基礎的能力	60	5	0	5	0	0	70
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	5	0	5	0	0	20

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	力学基礎	
科目基礎情報							
科目番号	1A013			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	総合物理 1 ー力と運動・熱ー, 新課程 リードα 物理基礎・物理, フォローアップドリル物理基礎/物理, 改訂版フォトサイエンス物理図録						
担当教員	矢口 久雄						
到達目標							
☐ 高校物理程度の力学の基礎を理解し, 代表的な系について運動方程式を立てることができる。 ☐ 質点の位置・速度・加速度を求めることができる。 ☐ 力学的エネルギー保存則と運動量保存則を使うことができる。 ☐ 運動方程式や各種保存則を利用し, 質点の運動を扱うことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を深く理解し, 発展的な問題に適用できる。		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解し, 基本的な問題に適用できる。		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解しておらず, 基本的な問題に適用できない。	
評価項目2		運動の法則に関する基本的な考え方を深く理解し, 質点や剛体のつりあいや, 質点の運動に関する発展的な問題に適用できる。		運動の法則に関する基本的な考え方を理解し, 質点や剛体のつりあいや, 質点の運動に関する基本的な問題に適用できる。		運動の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず, 質点や剛体のつりあいや, 質点の運動に関する基本的な問題に適用できない。	
評価項目3		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を深く理解し, 発展的な問題に適用できる。		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解し, 基本的な問題に適用できる。		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解しておらず, 基本的な問題に適用できない。	
評価項目4		運動方程式や各種保存則, 万有引力の法則に関する基本的な考え方を深く理解し, 等速円運動や単振動, 惑星の運動に関する発展的な問題に適用できる。		運動方程式や各種保存則, 万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解し, 等速円運動や単振動, 惑星の運動に関する基本的な問題に適用できる。		運動方程式や各種保存則, 万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず, 等速円運動や単振動, 惑星の運動に関する基本的な問題に適用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		高校物理の教科書にほぼ則して, 力学について講義します。					
授業の進め方・方法		座学					
注意点		【事前に行う準備学習】教科書の解説を読み, 例題や演習問題を解くことで基礎的な理解を深めておくこと。 様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	運動の表し方(1)		等速直線運動		
		2週	運動の表し方(2)		変位・速度・平均速度・瞬間の速度		
		3週	運動の表し方(3)		速度の合成・相対速度		
		4週	加速度		等加速度直線運動		
		5週	落体の運動(1)		自由落下・鉛直投射		
		6週	落体の運動(2)		水平投射		
		7週	落体の運動(3)		斜方投射		
		8週	前期中間試験		第7週までの内容		
	2ndQ	9週	力のつりあい		力のつりあい・作用反作用の法則		
		10週	運動の法則(1)		運動方程式		
		11週	運動の法則(2)		運動方程式を用いた質点の運動の解析		
		12週	摩擦を受ける運動		静止摩擦力・動摩擦力		
		13週	液体や気体から受ける力		圧力・浮力・空気の抵抗		
		14週	剛体にはたらく力のつりあい		力のモーメント・剛体のつりあい・剛体にはたらく力の合力・偶力・重心		
		15週	前期定期試験答案返却		答案返却・まとめ		
		16週					
後期	3rdQ	1週	仕事		仕事・仕事の原理・仕事率		
		2週	運動エネルギー, 位置エネルギー		運動エネルギー・重力の位置エネルギー・弾性力の位置エネルギー		
		3週	力学的エネルギーの保存(1)		力学的エネルギー保存則		
		4週	力学的エネルギーの保存(2)		力学的エネルギー保存則の応用		

		5週	運動量と力積	運動量・力積・運動量と力積の関係
		6週	運動量保存則	運動量保存則
		7週	反発係数	反発係数・2物体の衝突
		8週	後期中間試験	第7週までの内容
	4thQ	9週	等速円運動(1)	単振動の角速度・周期・回転数
		10週	等速円運動(2)	等速円運動の加速度・等速円運動に必要な力
		11週	慣性力	慣性力
		12週	単振動(1)	単振動の変位・速度・加速度
		13週	単振動(2)	単振動に必要な力・単振動の運動方程式とその応用
		14週	万有引力	ケプラーの法則・万有引力
		15週	後期定期試験答案返却	答案返却・まとめ
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語表現
科目基礎情報						
科目番号	1A015		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	探求 現代の国語：桐原書店：9784342121012					
担当教員	田貝 和子					
到達目標						
☐ 論理的な文章を客観的に理解することができる。 ☐ 論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。 ☐ 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 ☐ 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章を客観的に理解することが十分にできる。		論理的な文章を客観的に理解することができる。		論理的な文章を客観的に理解することができない。	
評価項目2	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することが十分にできる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができない。	
評価項目3	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることが十分にできる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、文章表現力の錬成も兼ねて「論旨の要旨」をまとめる作業を行う。					
授業の進め方・方法	1 学年の国語表現では、読むことを中心に行います。正確に読解することを通じて、考える力を身につけてください。それが、自分の考えを他人に正確に伝えるための表現力につながります。					
注意点	ノートを一冊用意してください。また、国語辞典も常に机の上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
		2週	口語文法		常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	
		3週	体験と思索Ⅰ 読書は必要か？ 1		筆者のものの見方や感じ方を理解することができる。	
		4週	体験と思索Ⅰ 読書は必要か？ 2		読書について考えることができる。	
		5週	評論Ⅰ 言葉の力 1		文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることができる。	
		6週	評論Ⅰ 言葉の力 2		日本の言葉について自分の考えを深めることができる。	
		7週	評論Ⅰ 言葉の力 3		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。	
		8週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 1		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
	2ndQ	9週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 2		論理性に着眼して評論を読み解く方法を学ぶことができる。	
		10週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 3		筆者の考えをまとめることができる。	
		11週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 4		現代の科学について自分の考えを深めることができる。	
		12週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 1		常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	
		13週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 2		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
		14週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 3		文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることができる。	
		15週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 4		社会のあり方について自分の考えを深めることができる。	
		16週	前期到達目標の確認		言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。	

後期	3rdQ	1週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
		2週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 2	他者の生き方から普遍的な価値を見出し、テーマに対する筆者の姿勢を理解することができる。
		3週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 3	生きることについての考えを深めることができる。
		4週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 1	社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。
		5週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 2	コミュニケーションに関する文章を読んで理解することができる。
		6週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 3	筆者の主張を踏まえた上で他者と自分との関係性について考えることができる。
		7週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 4	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。
		8週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
	4thQ	9週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 2	言語についての文章を読んで理解することができる。
		10週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 3	筆者の主張を踏まえたうえで、現代的テーマについて考えることができる。
		11週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 4	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。
		12週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
		13週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 2	社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。
		14週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 3	思考の相対化をテーマとした文章を読んで理解することができる。
		15週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 4	筆者の主張を踏まえたうえで、「相対性」といった現代的テーマについて考えることができる。
		16週	後期到達目標の確認	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	歴史
科目基礎情報						
科目番号	1A016		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『詳述歴史総合』（実教出版）、『ダイアログ歴史総合』（第一学習社）					
担当教員	宮川 剛					
到達目標						
世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象について学ぶ。さらに、地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かし、かつ日本の歴史に多大な影響をおよぼしていく実態を学ぶ。そして、これらの学習内容が、現代の世界・日本とどのような関係を有しているのかを考察し、よりよき未来を切り開くために必要な視座を獲得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果に加えて、類似の現象についても説明することができる。		世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果について理解できる。		世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果がよくわかっていない。	
評価項目2	地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解し、授業で学んだ現象についても応用することができる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解できる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解していない。	
評価項目3	世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解し、よりよき未来を切り開くための視座を獲得している。		世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解している。		世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・現代の世界と日本の歴史的背景を学習することにより、現代の課題を見出し、その解決に向けて思考し、行動するための基礎的な知的訓練を積むことができる。 ・世界の国々の文化や社会の歴史的背景を学ぶことにより、グローバル化の時代にふさわしい教養・知識を身につけることができる。 ・現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするための訓練を積むことができる。 ・歴史における人類の偉業ならびに愚行について考察することにより、これからの世界を形作るうえで必要な教訓を得ることができる。					
授業の進め方・方法	・授業は主に講義形式で行なう。指定の教科書・資料集を用いて、主に近代以降の世界史と日本史に重点を置いて学習する。 ・基本的な歴史的事実を学習した後、担当教員との質疑応答のやり取りをつうじて、講義内容の理解を深めていく。学生には積極的に発言・質問することを期待する。 ・授業中配布する資料や文章を読んだり、レポートを作成したりすることにより、思考力や文章表現力を鍛える。					
注意点	課題提出を怠らないように。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション 16～19世紀の世界の経済（1）		近代の歴史を学ぶ意義について。 17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出について学ぶ。	
		2週	16～19世紀の世界の経済（2）		前半には、18世紀におけるヨーロッパとアジアの経済の関係について学ぶ。後半には産業革命の背景について学ぶ。	
		3週	16～19世紀の世界の経済（3）		産業革命期の技術革新、エネルギー革命。産業革命が社会に与えた影響。	
		4週	主権国家体制の確立 力独立革命（1）	アメリカ	16～17世紀のヨーロッパで主権国家体制が確立していくプロセスを学ぶ。後半には、独立前のアメリカ植民地の状況を概観し、なぜ人々が独立を目指したのか、について理解する。	
		5週	アメリカ独立革命（2）		アメリカ独立戦争の原因、意義、課題について学ぶ。	
		6週	フランス革命とナポレオン（1）		フランス革命とナポレオンの時代の主な出来事と世界史におけるその意義について学ぶ。	
		7週	フランス革命とナポレオン（2）		フランス革命とナポレオンの時代の主な出来事と世界史におけるその意義について学ぶ。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	フランス革命とナポレオン（3）		フランス革命とナポレオンの時代がもたらした国民国家について学ぶ。	
		10週	ウィーン体制		ナポレオン戦争後の国際秩序はどのようなものか。19世紀のヨーロッパ史の概要について学ぶ。	
		11週	19世紀のイギリスとフランス		19世紀のイギリスやフランスの政治や経済における変化、および市民社会の成立について学ぶ。	

後期		12週	ドイツとイタリアの統一	ドイツとイタリアにおける国民国家の形成過程について学び、日本との共通点、相違点を理解する。
		13週	19世紀のロシアと東方問題	ロシアの南下政策が周辺諸国に及ぼした影響。クリミア戦争。ロシアの国内改革。
		14週	19世紀のアメリカ合衆国	南北戦争期のアメリカについて学ぶ。奴隷制廃止と人種主義の台頭。
		15週	前期定期試験	
		16週	世界市場の形成	「バクス＝ブリタニカ」時代の世界経済について学ぶ。
	3rdQ	1週	アジアの変容と日本の近代化（１）	イスラーム世界の改革と再編。オスマン帝国とエジプトにおける改革と挫折について学ぶ。
		2週	アジアの変容と日本の近代化（２）	19世紀の清王朝の動揺と改革（１）——冊封体制とアヘン戦争
		3週	アジアの変容と日本の近代化（３）	19世紀の清王朝の動揺と改革（２）——太平天国と洋務運動
		4週	アジアの変容と日本の近代化（４）	岩倉使節団および明治初期における清、朝鮮との外交関係について学ぶ。
		5週	アジアの変容と日本の近代化（５）	明治初期における清、朝鮮との外交関係について学ぶ。
		6週	アジアの変容と日本の近代化（６）	土族の反乱および1870年代の自由民権運動の高まりについて学ぶ。
		7週	アジアの変容と日本の近代化（７）	1880年代における自由民権運動の行き詰まりと松方財政について学ぶ
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	アジアの変容と日本の近代化（８）	大日本帝国憲法の制定と帝国議会の開設について学ぶ。
		10週	帝国主義の時代（１）	第二次産業革命の進行と独占資本の形成が帝国主義をもたらすプロセスについて学ぶ。
		11週	帝国主義の時代（２）	帝国主義の時代の欧米社会の諸側面。国民統合の試みや人種差別の思想の台頭について学ぶ。
		12週	日清戦争	日清戦争とその後の展開、および1890年代の日本の政治について学ぶ。
		13週	日露戦争から韓国併合へ（１）	1890年代の中国における改革と挫折（戊戌の変法）。義和団戦争。日露戦争の勃発について学ぶ。
		14週	日露戦争から韓国併合へ（２）	日露戦争の結果、および韓国併合のプロセスについて学ぶ。
		15週	後期定期試験	
16週		まとめ	19世紀までの世界および日本の歴史についての総括	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号		1A017		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		一般教育		対象学年	1		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員		櫻岡 広					
到達目標							
☐ スポーツテストで自分自身の体力を知ることが出来る ☐ 救命処置を確実にすることが出来る ☐ 自分自身の適度な運動量を知ることが出来る ☐ エイズについて理解することが出来る							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		スポーツテストを通じて、自分の限界と適切な運動量を知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができない	
評価項目2		用具などの位置を把握し、救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができない	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		前期 ・スポーツテスト {自分自身の能力（体力）を知る} ・心拍数の測定（講義） ・球技大会の練習（スポーツ種目別の練習） ・心肺蘇生法（講義＆実習） 後期 ・至適歩行速度の説明（講義） ・トレーニング1 至適歩行速度を求める。 ・サッカー ・AIDSについて（講義）					
授業の進め方・方法		教科書は使わない、必要に応じてプリントを配布					
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		1年間の授業の説明・注意事項		
		2週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		3週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		4週	講義		身体活動の仕組みとそれを行うためのエネルギー産生について理解する		
		5週	スポーツテスト		持久走		
		6週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		7週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		8週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
	2ndQ	9週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		10週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		11週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		12週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		13週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		14週	救命処置（テスト）		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		15週	救命処置（テスト）		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		16週					
後期	3rdQ	1週	講義		至適運動強度について説明する		
		2週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		3週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		4週	テストⅠ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		5週	テストⅡ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		6週	テストⅢ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		7週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）		
		8週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）		

	4thQ	9週	フットサル	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）
		10週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		11週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		12週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		13週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		14週	講義	エイズについて理解する
		15週	講義	エイズについて理解する
		16週		

評価割合							
	試験	スポーツテスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	20	0	10	100
基礎的能力	0	10	0	20	0	10	40
専門的能力	60	0	0	0	0	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語表現
科目基礎情報					
科目番号	1A019		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教育		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	Martin, David (2008) "Talk a Lot: Starter Book," EFL Press.				
担当教員	ウィリアム ファッセル				
到達目標					
Students can understand the basics of spoken English and make attempts to improve. Students can communicate in English regardless of proficiency level. Students can write simple sentences in English. Students can make effort to learn about other cultures.					
ルーブリック					
	Ideal Level		Standard Level		Unacceptable Level
Achievement 1	Students are able to understand the textbook and written assignments accurately.		Students are able to adequately understand the textbook and written assignments.		Students are not able to understand the textbook and written assignments adequately.
Achievement 2	Students are able to express themselves confidently and make earnest effort to improve.		Students are able to express themselves but are sometimes hesitant to speak.		Students are not able to express themselves, nor make any effort to improve.
Achievement 3	Students seek every possible opportunity to use English in the classroom activities.		Students make a moderate effort to use English in the classroom activities.		Students make minimal to no effort to use English in the classroom activities.
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	The students will be learning common conversation phrases with basic grammar, and appropriate vocabulary from the textbook. The focus of the class will be improving confidence in speaking. To do this, students will participate in three types of presentations—individual, with pairs and in groups. Last, they will improve their vocabulary through creative writing exercises.				
授業の進め方・方法	Most classes will have textbook work with phrases and vocabulary that will involve individual work, pair work and group work. There will be supplementary activities to help students become familiar with textbook vocabulary and phrases and listening activities to enhance understanding of foreign cultures. Some classes will include writing activities where students express themselves freely. Exams given will cover the textbook and all materials, including presentations, done in the class.				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
評価割合					
	Examination		Other		合計
総合評価割合	80		20		100
Basic Proficiency	80		20		100

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語A
科目基礎情報						
科目番号	1A020		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『MY WAY : English Communication I 』三省堂 『フェイバリット英単語・熟語　コーパス4500』東京書籍					
担当教員	横山 孝一					
到達目標						
1. 教科書で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 教科書の英文を読み、内容が理解できる。 4. 教科書の英語を聞いて理解することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	教科書で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が理解できない。	
評価項目 2	教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することができる。		教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。	
評価項目 3	教科書の英文を読み、内容がよく理解できる。		教科書の英文を読み、内容がある程度理解できる。		教科書の英文の内容が理解できない。	
評価項目 4	教科書の英語を聞いて内容をよく理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容をある程度理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教科書の英文読解・練習問題・リスニング問題を通じて、総合的な英語力の基礎構築を目標とする。 具体的には、英検準2級～2 級レベルの英語運用能力を目指す。					
授業の進め方・方法	冒頭で、人生の指針となる英語のことわざ名言を紹介する。教科書の英文読解を毎回 3 名の学生に発表してもらい、難しいところなどがどこか全員で考える。レッスンごとに配布する語句プリントを全員に記入してもらい、それを使って音読の練習をする。新出単語はネイティブの音声でアクセントに注意しながら練習する。本文の読解を演習形式で進め、重要な文法事項等について解説を加える。 教科書の練習問題を全員で行ない、答え合わせをする。毎回、習った構文・表現・文法を用いるオリジナルの英訳問題を宿題とし、次回、ことわざのあとに確認して応用力を養う。 中間試験と定期試験の 2 週間前に復習小テストを実施し、学習事項の要点を確認する。					
注意点	外国語を身につけるには、まず授業の予習復習を習慣づける必要があります。具体的には、英語と日本語の違いがひと目でわかる「対訳ノート」を作ってください。そのためのノートを早めに用意しておくこと。辞書を活用することで英語力が飛躍的に向上するので、辞書を引いて例文を対訳ノートに書き加えていくこともお勧めします。音声は教科書のQRコードを使って聞くことができるので自宅で活用しましょう。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Part 1		英語の学習方法を知ることができる。 動詞の現在形と過去形が理解できる。	
		2週	Lesson 1 Part 2		現在進行形の使い方が理解できる。	
		3週	Lesson 1 Part 3 総復習		SVOが理解できる。 Lesson 1 で学習した語彙・文法が理解できる	
		4週	Lesson 2 Part 1		助動詞が理解できる。	
		5週	Lesson 2 Part 2		受け身が理解できる。	
		6週	復習小テスト Lesson 2 Part 3		自分の弱点が理解できる。 助動詞のついた受け身が理解できる。	
		7週	答案返却と解説 Lesson 3 Part 1		前期中間試験範囲の要点が理解できる。 動名詞が理解できる。	
		8週	前期中間試験		上記項目の理解度が確認できる。	
	2ndQ	9週	答案返却と解説 Lesson 3 Part 2		前期中間試験の間違ったところが理解できる。 to不定詞の名詞的・副詞的用法が理解できる。	
		10週	Lesson 3 Part 3 総復習		to不定詞の形容詞的用法が理解できる。	
		11週	Lesson 5 Part 1		関係代名詞（主格）が理解できる。	
		12週	Lesson 5 Part 2		関係代名詞（目的格）が理解できる。	
		13週	復習小テスト Lesson 5 Part 3		自分の弱点が理解できる。 関係代名詞 what が理解できる。	
		14週	答案返却と解説 Lesson 5 Part 4		前期定期試験範囲の要点が理解できる。 It is + 形容詞 + to不定詞が理解できる。	
		15週	前期定期試験		上記項目の理解度が確認できる。	
		16週	答案返却と解説 Lesson 6 Part 1		前期定期試験の間違ったところが理解できる。。 現在分詞の形容詞的用法が理解できる。	
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Part 1		関係副詞 where が理解できる。	
		2週	Lesson 7 Part 2		関係副詞 when が理解できる。	

		3週	Lesson 7 Part 3	関係副詞 why が理解できる。
		4週	Lesson 7 Part 4 総復習	比較級・最上級が理解できる。 Lesson 7 で学習した語彙・文法が理解できる。
		5週	Lesson 8 Part 1	条件を表わす if 節が理解できる。
		6週	復習小テスト Lesson 8 Part 2	自分の弱点が理解できる。 仮定法過去が理解できる。
		7週	答案返却と解説 Lesson 8 Part 3	後期中間試験範囲の要点が理解できる。 i wish～が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目の理解度が確認できる。
	4thQ	9週	答案返却 Lesson 8 Part 4	後期中間試験の間違ったところが理解できる。 as if ～ が理解できる。
		10週	Lesson 9 Part 1	how to～ の第4 文型が理解できる。
		11週	Lesson 9 Part 2	SVO + to不定詞が理解できる。
		12週	Lesson 9 Part 3	SVOC（動詞の原形）が理解できる。
		13週	復習小テスト Lesson 9 Part 4	自分の弱点が理解できる。 SVOC（現在分詞）が理解できる。
		14週	復習小テスト返却と解説 Lesson10 Model 1	後期定期試験範囲の要点が理解できる。 プレゼンの基礎が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目の理解度が確認できる。
		16週	答案返却と解説 Lesson10 Model 2	後期定期試験の間違ったところが理解できる。 プレゼンの方法が理解できる。
評価割合				
	中間・定期試験	小テスト等	合計	
総合評価割合	80	20	100	
前期	40	10	50	
後期	40	10	50	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学A I
科目基礎情報						
科目番号	1A022		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	4		
教科書/教材	新基礎数学改訂版（大日本図書） / 新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	吉田 はん					
到達目標						
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。 1. 方程式と不等式 □ 2次方程式と2次不等式を解くことができる。 □ いろいろな方程式・不等式を解くことができる。 □ 方程式と恒等式の違いを説明でき、恒等式になるための条件を定めることができる。 □ 等式と不等式の証明を行うことができる。 □ 必要条件か十分条件かを、真理集合を考えて判定することができる。 □ 命題の逆・裏・対偶を述べることができる。 □ もとの命題とその対偶の真偽が一致することを納得し、証明問題に応用することができる。 2. 関数とグラフ □ 2次関数のグラフの概形を、基本的性質を考えながらかくことができる。 □ 2次関数の最大値・最小値を、グラフをかくて求めることができる。 □ 「2次関数のグラフ」、「2次方程式・不等式」、「判別式」の関係を説明できる。 □ べき関数・分数関数・無理関数のグラフをかくことができる。 □ 関数のグラフを平行移動・対称移動・拡大（収縮）したグラフが表す関数を求めることができる。 □ 関数の逆関数を求めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	複雑な方程式・不等式を基礎的知識を組み合わせて解くことができる。		教科書の例題レベルの方程式や不等式を正確に解くことができる。		教科書の例題レベルの方程式や不等式を解法が身につけていない。	
評価項目2	式の変形や論証の過程を、基礎的知識を組み合わせて、厳密に書くことができる。		教科書の例題レベルの証明問題を解くことができる。		基本的な証明方法が身につけていない。	
評価項目3	グラフの平行移動などの基礎的知識を組み合わせて、関数の決定ができたり、未定係数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。		教科書の例題レベルの関数のグラフを描くことができる。		関数の基本的性質が身につけていないため、グラフをかくことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 方程式と不等式 ・方程式と不等式を解くための処理能力や、2次方程式の解と係数の関係など基本知識の習得を図る。 ・方程式と恒等式の違いや命題に関する基本的事柄、等式・不等式の証明を通じて論理的能力を養う。 2. 関数とグラフ ・2次関数のグラフの頂点や軸などの基本的知識を解説し、論理的思考と計算力を同時に養う。 ・2次関数、べき関数、分数関数、無理関数のグラフをかく練習をする。 また、平行移動・対称移動・拡大（縮小）の有用性を解説する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	2次方程式	2次方程式を解の公式を用いて解くことができ、解と係数の関係を説明できる。		
		2週	いろいろな方程式	高次方程式、連立方程式、分数や根号を含む方程式を解くことができる。		
		3週	恒等式・等式の証明	方程式と恒等式の違いを説明でき、恒等式になるための条件を定めることができる。また、等式の証明法を身につける。		
		4週	1次不等式	不等式の基本的性質を理解し、1次不等式を解くことができる。		
		5週	いろいろな不等式	2次不等式、高次不等式を解くことができる。		
		6週	不等式の証明	不等式の証明法を身につける。		
		7週	集合	2つの集合の共通部分、和集合、補集合の概念を理解し、ド・モルガンの法則を説明できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	命題	必要条件か十分条件かを、真理集合を考えて判定することができる。また、もとの命題とその対偶の真偽が一致することを納得し、証明問題に応用することができる。		
		10週	2次関数のグラフ	2次関数のグラフの概形を、基本的性質を考えながらかくことができる。		

		11週	2次関数の最大・最小	2次関数の最大値・最小値を，グラフをかいて求めることができる。
		12週	2次関数と2次方程式・不等式	「2次関数のグラフ」，「2次方程式・不等式」，「判別式」の関係を説明できる。また，任意の2次不等式を解くことができる。
		13週	べき関数と分数関数	グラフの平行移動を用いて，べき関数と分数関数のグラフをかくことができる。
		14週	無理関数	グラフの対称移動・拡大（縮小）に対応する関数を理解し，無理関数のグラフをかくことができる。
		15週	逆関数	逆関数を求める方法を身につけ，実際に求めることができる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学AⅡ	
科目基礎情報							
科目番号		1A023		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		一般教育		対象学年	1		
開設期		後期		週時間数	4		
教科書/教材		新基礎数学改訂版（大日本図書） / 新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員		吉田 はん					
到達目標							
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。							
1. 三角関数							
□鋭角に対する三角比の定義を直角三角形を用いて述べることができる。							
□正弦定理や余弦定理を用いて、図形の長さや角度、面積を求めることができる。							
□一般角において三角比の定義（単位円を用いた定義）を述べることができる。							
□三角関数の諸公式（加法定理、2倍角の公式、合成など）を駆使した計算ができる。							
□三角関数のグラフを用いて、三角方程式や不等式を解くことができる。							
2. 指数関数と対数関数							
□指数の考え方を、実数まで拡張して扱うことができる。							
□指数関数と対数関数の関係を説明することができる。							
□対数関数の諸公式が成り立つことを、定義に従って説明できる。							
□対数関数の諸公式を用いて、対数関数を含む式の計算ができる。							
□常用対数を用いて、自然数の桁数を求めることなどへの応用ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		三角比および三角関数の定義を理解し、複雑な三角方程式や不等式を正確に解くことができる。		三角比および三角関数の定義を理解し、三角方程式や不等式を解くことができる。		三角比および三角関数の定義を理解できず応用できない。	
評価項目2		正弦定理や余弦定理の仕組みを十分理解し、図形の長さや角度、面積を求めることができる。		正弦定理や余弦定理を用いて図形の長さや角度、面積を求めることができる。		正弦定理や余弦定理を使うことができない。	
評価項目3		指数関数や対数関数の定義や性質を理解し、諸公式を導き様々な問題に的確に応用できる。		指数関数と対数関数の定義や性質を理解し、諸公式を様々な問題に応用できる。		指数関数や対数関数の定義や性質を理解できず応用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		1. 三角関数 ・三角比とその応用について解説する（正弦定理、余弦定理など）。 ・三角関数の諸公式（加法定理、2倍角の公式、合成など）を解説し、論理的思考能力や図形的考察力を養う。 ・三角関数の諸公式を駆使した計算の習熟を図る。 ・三角関数のグラフと、三角方程式や不等式へ応用を解説し習熟を図る。 2. 指数関数と対数関数 ・指数の考え方が、実数にまで拡張できることを解説する。 ・指数関数と対数関数の関係やグラフについて解説する。 ・指数関数を含んだ式の計算に習熟する。 ・指数及び対数関数の有用性を応用問題を通して解説し、その演習も行う。					
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	三角比とその応用（1）		三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。		
		2週	三角比とその応用（2）		三角比を理解し、三角関数表を用いて三角比を求めることができる。一般角の三角関数の値を求めることができる。		
		3週	三角比とその応用（3）		角を弧度法で表現することができる。		
		4週	三角関数（1）		三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		5週	三角関数（2）		三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		6週	三角関数（3）		三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		7週	加法定理とその応用（1）		加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	加法定理とその応用（2）		三角関数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
		10週	指数関数（1）		累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。		
		11週	指数関数（2）		指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		12週	指数関数（3）		指数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。		

		13週	対数関数（１）	対数を利用した計算ができる。			
		14週	対数関数（２）	対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。			
		15週	対数関数（３）	対数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。			
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	1A024		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:4 後期:2		
教科書/教材	教科書：新基礎数学改訂版（大日本図書） 問題集：新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	中山 和夫,布施川 秀紀					
到達目標						
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。 1. 数と式の計算 ☐ 整式の加減乗除の計算、式の展開やたすき掛けによる因数分解ができる。 ☐ 因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。 ☐ 剰余の定理、因数定理などを理解し、因数分解へ応用することができる。 ☐ 分数式の加減乗除の計算ができる。 ☐ 実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。 ☐ 平方根の基本的な計算ができる（分母の有理化も含む）。 ☐ 数概念（実数、複素数）と演算を習得し、基本的な計算問題を処理できる。 ☐ 複素数における概念（共役、大きさなど）を、複素数平面上で説明・考察できる。 2. 図形と式 ☐ 座標平面における2点間の距離、直線の方程式、点と直線の距離を求めることができる。 ☐ 内分点の座標を求めることができる。 ☐ 2直線が平行・垂直になるための条件を学び、関連する問題へ応用できる。 ☐ 簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。 ☐ 放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。 ☐ 2次曲線（およびその接線）の方程式を求めたり、グラフをかくことができる。 ☐ 簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。 ☐ （連立）不等式の表す領域を図示することができる。 3. 数列と場合の数 ☐ 積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。 ☐ 簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。 ☐ 二項定理が成り立つことを納得し、実際に適用できる。 ☐ 等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。 ☐ 総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。 ☐ 数学的帰納法を用いて、自然数を含んだ命題の証明ができる。 ☐ 漸化式の意味を納得し、実際に漸化式を解くことができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		数と式についての複雑な計算ができる	数と式についての基本的な計算ができる	数と式についての基本的な計算ができない		
評価項目2		複雑な図形の性質を調べる事ができる	基本的な図形の性質を調べる事ができる	基本的な図形の性質を調べる事ができない		
評価項目3		数列の複雑な計算をすることができる	数列の基本的な計算をすることができる	数列の基本的な計算をすることができない		
評価項目4		場合の数の複雑な計算をすることができる	場合の数の基本的な計算をすることができる	場合の数の基本的な計算をすることができない		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 数と式の計算 ・ 整式の計算技能の習熟を図る（整式の加減乗除、因数分解）。 ・ 整式の性質の理解を図る（剰余の定理、因数定理など）。 ・ 数概念（実数、複素数）の理解と演算の習得を図る。 ・ 複素数平面を導入し、複素数は実数の拡張であることを実感させる。 2. 図形と式 ・ 座標平面における2点間の距離、直線の方程式、点と直線の距離の公式とその習熟を図る。 ・ 直線や2次曲線の方程式とグラフについて解説し、その習熟を図る。 ・ 座標平面を利用して、図形を数式で表せることの有用性を実感させる。 ・ 方程式が表す曲線だけでなく、（連立）不等式の表す領域についても解説し、その習熟を図る。 3. 数列と場合の数 ・ 順列、組合せに関する基本的な考え方を習熟する。 ・ 二項定理を解説し、実際に適用できるようにする。 ・ 等差数列と等比数列の一般項や、シグマ記号を用いていろいろな数列の和を取り扱う。 ・ 数学的帰納法のしくみを例を挙げて解説し、面白さを伝え、適用できるようにする。 ・ 漸化式の意味を解説し、実際に漸化式を解く技能を習熟する。					
授業の進め方・方法	高専での授業は座学が中心であるが、その授業形式は担当教員によって様々であるが、どの方法も高専で学修する上で必要なことである。授業では各自の学び方によってその日の内容を理解することに注力するようにつとめてほしい。					
注意点	授業の受け方、ノートのとり方、解答の書き方など、高専での学習方法をなるべく早く身につける必要がある。授業で学習した方法を参考にして教科書の問、練習問題をすべて解き、また必ずしも授業では取り上げられない教科書併用の問題集などの問題も積極的に解くことがのぞましい。数学Bで学習する内容は、今後学習する数学や専門科目でもよく使われるので、授業の予習・復習と、自発的な問題演習に取り組むことを強くのぞまれる。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	整式の計算	整式の加減乗除の計算ができる。		
		2週	整式の計算	公式等を利用して因数分解ができる。		
		3週	整式の計算	公式等を利用して因数分解ができる。		

		4週	整式の計算	分数式の加減乗除の計算ができる。
		5週	いろいろな数と式	分数式の加減乗除の計算ができる。
		6週	いろいろな数と式	実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の基本的な計算ができる。
		7週	いろいろな数と式	複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	点と直線	2点間の距離を求めることができる。
		10週	点と直線	内分点の座標を求めることができる。
		11週	点と直線	通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。 2つの直線の平行・垂直条件を理解している。
		12週	2次曲線	基本的な円の方程式を求めることができる。
		13週	2次曲線	楕円・双曲線・放物線の方程式を求めることができる
		14週	2次曲線	領域について理解できる
		15週	練習問題	章末問題や問題集が解ける。
		16週		
後期	3rdQ	1週	場合の数	積の法則と和の法則の違いを理解することができる
		2週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		3週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		4週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		5週	場合の数	二項定理をつかって多項式の計算ができる
		6週	場合の数	二項定理をつかって多項式の計算ができる
		7週	場合の数	章末問題や問題集が解ける。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	数列	数列のしくみを理解することができる
		10週	数列	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		11週	数列	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		12週	数列	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。
		13週	数列	漸化式を表すことができ、漸化式から一般項を求めることができる。
		14週	数列	数学的帰納法を用いて証明することができる。
		15週	練習問題	章末問題や問題集が解ける。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	力学基礎	
科目基礎情報							
科目番号		1A026		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		1	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材		総合物理 1 ー力と運動・熱ー, 新課程 リードα 物理基礎・物理, フォローアップドリル物理基礎/物理, 改訂版フォトサイエンス物理図録					
担当教員		木村 清和					
到達目標							
☐ 高校物理程度の力学の基礎を理解し、代表的な系について運動方程式を立てることができる。 ☐ 質点の位置・速度・加速度を求めることができる。 ☐ 力学的エネルギー保存則と運動量保存則を使うことができる。 ☐ 運動方程式や各種保存則を利用し、質点の運動を扱うことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を深く理解し, 発展的な問題に適用できる。		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解し, 基本的な問題に適用できる。		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解しておらず, 基本的な問題に適用できない。	
評価項目2		運動の法則に関する基本的な考え方を深く理解し, 質点や剛体のつりあいや, 質点の運動に関する発展的な問題に適用できる。		運動の法則に関する基本的な考え方を理解し, 質点や剛体のつりあい, 質点の運動に関する基本的な問題に適用できる。		運動の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず, 質点や剛体のつりあいや, 質点の運動に関する基本的な問題に適用できない。	
評価項目3		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を深く理解し, 発展的な問題に適用できる。		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解し, 基本的な問題に適用できる。		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解しておらず, 基本的な問題に適用できない。	
評価項目4		運動方程式や各種保存則, 万有引力の法則に関する基本的な考え方を深く理解し, 等速円運動や単振動, 惑星の運動に関する発展的な問題に適用できる。		運動方程式や各種保存則, 万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解し, 等速円運動や単振動, 惑星の運動に関する基本的な問題に適用できる。		運動方程式や各種保存則, 万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず, 等速円運動や単振動, 惑星の運動に関する基本的な問題に適用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		高校物理の教科書にほぼ則して, 力学について講義します。					
授業の進め方・方法		座学					
注意点		【事前に行う準備学習】教科書の解説を読み, 例題や演習問題を解くことで基礎的な理解を深めておくこと。 様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしよう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	運動の表し方(1)		等速直線運動		
		2週	運動の表し方(2)		変位・速度・平均速度・瞬間の速度		
		3週	運動の表し方(3)		速度の合成・相対速度		
		4週	加速度		等加速度直線運動		
		5週	落体の運動(1)		自由落下・鉛直投射		
		6週	落体の運動(2)		水平投射		
		7週	落体の運動(3)		斜方投射		
	2ndQ	8週	前期中間試験		第7週までの内容		
		9週	力のつりあい		力のつりあい・作用反作用の法則		
		10週	運動の法則(1)		運動方程式		
		11週	運動の法則(2)		運動方程式を用いた質点の運動の解析		
		12週	摩擦を受ける運動		静止摩擦力・動摩擦力		
		13週	液体や気体から受ける力		圧力・浮力・空気の抵抗		
		14週	剛体にはたらく力のつりあい		力のモーメント・剛体のつりあい・剛体にはたらく力の合力・偶力・重心		
		15週	前期定期試験答案返却		答案返却・まとめ		
		16週					
後期	3rdQ	1週	仕事		仕事・仕事の原理・仕事率		
		2週	運動エネルギー, 位置エネルギー		運動エネルギー・重力の位置エネルギー・弾性力の位置エネルギー		
		3週	力学的エネルギーの保存(1)		力学的エネルギー保存則		
		4週	力学的エネルギーの保存(2)		力学的エネルギー保存則の応用		

		5週	運動量と力積	運動量・力積・運動量と力積の関係
		6週	運動量保存則	運動量保存則
		7週	反発係数	反発係数・2物体の衝突
		8週	後期中間試験	第7週までの内容
	4thQ	9週	等速円運動(1)	単振動の角速度・周期・回転数
		10週	等速円運動(2)	等速円運動の加速度・等速円運動に必要な力
		11週	慣性力	慣性力
		12週	単振動(1)	単振動の変位・速度・加速度
		13週	単振動(2)	単振動に必要な力・単振動の運動方程式とその応用
		14週	万有引力	ケプラーの法則・万有引力
		15週	後期定期試験答案返却	答案返却・まとめ
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語表現
科目基礎情報						
科目番号	1A028		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	探求 現代の国語：桐原書店：9784342121012					
担当教員	田貝 和子					
到達目標						
☐ 論理的な文章を客観的に理解することができる。 ☐ 論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。 ☐ 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 ☐ 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章を客観的に理解することが十分にできる。		論理的な文章を客観的に理解することができる。		論理的な文章を客観的に理解することができない。	
評価項目2	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することが十分にできる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができない。	
評価項目3	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることが十分にできる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、文章表現力の錬成も兼ねて「論旨の要旨」をまとめる作業を行う。					
授業の進め方・方法	1 学年の国語表現では、読むことを中心に行います。正確に読解することを通じて、考える力を身につけてください。それが、自分の考えを他人に正確に伝えるための表現力につながります。					
注意点	ノートを一冊用意してください。また、国語辞典も常に机の上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
		2週	口語文法		常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	
		3週	体験と思索Ⅰ 読書は必要か？ 1		筆者のものの見方や感じ方を理解することができる。	
		4週	体験と思索Ⅰ 読書は必要か？ 2		読書について考えることができる。	
		5週	評論Ⅰ 言葉の力 1		文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることができる。	
		6週	評論Ⅰ 言葉の力 2		日本の言葉について自分の考えを深めることができる。	
		7週	評論Ⅰ 言葉の力 3		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。	
		8週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 1		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
	2ndQ	9週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 2		論理性に着眼して評論を読み解く方法を学ぶことができる。	
		10週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 3		筆者の考えをまとめることができる。	
		11週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 4		現代の科学について自分の考えを深めることができる。	
		12週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 1		常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	
		13週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 2		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
		14週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 3		文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることができる。	
		15週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 4		社会のあり方について自分の考えを深めることができる。	
		16週	前期到達目標の確認		言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。	

後期	3rdQ	1週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
		2週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 2	他者の生き方から普遍的な価値を見出し、テーマに対する筆者の姿勢を理解することができる。
		3週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 3	生きることについての考えを深めることができる。
		4週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 1	社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。
		5週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 2	コミュニケーションに関する文章を読んで理解することができる。
		6週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 3	筆者の主張を踏まえた上で他者と自分との関係性について考えることができる。
		7週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 4	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。
		8週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
	4thQ	9週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 2	言語についての文章を読んで理解することができる。
		10週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 3	筆者の主張を踏まえたうえで、現代的テーマについて考えることができる。
		11週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 4	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。
		12週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
		13週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 2	社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。
		14週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 3	思考の相対化をテーマとした文章を読んで理解することができる。
		15週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 4	筆者の主張を踏まえたうえで、「相対性」といった現代的テーマについて考えることができる。
		16週	後期到達目標の確認	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	歴史
科目基礎情報						
科目番号	1A029		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『詳述歴史総合』（実教出版）、『ダイアログ歴史総合』（第一学習社）					
担当教員	宮川 剛					
到達目標						
世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象について学ぶ。さらに、地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かし、かつ日本の歴史に多大な影響をおよぼしていく実態を学ぶ。そして、これらの学習内容が、現代の世界・日本とどのような関係を有しているのかを考察し、よりよき未来を切り開くために必要な視座を獲得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果に加えて、類似の現象についても説明することができる。		世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果について理解できる。		世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果がよくわかっていない。	
評価項目2	地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解し、授業で学んだ現象についても応用することができる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解できる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解していない。	
評価項目3	世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解し、よりよき未来を切り開くための視座を獲得している。		世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解している。		世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・現代の世界と日本の歴史的背景を学習することにより、現代の課題を見出し、その解決に向けて思考し、行動するための基礎的な知的訓練を積むことができる。 ・世界の国々の文化や社会の歴史的背景を学ぶことにより、グローバル化の時代にふさわしい教養・知識を身につけることができる。 ・現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするための訓練を積むことができる。 ・歴史における人類の偉業ならびに愚行について考察することにより、これからの世界を形作るうえで必要な教訓を得ることができる。					
授業の進め方・方法	・授業は主に講義形式で行なう。指定の教科書・資料集を用いて、主に近代以降の世界史と日本史に重点を置いて学習する。 ・基本的な歴史的事実を学習した後、担当教員との質疑応答のやり取りをつうじて、講義内容の理解を深めていく。学生には積極的に発言・質問することを期待する。 ・授業中配布する資料や文章を読んだり、レポートを作成したりすることにより、思考力や文章表現力を鍛える。					
注意点	課題提出を怠らないように。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション 16～19世紀の世界の経済（1）		近代の歴史を学ぶ意義について。 17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出について学ぶ。	
		2週	16～19世紀の世界の経済（2）		前半には、18世紀におけるヨーロッパとアジアの経済の関係について学ぶ。後半には産業革命の背景について学ぶ。	
		3週	16～19世紀の世界の経済（3）		産業革命期の技術革新、エネルギー革命。産業革命が社会に与えた影響。	
		4週	主権国家体制の確立 力独立革命（1）	アメリカ	16～17世紀のヨーロッパで主権国家体制が確立していくプロセスを学ぶ。後半には、独立前のアメリカ植民地の状況を概観し、なぜ人々が独立を目指したのか、について理解する。	
		5週	アメリカ独立革命（2）		アメリカ独立戦争の原因、意義、課題について学ぶ。	
		6週	フランス革命とナポレオン（1）		フランス革命とナポレオンの時代の主な出来事と世界史におけるその意義について学ぶ。	
		7週	フランス革命とナポレオン（2）		フランス革命とナポレオンの時代の主な出来事と世界史におけるその意義について学ぶ。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	フランス革命とナポレオン（3）		フランス革命とナポレオンの時代がもたらした国民国家について学ぶ。	
		10週	ウィーン体制		ナポレオン戦争後の国際秩序はどのようなものか。19世紀のヨーロッパ史の概要について学ぶ。	
		11週	19世紀のイギリスとフランス		19世紀のイギリスやフランスの政治や経済における変化、および市民社会の成立について学ぶ。	

後期		12週	ドイツとイタリアの統一	ドイツとイタリアにおける国民国家の形成過程について学び、日本との共通点、相違点を理解する。			
		13週	19世紀のロシアと東方問題	ロシアの南下政策が周辺諸国に及ぼした影響。クリミア戦争。ロシアの国内改革。			
		14週	19世紀のアメリカ合衆国	南北戦争期のアメリカについて学ぶ。奴隷制廃止と人種主義の台頭。			
		15週	前期定期試験				
		16週	世界市場の形成	「バクス＝ブリタニカ」時代の世界経済について学ぶ。			
	3rdQ	1週	アジアの変容と日本の近代化（１）	イスラーム世界の改革と再編。オスマン帝国とエジプトにおける改革と挫折について学ぶ。			
		2週	アジアの変容と日本の近代化（２）	19世紀の清王朝の動揺と改革（１）——冊封体制とアヘン戦争			
		3週	アジアの変容と日本の近代化（３）	19世紀の清王朝の動揺と改革（２）——太平天国と洋務運動			
		4週	アジアの変容と日本の近代化（４）	岩倉使節団および明治初期における清、朝鮮との外交関係について学ぶ。			
		5週	アジアの変容と日本の近代化（５）	明治初期における清、朝鮮との外交関係について学ぶ。			
		6週	アジアの変容と日本の近代化（６）	土族の反乱および1870年代の自由民権運動の高まりについて学ぶ。			
		7週	アジアの変容と日本の近代化（７）	1880年代における自由民権運動の行き詰まりと松方財政について学ぶ			
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	アジアの変容と日本の近代化（８）	大日本帝国憲法の制定と帝国議会の開設について学ぶ。			
		10週	帝国主義の時代（１）	第二次産業革命の進行と独占資本の形成が帝国主義をもたらすプロセスについて学ぶ。			
		11週	帝国主義の時代（２）	帝国主義の時代の欧米社会の諸側面。国民統合の試みや人種差別の思想の台頭について学ぶ。			
		12週	日清戦争	日清戦争とその後の展開、および1890年代の日本の政治について学ぶ。			
		13週	日露戦争から韓国併合へ（１）	1890年代の中国における改革と挫折（戊戌の変法）。義和団戦争。日露戦争の勃発について学ぶ。			
		14週	日露戦争から韓国併合へ（２）	日露戦争の結果、および韓国併合のプロセスについて学ぶ。			
		15週	後期定期試験				
		16週	まとめ	19世紀までの世界および日本の歴史についての総括			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号		1A030		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		一般教育		対象学年	1		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員		櫻岡 広					
到達目標							
☐ スポーツテストで自分自身の体力を知ることが出来る ☐ 救命処置を確実にすることが出来る ☐ 自分自身の適度な運動量を知ることが出来る ☐ エイズについて理解することが出来る							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		スポーツテストを通じて、自分の限界と適切な運動量を知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができない	
評価項目2		用具などの位置を把握し、救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができない	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		前期 ・スポーツテスト {自分自身の能力（体力）を知る} ・心拍数の測定（講義） ・球技大会の練習（スポーツ種目別の練習） ・心肺蘇生法（講義＆実習） 後期 ・至適歩行速度の説明（講義） ・トレーニング1 至適歩行速度を求める。 ・サッカー ・AIDSについて（講義）					
授業の進め方・方法		教科書は使わない、必要に応じてプリントを配布					
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		1年間の授業の説明・注意事項		
		2週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		3週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		4週	講義		身体活動の仕組みとそれを行うためのエネルギー産生について理解する		
		5週	スポーツテスト		持久走		
		6週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		7週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		8週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
	2ndQ	9週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		10週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		11週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		12週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		13週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		14週	救命処置（テスト）		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		15週	救命処置（テスト）		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		16週					
後期	3rdQ	1週	講義		至適運動強度について説明する		
		2週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		3週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		4週	テストⅠ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		5週	テストⅡ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		6週	テストⅢ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		7週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）		
		8週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）		

	4thQ	9週	フットサル	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）
		10週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		11週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		12週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		13週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		14週	講義	エイズについて理解する
		15週	講義	エイズについて理解する
		16週		

評価割合							
	試験	スポーツテスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	20	0	10	100
基礎的能力	0	10	0	20	0	10	40
専門的能力	60	0	0	0	0	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語表現
科目基礎情報						
科目番号	1A032		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	Martin, David (2008) "Talk a Lot: Starter Book," EFL Press.					
担当教員	ウィリアム ファッセル					
到達目標						
Students can understand the basics of spoken English and make attempts to improve. Students can communicate in English regardless of proficiency level. Students can write simple sentences in English. Students can make effort to learn about other cultures.						
ルーブリック						
	Ideal Level		Standard Level		Unacceptable Level	
Achievement 1	Students are able to understand the textbook and written assignments accurately.		Students are able to adequately understand the textbook and written assignments.		Students are not able to understand the textbook and written assignments adequately.	
Achievement 2	Students are able to express themselves confidently and make earnest effort to improve.		Students are able to express themselves but are sometimes hesitant to speak.		Students are not able to express themselves, nor make any effort to improve.	
Achievement 3	Students seek every possible opportunity to use English in the classroom activities.		Students make a moderate effort to use English in the classroom activities.		Students make minimal to no effort to use English in the classroom activities.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The students will be learning common conversation phrases with basic grammar, and appropriate vocabulary from the textbook. The focus of the class will be improving confidence in speaking. To do this, students will participate in three types of presentations—individual, with pairs and in groups. Last, they will improve their vocabulary through creative writing exercises.					
授業の進め方・方法	Most classes will have textbook work with phrases and vocabulary that will involve individual work, pair work and group work. There will be supplementary activities to help students become familiar with textbook vocabulary and phrases and listening activities to enhance understanding of foreign cultures. Some classes will include writing activities where students express themselves freely. Exams given will cover the textbook and all materials, including presentations, done in the class.					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Introduction. Ice breaker. Orientation. Create Self Intro. Writing exercise.		Understanding class rules. Do short self intro. Learn writing prompts.	
		2週	Unit 1 Getting to Know Each Other. Explain vocabulary. Finish self-intros.		How to use the textbook and study for tests. Interview classmates confidently.	
		3週	Unit 1 Finish Unit. Listening activity. Presentation – pair work.		Introducing a friend. Listening clearly.	
		4週	Unit 2 Dates & Ordinal Numbers. Worksheet.		Ordinal numbers. Large numbers. Simple present, simple past.	
		5週	Unit 2 Finish Unit. Presentation-group.		Weather vocabulary. Pronouncing world places.	
		6週	Unit 3 Personal Information. Interviews. Writing activity.		Wh-questions; pronouns.	
		7週	Unit 3 Finish Unit. Explain test. Exam preparation. Interview practice.		Review and study.	
		8週	Midterm Exam includes material from Units 1, 2 and 3. Interview test will be included.		Problem solving.	
	4thQ	9週	Pass back exam with explanation of answers. Unit 4 Likes and Dislikes. Presentation-self.		Wh- and Yes/No questions. Likes, dislikes. Self presentation with emotion.	
		10週	Unit 4 Finish Unit. Presentation-pair.		Favorites. Sharing information about classmates.	
		11週	Unit 6 “Wh-Questions.” Worksheet. Listening activity.		Adverbs of frequency. ‘How often’ questions.	
		12週	Unit 6 Finish Unit. Presentation-group.		Wh- questions and answers.	
		13週	Unit 7. Can and Can’t. Worksheet.		Talking about abilities, subjects, sports.	
		14週	Unit 7. Finish Unit. Prepare for exam. Explain sections of test. Interview practice.		Review and study.	
		15週	Final Exam includes materials from Units 1-6. Interview test will be included.		Problem solving.	
		16週	Return the final exam.		Review the exam.	
評価割合						
	Examination		Other		合計	
総合評価割合	80		20		100	

Basic Proficiency	80	20	100
-------------------	----	----	-----

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語A
科目基礎情報						
科目番号	1A033		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『MY WAY : English Communication I 』三省堂 『フェイバリット英単語・熟語　コーパス4500』東京書籍					
担当教員	横山 孝一					
到達目標						
1. 教科書で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 教科書の英文を読み、内容が理解できる。 4. 教科書の英語を聞いて理解することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	教科書で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が理解できない。	
評価項目 2	教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することができる。		教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。	
評価項目 3	教科書の英文を読み、内容がよく理解できる。		教科書の英文を読み、内容がある程度理解できる。		教科書の英文の内容が理解できない。	
評価項目 4	教科書の英語を聞いて内容をよく理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容をある程度理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教科書の英文読解・練習問題・リスニング問題を通じて、総合的な英語力の基礎構築を目標とする。 具体的には、英検準2級～2 級レベルの英語運用能力を目指す。					
授業の進め方・方法	冒頭で、人生の指針となる英語のことわざ名言を紹介する。教科書の英文読解を毎回 3 名の学生に発表してもらい、難しいところなどがどこか全員で考える。レッスンごとに配布する語句プリントを全員に記入してもらい、それを使って音読の練習をする。新出単語はネイティブの音声でアクセントに注意しながら練習する。本文の読解を演習形式で進め、重要な文法事項等について解説を加える。 教科書の練習問題を全員で行ない、答え合わせをする。毎回、習った構文・表現・文法を用いるオリジナルの英訳問題を宿題とし、次回、ことわざのあとに確認して応用力を養う。 中間試験と定期試験の 2 週間前に復習小テストを実施し、学習事項の要点を確認する。					
注意点	外国語を身につけるには、まず授業の予習復習を習慣づける必要があります。具体的には、英語と日本語の違いがひと目でわかる「対訳ノート」を作ってください。そのためのノートを早めに用意しておくこと。辞書を活用することで英語力が飛躍的に向上するので、辞書を引いて例文を対訳ノートに書き加えていくこともお勧めします。音声は教科書のQRコードを使って聞くことができるので自宅で活用しましょう。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Part 1		英語の学習方法を知ることができる。 動詞の現在形と過去形が理解できる。	
		2週	Lesson 1 Part 2		現在進行形の使い方が理解できる。	
		3週	Lesson 1 Part 3 総復習		SVOが理解できる。 Lesson 1 で学習した語彙・文法が理解できる	
		4週	Lesson 2 Part 1		助動詞が理解できる。	
		5週	Lesson 2 Part 2		受け身が理解できる。	
		6週	復習小テスト Lesson 2 Part 3		自分の弱点が理解できる。 助動詞のついた受け身が理解できる。	
		7週	答案返却と解説 Lesson 3 Part 1		前期中間試験範囲の要点が理解できる。 動名詞が理解できる。	
		8週	前期中間試験		上記項目の理解度が確認できる。	
	2ndQ	9週	答案返却と解説 Lesson 3 Part 2		前期中間試験の間違ったところが理解できる。 to不定詞の名詞的・副詞的用法が理解できる。	
		10週	Lesson 3 Part 3 総復習		to不定詞の形容詞的用法が理解できる。	
		11週	Lesson 5 Part 1		関係代名詞（主格）が理解できる。	
		12週	Lesson 5 Part 2		関係代名詞（目的格）が理解できる。	
		13週	復習小テスト Lesson 5 Part 3		自分の弱点が理解できる。 関係代名詞 what が理解できる。	
		14週	答案返却と解説 Lesson 5 Part 4		前期定期試験範囲の要点が理解できる。 It is + 形容詞 + to不定詞が理解できる。	
		15週	前期定期試験		上記項目の理解度が確認できる。	
		16週	答案返却と解説 Lesson 6 Part 1		前期定期試験の間違ったところが理解できる。。 現在分詞の形容詞的用法が理解できる。	
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Part 1		関係副詞 where が理解できる。	
		2週	Lesson 7 Part 2		関係副詞 when が理解できる。	

		3週	Lesson 7 Part 3	関係副詞 why が理解できる。
		4週	Lesson 7 Part 4 総復習	比較級・最上級が理解できる。 Lesson 7 で学習した語彙・文法が理解できる。
		5週	Lesson 8 Part 1	条件を表わす if 節が理解できる。
		6週	復習小テスト Lesson 8 Part 2	自分の弱点が理解できる。 仮定法過去が理解できる。
		7週	答案返却と解説 Lesson 8 Part 3	後期中間試験範囲の要点が理解できる。 i wish～が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目の理解度が確認できる。
	4thQ	9週	答案返却 Lesson 8 Part 4	後期中間試験の間違ったところが理解できる。 as if ～ が理解できる。
		10週	Lesson 9 Part 1	how to～ の第 4 文型が理解できる。
		11週	Lesson 9 Part 2	SVO + to不定詞が理解できる。
		12週	Lesson 9 Part 3	SVOC（動詞の原形）が理解できる。
		13週	復習小テスト Lesson 9 Part 4	自分の弱点が理解できる。 SVOC（現在分詞）が理解できる。
		14週	復習小テスト返却と解説 Lesson10 Model 1	後期定期試験範囲の要点が理解できる。 プレゼンの基礎が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目の理解度が確認できる。
		16週	答案返却と解説 Lesson10 Model 2	後期定期試験の間違ったところが理解できる。 プレゼンの方法が理解できる。
評価割合				
	中間・定期試験	小テスト等	合計	
総合評価割合	80	20	100	
前期	40	10	50	
後期	40	10	50	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学A I
科目基礎情報						
科目番号	1A035			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	1	
開設期	前期			週時間数	4	
教科書/教材	新基礎数学改訂版（大日本図書） / 新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	荒川 達也					
到達目標						
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。						
1. 方程式と不等式						
□ 2次方程式と2次不等式を解くことができる。						
□ いろいろな方程式・不等式を解くことができる。						
□ 方程式と恒等式の違いを説明でき、恒等式になるための条件を定めることができる。						
□ 等式と不等式の証明を行うことができる。						
□ 必要条件か十分条件かを、真理集合を考えて判定することができる。						
□ 命題の逆・裏・対偶を述べることができる。						
□ もとの命題とその対偶の真偽が一致することを納得し、証明問題に応用することができる。						
2. 関数とグラフ						
□ 2次関数のグラフの概形を、基本的性質を考えながらかくことができる。						
□ 2次関数の最大値・最小値を、グラフをかくて求めることができる。						
□ 「2次関数のグラフ」、「2次方程式・不等式」、「判別式」の関係を説明できる。						
□ べき関数・分数関数・無理関数のグラフをかくことができる。						
□ 関数のグラフを平行移動・対称移動・拡大（収縮）したグラフが表す関数を求めることができる。						
□ 関数の逆関数を求めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	複雑な方程式・不等式を基礎的知識を組み合わせて解くことができる。		教科書の例題レベルの方程式や不等式を正確に解くことができる。		教科書の例題レベルの方程式や不等式を解法が身についていない。	
評価項目2	式の変形や論証の過程を、基礎的知識を組み合わせて、厳密に書くことができる。		教科書の例題レベルの証明問題を解くことができる。		基本的な証明方法が身についていない。	
評価項目3	グラフの平行移動などの基礎的知識を組み合わせて、関数の決定ができた、未定係数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。		教科書の例題レベルの関数のグラフを描くことができる。		関数の基本的性質が身についていないため、グラフをかくことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 方程式と不等式 ・方程式と不等式を解くための処理能力や、2次方程式の解と係数の関係など基本知識の習得を図る。 ・方程式と恒等式の違いや命題に関する基本的事柄、等式・不等式の証明を通じて論理的能力を養う。 2. 関数とグラフ ・2次関数のグラフの頂点や軸などの基本的知識を解説し、論理的思考と計算力を同時に養う。 ・2次関数、べき関数、分数関数、無理関数のグラフをかく練習をする。 また、平行移動・対称移動・拡大（縮小）の有用性を解説する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	2次方程式	2次方程式を解の公式を用いて解くことができ、解と係数の関係を説明できる。		
		2週	いろいろな方程式	高次方程式、連立方程式、分数や根号を含む方程式を解くことができる。		
		3週	恒等式・等式の証明	方程式と恒等式の違いを説明でき、恒等式になるための条件を定めることができる。また、等式の証明法を身につける。		
		4週	1次不等式	不等式の基本的性質を理解し、1次不等式を解くことができる。		
		5週	いろいろな不等式	2次不等式、高次不等式を解くことができる。		
		6週	不等式の証明	不等式の証明法を身につける。		
		7週	集合	2つの集合の共通部分、和集合、補集合の概念を理解し、ド・モルガンの法則を説明できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	命題	必要条件か十分条件かを、真理集合を考えて判定することができる。また、もとの命題とその対偶の真偽が一致することを納得し、証明問題に応用することができる。		
		10週	2次関数のグラフ	2次関数のグラフの概形を、基本的性質を考えながらかくことができる。		

		11週	2次関数の最大・最小	2次関数の最大値・最小値を，グラフをかいて求めることができる。
		12週	2次関数と2次方程式・不等式	「2次関数のグラフ」，「2次方程式・不等式」，「判別式」の関係を説明できる。また，任意の2次不等式を解くことができる。
		13週	べき関数と分数関数	グラフの平行移動を用いて，べき関数と分数関数のグラフをかくことができる。
		14週	無理関数	グラフの対称移動・拡大（縮小）に対応する関数を理解し，無理関数のグラフをかくことができる。
		15週	逆関数	逆関数を求める方法を身につけ，実際に求めることができる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学AⅡ	
科目基礎情報							
科目番号		1A036		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		1	
開設期		後期		週時間数		4	
教科書/教材		新基礎数学改訂版（大日本図書） / 新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員		荒川 達也					
到達目標							
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。							
1. 三角関数							
□ 鋭角に対する三角比の定義を直角三角形を用いて述べることができる。							
□ 正弦定理や余弦定理を用いて、図形の長さや角度、面積を求めることができる。							
□ 一般角において三角比の定義（単位円を用いた定義）を述べることができる。							
□ 三角関数の諸公式（加法定理、2倍角の公式、合成など）を駆使した計算ができる。							
□ 三角関数のグラフを用いて、三角方程式や不等式を解くことができる。							
2. 指数関数と対数関数							
□ 指数の考え方を、実数まで拡張して扱うことができる。							
□ 指数関数と対数関数の関係を説明することができる。							
□ 対数関数の諸公式が成り立つことを、定義に従って説明できる。							
□ 対数関数の諸公式を用いて、対数関数を含む式の計算ができる。							
□ 常用対数を用いて、自然数の桁数を求めることなどへの応用ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		三角比および三角関数の定義を理解し、複雑な三角方程式や不等式を正確に解くことができる。		三角比および三角関数の定義を理解し、三角方程式や不等式を解くことができる。		三角比および三角関数の定義を理解できず応用できない。	
評価項目2		正弦定理や余弦定理の仕組みを十分理解し、図形の長さや角度、面積を求めることができる。		正弦定理や余弦定理を用いて図形の長さや角度、面積を求めることができる。		正弦定理や余弦定理を使うことができない。	
評価項目3		指数関数や対数関数の定義や性質を理解し、諸公式を導き様々な問題に的確に応用できる。		指数関数と対数関数の定義や性質を理解し、諸公式を様々な問題に応用できる。		指数関数や対数関数の定義や性質を理解できず応用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		1. 三角関数 ・三角比とその応用について解説する（正弦定理、余弦定理など）。 ・三角関数の諸公式（加法定理、2倍角の公式、合成など）を解説し、論理的思考能力や図形的考察力を養う。 ・三角関数の諸公式を駆使した計算の習熟を図る。 ・三角関数のグラフと、三角方程式や不等式へ応用を解説し習熟を図る。 2. 指数関数と対数関数 ・指数の考え方が、実数にまで拡張できることを解説する。 ・指数関数と対数関数の関係やグラフについて解説する。 ・指数関数を含んだ式の計算に習熟する。 ・指数及び対数関数の有用性を応用問題を通して解説し、その演習も行う。					
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	三角比とその応用（1）		鋭角の三角比が理解できる。		
		2週	三角比とその応用（2）		鈍角の三角比が理解できる。		
		3週	三角比とその応用（3）		正弦定理、余弦定理、三角比と三角形の面積の関係が理解できる。		
		4週	三角関数（1）		一般角と弧度法が理解できる。		
		5週	三角関数（2）		三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		6週	三角関数（3）		三角関数の方程式、不等式が解ける。		
		7週	加法定理とその応用（1）		加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	加法定理とその応用（2）		加法定理の応用ができる。		
		10週	指数関数（1）		累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。		
		11週	指数関数（2）		指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		12週	指数関数（3）		指数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
		13週	対数関数（1）		対数の性質を理解し、簡単な計算ができる。		
		14週	対数関数（2）		対数関数のグラフをかくことができ、対数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
		15週	対数関数（3）		常用対数を使うことができる。		

		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	1A037		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:4 後期:2		
教科書/教材	教科書：新基礎数学改訂版（大日本図書） 問題集：新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	渡邊 俊哉,西山 勝彦					
到達目標						
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。 1. 数と式の計算 □ 整式の加減乗除の計算、式の展開やたすき掛けによる因数分解ができる。 □ 因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。 □ 剰余の定理、因数定理などを理解し、因数分解へ応用することができる。 □ 分数式の加減乗除の計算ができる。 □ 実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。 □ 平方根の基本的な計算ができる（分母の有理化も含む）。 □ 数概念（実数、複素数）と演算を習得し、基本的な計算問題を処理できる。 □ 複素数における概念（共役、大きさなど）を、複素数平面上で説明・考察できる。 2. 図形と式 □ 座標平面における2点間の距離、直線の方程式、点と直線の距離を求めることができる。 □ 内分点の座標を求めることができる。 □ 2直線が平行・垂直になるための条件を学び、関連する問題へ応用できる。 □ 簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。 □ 放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。 □ 2次曲線（およびその接線）の方程式を求めたり、グラフをかくことができる。 □ 簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。 □ （連立）不等式の表す領域を図示することができる。 3. 数列と場合の数 □ 積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。 □ 簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。 □ 二項定理が成り立つことを納得し、実際に適用できる。 □ 等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。 □ 総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。 □ 数学的帰納法を用いて、自然数を含んだ命題の証明ができる。 □ 漸化式の意味を納得し、実際に漸化式を解くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	数と式についての複雑な計算ができる		数と式についての基本的な計算ができる		数と式についての基本的な計算ができない	
評価項目2	複雑な図形の性質を調べる事ができる		基本的な図形の性質を調べる事ができる		基本的な図形の性質を調べる事ができない	
評価項目3	数列の複雑な計算をすることができる		数列の基本的な計算をすることができる		数列の基本的な計算をすることができない	
評価項目4	場合の数の複雑な計算をすることができる		場合の数の基本的な計算をすることができる		場合の数の基本的な計算をすることができない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 数と式の計算 ・ 整式の計算技能の習熟を図る（整式の加減乗除、因数分解）。 ・ 整式の性質の理解を図る（剰余の定理、因数定理など）。 ・ 数概念（実数、複素数）の理解と演算の習得を図る。 ・ 複素数平面を導入し、複素数は実数の拡張であることを実感させる。 2. 図形と式 ・ 座標平面における2点間の距離、直線の方程式、点と直線の距離の公式とその習熟を図る。 ・ 直線や2次曲線の方程式とグラフについて解説し、その習熟を図る。 ・ 座標平面を利用して、図形を数式で表せることの有用性を実感させる。 ・ 方程式が表す曲線だけでなく、（連立）不等式の表す領域についても解説し、その習熟を図る。 3. 数列と場合の数 ・ 順列、組合せに関する基本的な考え方を習熟する。 ・ 二項定理を解説し、実際に適用できるようにする。 ・ 等差数列と等比数列の一般項や、シグマ記号を用いていろいろな数列の和を取り扱う。 ・ 数学的帰納法のしくみを例を挙げて解説し、面白さを伝え、適用できるようにする。 ・ 漸化式の意味を解説し、実際に漸化式を解く技能を習熟する。					
授業の進め方・方法	高専での授業は座学が中心であるが、その授業形式は担当教員によって様々であるが、どの方法も高専で学修する上で必要なことである。授業では各自の学び方によってその日の内容を理解することに注力するようにつとめてほしい。					
注意点	授業の受け方、ノートのとり方、解答の書き方など、高専での学習方法をなるべく早く身につける必要がある。授業で学習した方法を参考にして教科書の問、練習問題をすべて解き、また必ずしも授業では取り上げられない教科書併用の問題集などの問題も積極的に解くことがのぞましい。数学Bで学習する内容は、今後学習する数学や専門科目でもよく使われるので、授業の予習・復習と、自発的な問題演習に取り組むことを強くのぞまれる。					
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	整式の計算		整式の加減乗除の計算ができる。	
		2週	整式の計算		公式等を利用して因数分解ができる。	
		3週	整式の計算		公式等を利用して因数分解ができる。	

		4週	整式の計算	分数式の加減乗除の計算ができる。
		5週	いろいろな数と式	分数式の加減乗除の計算ができる。
		6週	いろいろな数と式	実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の基本的な計算ができる。
		7週	いろいろな数と式	複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	点と直線	2点間の距離を求めることができる。
		10週	点と直線	内分点の座標を求めることができる。
		11週	点と直線	通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。 2つの直線の平行・垂直条件を理解している。
		12週	2次曲線	基本的な円の方程式を求めることができる。
		13週	2次曲線	楕円・双曲線・放物線の方程式を求めることができる
		14週	2次曲線	領域について理解できる
		15週	練習問題	章末問題や問題集が解ける。
		16週		
後期	3rdQ	1週	場合の数	積の法則と和の法則の違いを理解することができる
		2週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		3週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		4週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		5週	場合の数	二項定理をつかって多項式の計算ができる
		6週	場合の数	二項定理をつかって多項式の計算ができる
		7週	場合の数	章末問題や問題集が解ける。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	数列	数列のしくみを理解することができる
		10週	数列	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		11週	数列	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		12週	数列	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。
		13週	数列	漸化式を表すことができ、漸化式から一般項を求めることができる。
		14週	数列	数学的帰納法を用いて証明することができる。
		15週	練習問題	章末問題や問題集が解ける。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	力学基礎	
科目基礎情報							
科目番号	1A039			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	総合物理 1 ー力と運動・熱ー, リードα 物理基礎・物理, フォローアップドリル物理基礎/物理, フォトサイエンス物理図録						
担当教員	高橋 徹						
到達目標							
☐ 高校物理程度の力学の基礎を理解し、代表的な系について運動方程式を立てることができる。 ☐ 質点の位置・速度・加速度を求めることができる。 ☐ 力学的エネルギー保存則と運動量保存則を使うことができる。 ☐ 運動方程式や各種保存則を利用し、質点の運動を扱うことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を深く理解し、発展的な問題に適用できる。		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解し、基本的な問題に適用できる。		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解しておらず、基本的な問題に適用できない。		
評価項目2	運動の法則に関する基本的な考え方を深く理解し、質点や剛体のつりあいや、質点の運動に関する発展的な問題に適用できる。		運動の法則に関する基本的な考え方を理解し、質点や剛体のつりあいや、質点の運動に関する基本的な問題に適用できる。		運動の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず、質点や剛体のつりあいや、質点の運動に関する基本的な問題に適用できない。		
評価項目3	運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を深く理解し、発展的な問題に適用できる。		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解し、基本的な問題に適用できる。		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解しておらず、基本的な問題に適用できない。		
評価項目4	運動方程式や各種保存則、万有引力の法則に関する基本的な考え方を深く理解し、等速円運動や単振動、惑星の運動に関する発展的な問題に適用できる。		運動方程式や各種保存則、万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解し、等速円運動や単振動、惑星の運動に関する基本的な問題に適用できる。		運動方程式や各種保存則、万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず、等速円運動や単振動、惑星の運動に関する基本的な問題に適用できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	高校物理の教科書にほぼ則して、力学について講義します。						
授業の進め方・方法	座学						
注意点	【事前に行う準備学習】教科書の解説を読み、例題や演習問題を解くことで基礎的な理解を深めておくこと。 様々な学問の中で、物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に、日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を、納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず、先生や物理の得意な級友に、その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	運動の表し方(1)		等速直線運動		
		2週	運動の表し方(2)		変位・速度・平均速度・瞬間の速度		
		3週	運動の表し方(3)		速度の合成・相対速度		
		4週	加速度		等加速度直線運動		
		5週	落体の運動(1)		自由落下・鉛直投射		
		6週	落体の運動(2)		水平投射		
		7週	落体の運動(3)		斜方投射		
		8週	前期中間試験		第7週までの内容		
	2ndQ	9週	力のつりあい		力のつりあい・作用反作用の法則		
		10週	運動の法則(1)		運動方程式		
		11週	運動の法則(2)		運動方程式を用いた質点の運動の解析		
		12週	摩擦を受ける運動		静止摩擦力・動摩擦力		
		13週	液体や気体から受ける力		圧力・浮力・空気の抵抗		
		14週	剛体にはたらく力のつりあい		力のモーメント・剛体のつりあい・剛体にはたらく力の合力・偶力・重心		
		15週	前期定期試験答案返却		答案返却・まとめ		
		16週					
後期	3rdQ	1週	仕事		仕事・仕事の原理・仕事率		
		2週	運動エネルギー、位置エネルギー		運動エネルギー・重力の位置エネルギー・弾性力の位置エネルギー		
		3週	力学的エネルギーの保存(1)		力学的エネルギー保存則		
		4週	力学的エネルギーの保存(2)		力学的エネルギー保存則の応用		

		5週	運動量と力積	運動量・力積・運動量と力積の関係
		6週	運動量保存則	運動量保存則
		7週	反発係数	反発係数・2物体の衝突
		8週	後期中間試験	第7週までの内容
	4thQ	9週	等速円運動(1)	単振動の角速度・周期・回転数
		10週	等速円運動(2)	等速円運動の加速度・等速円運動に必要な力
		11週	慣性力	慣性力
		12週	単振動(1)	単振動の変位・速度・加速度
		13週	単振動(2)	単振動に必要な力・単振動の運動方程式とその応用
		14週	万有引力	ケプラーの法則・万有引力
		15週	後期定期試験答案返却	答案返却・まとめ
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語表現
科目基礎情報						
科目番号	1A041		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	探求 現代の国語：桐原書店：9784342121012					
担当教員	田貝 和子					
到達目標						
☐ 論理的な文章を客観的に理解することができる。 ☐ 論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。 ☐ 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 ☐ 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章を客観的に理解することが十分にできる。		論理的な文章を客観的に理解することができる。		論理的な文章を客観的に理解することができない。	
評価項目2	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することが十分にできる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができない。	
評価項目3	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることが十分にできる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、文章表現力の錬成も兼ねて「論旨の要旨」をまとめる作業を行う。					
授業の進め方・方法	1 学年の国語表現では、読むことを中心に行います。正確に読解することを通じて、考える力を身につけてください。それが、自分の考えを他人に正確に伝えるための表現力につながります。					
注意点	ノートを一冊用意してください。また、国語辞典も常に机の上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
		2週	口語文法		常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	
		3週	体験と思索Ⅰ 読書は必要か？ 1		筆者のものの見方や感じ方を理解することができる。	
		4週	体験と思索Ⅰ 読書は必要か？ 2		読書について考えることができる。	
		5週	評論Ⅰ 言葉の力 1		文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることができる。	
		6週	評論Ⅰ 言葉の力 2		日本の言葉について自分の考えを深めることができる。	
		7週	評論Ⅰ 言葉の力 3		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。	
		8週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 1		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
	2ndQ	9週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 2		論理性に着眼して評論を読み解く方法を学ぶことができる。	
		10週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 3		筆者の考えをまとめることができる。	
		11週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 4		現代の科学について自分の考えを深めることができる。	
		12週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 1		常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	
		13週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 2		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
		14週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 3		文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることができる。	
		15週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 4		社会のあり方について自分の考えを深めることができる。	
		16週	前期到達目標の確認		言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。	

後期	3rdQ	1週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
		2週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 2	他者の生き方から普遍的な価値を見出し、テーマに対する筆者の姿勢を理解することができる。
		3週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 3	生きることについての考えを深めることができる。
		4週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 1	社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。
		5週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 2	コミュニケーションに関する文章を読んで理解することができる。
		6週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 3	筆者の主張を踏まえた上で他者と自分との関係性について考えることができる。
		7週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 4	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。
		8週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
	4thQ	9週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 2	言語についての文章を読んで理解することができる。
		10週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 3	筆者の主張を踏まえたうえで、現代的テーマについて考えることができる。
		11週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 4	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。
		12週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
		13週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 2	社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。
		14週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 3	思考の相対化をテーマとした文章を読んで理解することができる。
		15週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 4	筆者の主張を踏まえたうえで、「相対性」といった現代的テーマについて考えることができる。
		16週	後期到達目標の確認	言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	歴史
科目基礎情報						
科目番号	1A042		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『詳述歴史総合』（実教出版）、『ダイアログ歴史総合』（第一学習社）					
担当教員	宮川 剛					
到達目標						
世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象について学ぶ。さらに、地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かし、かつ日本の歴史に多大な影響をおよぼしていく実態を学ぶ。そして、これらの学習内容が、現代の世界・日本とどのような関係を有しているのかを考察し、よりよき未来を切り開くために必要な視座を獲得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果に加えて、類似の現象についても説明することができる。		世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果について理解できる。		世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果がよくわかっていない。	
評価項目2	地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解し、授業で学んだ現象についても応用することができる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解できる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解していない。	
評価項目3	世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解し、よりよき未来を切り開くための視座を獲得している。		世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解している。		世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・現代の世界と日本の歴史的背景を学習することにより、現代の課題を見出し、その解決に向けて思考し、行動するための基礎的な知的訓練を積むことができる。 ・世界の国々の文化や社会の歴史的背景を学ぶことにより、グローバル化の時代にふさわしい教養・知識を身につけることができる。 ・現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするための訓練を積むことができる。 ・歴史における人類の偉業ならびに愚行について考察することにより、これからの世界を形作るうえで必要な教訓を得ることができる。					
授業の進め方・方法	・授業は主に講義形式で行なう。指定の教科書・資料集を用いて、主に近代以降の世界史と日本史に重点を置いて学習する。 ・基本的な歴史的事実を学習した後、担当教員との質疑応答のやり取りをつうじて、講義内容の理解を深めていく。学生には積極的に発言・質問することを期待する。 ・授業中配布する資料や文章を読んだり、レポートを作成したりすることにより、思考力や文章表現力を鍛える。					
注意点	課題提出を怠らないように。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション 16～19世紀の世界の経済（1）		近代の歴史を学ぶ意義について。 17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出について学ぶ。	
		2週	16～19世紀の世界の経済（2）		前半には、18世紀におけるヨーロッパとアジアの経済の関係について学ぶ。後半には産業革命の背景について学ぶ。	
		3週	16～19世紀の世界の経済（3）		産業革命期の技術革新、エネルギー革命。産業革命が社会に与えた影響。	
		4週	主権国家体制の確立 力独立革命（1）	アメリ	16～17世紀のヨーロッパで主権国家体制が確立していくプロセスを学ぶ。後半には、独立前のアメリカ植民地の状況を概観し、なぜ人々が独立を目指したのか、について理解する。	
		5週	アメリカ独立革命（2）		アメリカ独立戦争の原因、意義、課題について学ぶ。	
		6週	フランス革命とナポレオン（1）		フランス革命とナポレオンの時代の主な出来事と世界史におけるその意義について学ぶ。	
		7週	フランス革命とナポレオン（2）		フランス革命とナポレオンの時代の主な出来事と世界史におけるその意義について学ぶ。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	フランス革命とナポレオン（3）		フランス革命とナポレオンの時代がもたらした国民国家について学ぶ。	
		10週	ウィーン体制		ナポレオン戦争後の国際秩序はどのようなものか。 19世紀のヨーロッパ史の概要について学ぶ。	
		11週	19世紀のイギリスとフランス		19世紀のイギリスやフランスの政治や経済における変化、および市民社会の成立について学ぶ。	

後期		12週	ドイツとイタリアの統一	ドイツとイタリアにおける国民国家の形成過程について学び、日本との共通点、相違点を理解する。
		13週	19世紀のロシアと東方問題	ロシアの南下政策が周辺諸国に及ぼした影響。クリミア戦争。ロシアの国内改革。
		14週	19世紀のアメリカ合衆国	南北戦争期のアメリカについて学ぶ。奴隷制廃止と人種主義の台頭。
		15週	前期定期試験	
		16週	世界市場の形成	「バクス＝ブリタニカ」時代の世界経済について学ぶ。
	3rdQ	1週	アジアの変容と日本の近代化（１）	イスラーム世界の改革と再編。オスマン帝国とエジプトにおける改革と挫折について学ぶ。
		2週	アジアの変容と日本の近代化（２）	19世紀の清王朝の動揺と改革（１）——冊封体制とアヘン戦争
		3週	アジアの変容と日本の近代化（３）	19世紀の清王朝の動揺と改革（２）——太平天国と洋務運動
		4週	アジアの変容と日本の近代化（４）	岩倉使節団および明治初期における清、朝鮮との外交関係について学ぶ。
		5週	アジアの変容と日本の近代化（５）	明治初期における清、朝鮮との外交関係について学ぶ。
		6週	アジアの変容と日本の近代化（６）	土族の反乱および1870年代の自由民権運動の高まりについて学ぶ。
		7週	アジアの変容と日本の近代化（７）	1880年代における自由民権運動の行き詰まりと松方財政について学ぶ
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	アジアの変容と日本の近代化（８）	大日本帝国憲法の制定と帝国議会の開設について学ぶ。
		10週	帝国主義の時代（１）	第二次産業革命の進行と独占資本の形成が帝国主義をもたらすプロセスについて学ぶ。
		11週	帝国主義の時代（２）	帝国主義の時代の欧米社会の諸側面。国民統合の試みや人種差別の思想の台頭について学ぶ。
		12週	日清戦争	日清戦争とその後の展開、および1890年代の日本の政治について学ぶ。
		13週	日露戦争から韓国併合へ（１）	1890年代の中国における改革と挫折（戊戌の変法）。義和団戦争。日露戦争の勃発について学ぶ。
		14週	日露戦争から韓国併合へ（２）	日露戦争の結果、および韓国併合のプロセスについて学ぶ。
		15週	後期定期試験	
16週		まとめ	19世紀までの世界および日本の歴史についての総括	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号		1A043		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		1	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材							
担当教員		櫻岡 広					
到達目標							
☐ スポーツテストで自分自身の体力を知ることが出来る ☐ 救命処置を確実にすることが出来る ☐ 自分自身の適度な運動量を知ることが出来る ☐ エイズについて理解することが出来る							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		スポーツテストを通じて、自分の限界と適切な運動量を知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができない	
評価項目2		用具などの位置を把握し、救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができない	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		前期 ・スポーツテスト {自分自身の能力（体力）を知る} ・心拍数の測定（講義） ・球技大会の練習（スポーツ種目別の練習） ・心肺蘇生法（講義＆実習） 後期 ・至適歩行速度の説明（講義） ・トレーニング1 至適歩行速度を求める。 ・サッカー ・AIDSについて（講義）					
授業の進め方・方法		教科書は使わない、必要に応じてプリントを配布					
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		1年間の授業の説明・注意事項		
		2週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		3週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		4週	講義		身体活動の仕組みとそれを行うためのエネルギー産生について理解する		
		5週	スポーツテスト		持久走		
		6週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		7週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		8週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
	2ndQ	9週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		10週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		11週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		12週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		13週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		14週	救命処置（テスト）		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		15週	救命処置（テスト）		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		16週					
後期	3rdQ	1週	講義		至適運動強度について説明する		
		2週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		3週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		4週	テストⅠ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		5週	テストⅡ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		6週	テストⅢ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		7週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）		
		8週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）		

	4thQ	9週	フットサル	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）
		10週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		11週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		12週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		13週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		14週	講義	エイズについて理解する
		15週	講義	エイズについて理解する
		16週		

評価割合							
	試験	スポーツテスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	20	0	10	100
基礎的能力	0	10	0	20	0	10	40
専門的能力	60	0	0	0	0	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語表現
科目基礎情報						
科目番号	1A045		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Martin, David (2008) "Talk a Lot: Starter Book" EFL Press.					
担当教員	ウィリアム ファッセル					
到達目標						
Students can understand the basics of spoken English and make attempts to improve. Students can communicate in English regardless of proficiency level. Students can write simple sentences in English. Students can make effort to learn about other cultures.						
ルーブリック						
	Ideal Level		Standard Level		Unacceptable Level	
Achievement 1	Students are able to understand the textbook and written assignments accurately.		Students are able to adequately understand the textbook and written assignments.		Students are not able to understand the textbook and written assignments adequately.	
Achievement 2	Students are able to express themselves confidently and make earnest effort to improve.		Students are able to express themselves but are sometimes hesitant to speak.		Students are not able to express themselves, nor make any effort to improve.	
Achievement 3	Students seek every possible opportunity to use English in the classroom activities.		Students make a moderate effort to use English in the classroom activities.		Students make minimal to no effort to use English in the classroom activities.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The students will be learning common conversation phrases with basic grammar, and appropriate vocabulary from the textbook. The focus of the class will be improving confidence in speaking. To do this, students will participate in three types of presentations—individual, with pairs and in groups. Last, they will improve their vocabulary through creative writing exercises.					
授業の進め方・方法	Most classes will have textbook work with phrases and vocabulary that will involve individual work, pair work and group work. There will be supplementary activities to help students become familiar with textbook vocabulary and phrases and listening activities to enhance understanding of foreign cultures. Some classes will include writing activities where students express themselves freely. Exams given will cover the textbook and all materials, including presentations, done in the class.					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Introduction. Ice breaker. Orientation. Create Self Intro. Writing exercise.		Understanding class rules. Do short self intro. Learn writing prompts.	
		2週	Unit 1 Getting to Know Each Other. Explain vocabulary. Finish self-intros.		How to use the textbook and study for tests. Interview classmates confidently.	
		3週	Unit 1 Finish Unit. Listening activity. Presentation – pair work.		Introducing a friend. Listening clearly.	
		4週	Unit 2 Dates & Ordinal Numbers. Worksheet.		Ordinal numbers. Large numbers. Simple present, simple past.	
		5週	Unit 2 Finish Unit. Presentation-group.		Weather vocabulary. Pronouncing world places.	
		6週	Unit 3 Personal Information. Interviews. Writing activity.		Wh-questions; pronouns.	
		7週	Unit 3 Finish Unit. Explain test. Exam preparation. Interview practice.		Review and study.	
		8週	Midterm Exam includes material from Units 1, 2 and 3. Interview test will be included.		Problem solving.	
	2ndQ	9週	Pass back exam with explanation of answers. Unit 4 Likes and Dislikes. Presentation-self.		Wh- and Yes/No questions. Likes, dislikes. Self presentation with emotion.	
		10週	Unit 4 Finish Unit. Presentation-pair.		Favorites. Sharing information about classmates.	
		11週	Unit 6 “Wh-Questions.” Worksheet. Listening activity.		Adverbs of frequency. ‘How often’ questions.	
		12週	Unit 6 Finish Unit. Presentation-group.		Wh- questions and answers.	
		13週	Unit 7. Can and Can’t. Worksheet.		Talking about abilities, subjects, sports.	
		14週	Unit 7. Finish Unit. Prepare for exam. Explain sections of test. Interview practice.		Review and study.	
		15週	Final Exam includes materials from Units 1-6. Interview test will be included.		Problem solving.	
		16週	Return the final exam.		Review the exam.	
評価割合						
		Examination		Other		合計
総合評価割合		80		20		100

Basic Proficiency	80	20	100
-------------------	----	----	-----

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語A
科目基礎情報						
科目番号	1A046		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『MY WAY : English Communication I 』三省堂 『フェイバリット英単語・熟語　コーパス4500』東京書籍					
担当教員	横山 孝一					
到達目標						
1. 教科書で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 教科書の英文を読み、内容が理解できる。 4. 教科書の英語を聞いて理解することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	教科書で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が理解できない。	
評価項目 2	教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することができる。		教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。	
評価項目 3	教科書の英文を読み、内容がよく理解できる。		教科書の英文を読み、内容がある程度理解できる。		教科書の英文の内容が理解できない。	
評価項目 4	教科書の英語を聞いて内容をよく理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容をある程度理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教科書の英文読解・練習問題・リスニング問題を通じて、総合的な英語力の基礎構築を目標とする。 具体的には、英検準2級～2 級レベルの英語運用能力を目指す。					
授業の進め方・方法	冒頭で、人生の指針となる英語のことわざ名言を紹介する。教科書の英文読解を毎回 3 名の学生に発表してもらい、難しいところなどがどこか全員で考える。レッスンごとに配布する語句プリントを全員に記入してもらい、それを使って音読の練習をする。新出単語はネイティブの音声でアクセントに注意しながら練習する。本文の読解を演習形式で進め、重要な文法事項等について解説を加える。 教科書の練習問題を全員で行ない、答え合わせをする。毎回、習った構文・表現・文法を用いるオリジナルの英訳問題を宿題とし、次回、ことわざのあとに確認して応用力を養う。 中間試験と定期試験の 2 週間前に復習小テストを実施し、学習事項の要点を確認する。					
注意点	外国語を身につけるには、まず授業の予習復習を習慣づける必要があります。具体的には、英語と日本語の違いがひと目でわかる「対訳ノート」を作ってください。そのためのノートを早めに用意しておくこと。辞書を活用することで英語力が飛躍的に向上するので、辞書を引いて例文を対訳ノートに書き加えていくこともお勧めします。音声は教科書のQRコードを使って聞くことができるので自宅で活用しましょう。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Part 1		英語の学習方法を知ることができる。 動詞の現在形と過去形が理解できる。	
		2週	Lesson 1 Part 2		現在進行形の使い方が理解できる。	
		3週	Lesson 1 Part 3 総復習		SVOが理解できる。 Lesson 1 で学習した語彙・文法が理解できる	
		4週	Lesson 2 Part 1		助動詞が理解できる。	
		5週	Lesson 2 Part 2		受け身が理解できる。	
		6週	復習小テスト Lesson 2 Part 3		自分の弱点が理解できる。 助動詞のついた受け身が理解できる。	
		7週	答案返却と解説 Lesson 3 Part 1		前期中間試験範囲の要点が理解できる。 動名詞が理解できる。	
		8週	前期中間試験		上記項目の理解度が確認できる。	
	2ndQ	9週	答案返却と解説 Lesson 3 Part 2		前期中間試験の間違ったところが理解できる。 to不定詞の名詞的・副詞的用法が理解できる。	
		10週	Lesson 3 Part 3 総復習		to不定詞の形容詞的用法が理解できる。	
		11週	Lesson 5 Part 1		関係代名詞（主格）が理解できる。	
		12週	Lesson 5 Part 2		関係代名詞（目的格）が理解できる。	
		13週	復習小テスト Lesson 5 Part 3		自分の弱点が理解できる。 関係代名詞 what が理解できる。	
		14週	答案返却と解説 Lesson 5 Part 4		前期定期試験範囲の要点が理解できる。 It is + 形容詞 + to不定詞が理解できる。	
		15週	前期定期試験		上記項目の理解度が確認できる。	
		16週	答案返却と解説 Lesson 6 Part 1		前期定期試験の間違ったところが理解できる。。 現在分詞の形容詞的用法が理解できる。	
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Part 1		関係副詞 where が理解できる。	
		2週	Lesson 7 Part 2		関係副詞 when が理解できる。	

		3週	Lesson 7 Part 3	関係副詞 why が理解できる。
		4週	Lesson 7 Part 4 総復習	比較級・最上級が理解できる。 Lesson 7 で学習した語彙・文法が理解できる。
		5週	Lesson 8 Part 1	条件を表わす if 節が理解できる。
		6週	復習小テスト Lesson 8 Part 2	自分の弱点が理解できる。 仮定法過去が理解できる。
		7週	答案返却と解説 Lesson 8 Part 3	後期中間試験範囲の要点が理解できる。 i wish～が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目の理解度が確認できる。
	4thQ	9週	答案返却 Lesson 8 Part 4	後期中間試験の間違ったところが理解できる。 as if ～ が理解できる。
		10週	Lesson 9 Part 1	how to～ の第4 文型が理解できる。
		11週	Lesson 9 Part 2	SVO + to不定詞が理解できる。
		12週	Lesson 9 Part 3	SVOC（動詞の原形）が理解できる。
		13週	復習小テスト Lesson 9 Part 4	自分の弱点が理解できる。 SVOC（現在分詞）が理解できる。
		14週	復習小テスト返却と解説 Lesson10 Model 1	後期定期試験範囲の要点が理解できる。 プレゼンの基礎が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目の理解度が確認できる。
		16週	答案返却と解説 Lesson10 Model 2	後期定期試験の間違ったところが理解できる。 プレゼンの方法が理解できる。

評価割合			
	中間・定期試験	小テスト等	合計
総合評価割合	80	20	100
前期	40	10	50
後期	40	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学A I
科目基礎情報						
科目番号	1A048		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	前期		週時間数	4		
教科書/教材	新基礎数学改訂版（大日本図書） / 新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	平間 雄輔					
到達目標						
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。						
1. 方程式と不等式						
□ 2次方程式と2次不等式を解くことができる。						
□ いろいろな方程式・不等式を解くことができる。						
□ 方程式と恒等式の違いを説明でき、恒等式になるための条件を定めることができる。						
□ 等式と不等式の証明を行うことができる。						
□ 必要条件か十分条件かを、真理集合を考えて判定することができる。						
□ 命題の逆・裏・対偶を述べることができる。						
□ もとの命題とその対偶の真偽が一致することを納得し、証明問題に応用することができる。						
2. 関数とグラフ						
□ 2次関数のグラフの概形を、基本的性質を考えながらかくことができる。						
□ 2次関数の最大値・最小値を、グラフをかくて求めることができる。						
□ 「2次関数のグラフ」、「2次方程式・不等式」、「判別式」の関係を説明できる。						
□ べき関数・分数関数・無理関数のグラフをかくことができる。						
□ 関数のグラフを平行移動・対称移動・拡大（収縮）したグラフが表す関数を求めることができる。						
□ 関数の逆関数を求めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	複雑な方程式・不等式を基礎的知識を組み合わせて解くことができる。		教科書の例題レベルの方程式や不等式を正確に解くことができる。		教科書の例題レベルの方程式や不等式を解法が身についていない。	
評価項目2	式の変形や論証の過程を、基礎的知識を組み合わせて、厳密に書くことができる。		教科書の例題レベルの証明問題を解くことができる。		基本的な証明方法が身についていない。	
評価項目3	グラフの平行移動などの基礎的知識を組み合わせて、関数の決定ができた、未定係数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。		教科書の例題レベルの関数のグラフを描くことができる。		関数の基本的性質が身についていないため、グラフをかくことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 方程式と不等式 ・方程式と不等式を解くための処理能力や、2次方程式の解と係数の関係など基本知識の習得を図る。 ・方程式と恒等式の違いや命題に関する基本的事柄、等式・不等式の証明を通じて論理的能力を養う。 2. 関数とグラフ ・2次関数のグラフの頂点や軸などの基本的知識を解説し、論理的思考と計算力を同時に養う。 ・2次関数、べき関数、分数関数、無理関数のグラフをかく練習をする。 また、平行移動・対称移動・拡大（縮小）の有用性を解説する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	2次方程式	2次方程式を解の公式を用いて解くことができ、解と係数の関係を説明できる。		
		2週	いろいろな方程式	高次方程式、連立方程式、分数や根号を含む方程式を解くことができる。		
		3週	恒等式・等式の証明	方程式と恒等式の違いを説明でき、恒等式になるための条件を定めることができる。また、等式の証明法を身につける。		
		4週	1次不等式	不等式の基本的性質を理解し、1次不等式を解くことができる。		
		5週	いろいろな不等式	2次不等式、高次不等式を解くことができる。		
		6週	不等式の証明	不等式の証明法を身につける。		
		7週	集合	2つの集合の共通部分、和集合、補集合の概念を理解し、ド・モルガンの法則を説明できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	命題	必要条件か十分条件かを、真理集合を考えて判定することができる。また、もとの命題とその対偶の真偽が一致することを納得し、証明問題に応用することができる。		
		10週	2次関数のグラフ	2次関数のグラフの概形を、基本的性質を考えながらかくことができる。		

		11週	2次関数の最大・最小	2次関数の最大値・最小値を，グラフをかいて求めることができる。
		12週	2次関数と2次方程式・不等式	「2次関数のグラフ」，「2次方程式・不等式」，「判別式」の関係を説明できる。また，任意の2次不等式を解くことができる。
		13週	べき関数と分数関数	グラフの平行移動を用いて，べき関数と分数関数のグラフをかくことができる。
		14週	無理関数	グラフの対称移動・拡大（縮小）に対応する関数を理解し，無理関数のグラフをかくことができる。
		15週	逆関数	逆関数を求める方法を身につけ，実際に求めることができる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学AⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	1A049			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	新基礎数学改訂版（大日本図書） / 新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）						
担当教員	平間 雄輔						
到達目標							
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。							
1. 三角関数							
□鋭角に対する三角比の定義を直角三角形を用いて述べることができる。							
□正弦定理や余弦定理を用いて、図形の長さや角度、面積を求めることができる。							
□一般角において三角比の定義（単位円を用いた定義）を述べることができる。							
□三角関数の諸公式（加法定理、2倍角の公式、合成など）を駆使した計算ができる。							
□三角関数のグラフを用いて、三角方程式や不等式を解くことができる。							
2. 指数関数と対数関数							
□指数の考え方を、実数まで拡張して扱うことができる。							
□指数関数と対数関数の関係を説明することができる。							
□対数関数の諸公式が成り立つことを、定義に従って説明できる。							
□対数関数の諸公式を用いて、対数関数を含む式の計算ができる。							
□常用対数を用いて、自然数の桁数を求めることなどへの応用ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		三角比および三角関数の定義を理解し、複雑な三角方程式や不等式を正確に解くことができる。		三角比および三角関数の定義を理解し、三角方程式や不等式を解くことができる。		三角比および三角関数の定義を理解できず応用できない。	
評価項目2		正弦定理や余弦定理の仕組みを十分理解し、図形の長さや角度、面積を求めることができる。		正弦定理や余弦定理を用いて図形の長さや角度、面積を求めることができる。		正弦定理や余弦定理を使うことができない。	
評価項目3		指数関数や対数関数の定義や性質を理解し、諸公式を導き様々な問題に的確に応用できる。		指数関数と対数関数の定義や性質を理解し、諸公式を様々な問題に応用できる。		指数関数や対数関数の定義や性質を理解できず応用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		1. 三角関数 ・三角比とその応用について解説する（正弦定理、余弦定理など）。 ・三角関数の諸公式（加法定理、2倍角の公式、合成など）を解説し、論理的思考能力や図形的考察力を養う。 ・三角関数の諸公式を駆使した計算の習熟を図る。 ・三角関数のグラフと、三角方程式や不等式へ応用を解説し習熟を図る。 2. 指数関数と対数関数 ・指数の考え方が、実数にまで拡張できることを解説する。 ・指数関数と対数関数の関係やグラフについて解説する。 ・指数関数を含んだ式の計算に習熟する。 ・指数及び対数関数の有用性を応用問題を通して解説し、その演習も行う。					
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	三角比とその応用（1）		鋭角の三角比が理解できる。		
		2週	三角比とその応用（2）		鈍角の三角比が理解できる。		
		3週	三角比とその応用（3）		正弦定理、余弦定理、三角比と三角形の面積の関係が理解できる。		
		4週	三角関数（1）		一般角と弧度法が理解できる。		
		5週	三角関数（2）		三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		6週	三角関数（3）		三角関数の方程式、不等式が解ける。		
		7週	加法定理とその応用（1）		加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	加法定理とその応用（2）		加法定理の応用ができる。		
		10週	指数関数（1）		累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。		
		11週	指数関数（2）		指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		12週	指数関数（3）		指数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
		13週	対数関数（1）		対数の性質を理解し、簡単な計算ができる。		
		14週	対数関数（2）		対数関数のグラフをかくことができ、対数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
		15週	対数関数（3）		常用対数を使うことができる。		

		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	1A050			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 3	
開設学科	一般教育			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	前期:4 後期:2	
教科書/教材	教科書：新基礎数学改訂版（大日本図書） 問題集：新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	中島 敏					
到達目標						
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。						
1. 数と式の計算						
☐ 整式の加減乗除の計算、式の展開やたすき掛けによる因数分解ができる。						
☐ 因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。						
☐ 剰余の定理、因数定理などを理解し、因数分解へ応用することができる。						
☐ 分数式の加減乗除の計算ができる。						
☐ 実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。						
☐ 平方根の基本的な計算ができる（分母の有理化も含む）。						
☐ 数概念（実数、複素数）と演算を習得し、基本的な計算問題を処理できる。						
☐ 複素数における概念（共役、大きさなど）を、複素数平面上で説明・考察できる。						
2. 図形と式						
☐ 座標平面における2点間の距離、直線の方程式、点と直線の距離を求めることができる。						
☐ 内分点の座標を求めることができる。						
☐ 2直線が平行・垂直になるための条件を学び、関連する問題へ応用できる。						
☐ 簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。						
☐ 放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。						
☐ 2次曲線（およびその接線）の方程式を求めたり、グラフをかくことができる。						
☐ 簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。						
☐ （連立）不等式の表す領域を図示することができる。						
3. 数列と場合の数						
☐ 積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。						
☐ 簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。						
☐ 二項定理が成り立つことを納得し、実際に適用できる。						
☐ 等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。						
☐ 総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。						
☐ 数学的帰納法を用いて、自然数を含んだ命題の証明ができる。						
☐ 漸化式の意味を納得し、実際に漸化式を解くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	数と式についての複雑な計算ができる		数と式についての基本的な計算ができる		数と式についての基本的な計算ができない	
評価項目2	複雑な図形の性質を調べる事ができる		基本的な図形の性質を調べる事ができる		基本的な図形の性質を調べる事ができない	
評価項目3	数列の複雑な計算をすることができる		数列の基本的な計算をすることができる		数列の基本的な計算をすることができない	
評価項目4	場合の数の複雑な計算をすることができる		場合の数の基本的な計算をすることができる		場合の数の基本的な計算をすることができない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 数と式の計算 ・ 整式の計算技能の習熟を図る（整式の加減乗除、因数分解）。 ・ 整式の性質の理解を図る（剰余の定理、因数定理など）。 ・ 数概念（実数、複素数）の理解と演算の習得を図る。 ・ 複素数平面を導入し、複素数は実数の拡張であることを実感させる。 2. 図形と式 ・ 座標平面における2点間の距離、直線の方程式、点と直線の距離の公式とその習熟を図る。 ・ 直線や2次曲線の方程式とグラフについて解説し、その習熟を図る。 ・ 座標平面を利用して、図形を数式で表せることの有用性を実感させる。 ・ 方程式が表す曲線だけでなく、（連立）不等式の表す領域についても解説し、その習熟を図る。 3. 数列と場合の数 ・ 順列、組合せに関する基本的な考え方を習熟する。 ・ 二項定理を解説し、実際に適用できるようにする。 ・ 等差数列と等比数列の一般項や、シグマ記号を用いていろいろな数列の和を取り扱う。 ・ 数学的帰納法のしくみを例を挙げて解説し、面白さを伝え、適用できるようにする。 ・ 漸化式の意味を解説し、実際に漸化式を解く技能を習熟する。					
授業の進め方・方法	高専での授業は座学が中心であるが、その授業形式は担当教員によって様々であるが、どの方法も高専で学修する上で必要なことである。 業では各自の学び方によってその日の内容を理解することに注力するようにつとめてほしい。					
注意点	授業の受け方、ノートのとり方、解答の書き方など、高専での学習方法になるべく早く身につける必要がある。 授業で学習した方法を参考にして教科書の問、練習問題をすべて解き、また必ずしも授業では取り上げられない教科書併用の問題集などの問題も積極的に解くことがのぞましい。 数学Bで学習する内容は、今後学習する数学や専門科目でもよく使われるので、授業の予習・復習と、自発的な問題演習に取り組むことを強くのぞまれる。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	整式の計算		整式の加減乗除の計算ができる。	
		2週	整式の計算		公式等を利用して因数分解ができる。	

		3週	整式の計算	公式等を利用して因数分解ができる。
		4週	整式の計算	分数式の加減乗除の計算ができる。
		5週	いろいろな数と式	分数式の加減乗除の計算ができる。
		6週	いろいろな数と式	実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の基本的な計算ができる。
		7週	いろいろな数と式	複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	点と直線	2点間の距離を求めることができる。
		10週	点と直線	内分点の座標を求めることができる。
		11週	点と直線	通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。 2つの直線の平行・垂直条件を理解している。
		12週	2次曲線	基本的な円の方程式を求めることができる。
		13週	2次曲線	楕円・双曲線・放物線の方程式を求めることができる
		14週	2次曲線	領域について理解できる
		15週	練習問題	章末問題や問題集が解ける。
		16週		
後期	3rdQ	1週	場合の数	積の法則と和の法則の違いを理解することができる
		2週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		3週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		4週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		5週	場合の数	二項定理をつかって多項式の計算ができる
		6週	場合の数	二項定理をつかって多項式の計算ができる
		7週	場合の数	章末問題や問題集が解ける。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	数列	数列のしくみを理解することができる
		10週	数列	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		11週	数列	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		12週	数列	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。
		13週	数列	漸化式を表すことができ、漸化式から一般項を求めることができる。
		14週	数列	数学的帰納法を用いて証明することができる。
		15週	練習問題	章末問題や問題集が解ける。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	力学基礎
科目基礎情報						
科目番号	1A052		科目区分		一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年		1	
開設期	通年		週時間数		2	
教科書/教材	総合物理 1 ー力と運動・熱ー, リードα 物理基礎・物理, フォローアップドリル物理基礎/物理, フォトサイエンス物理図録					
担当教員	高橋 徹					
到達目標						
□高校物理程度の力学の基礎を理解し、代表的な系について運動方程式を立てることができる。 □質点の位置・速度・加速度を求めることができる。 □力学的エネルギー保存則と運動量保存則を使うことができる。 □運動方程式や各種保存則を利用し、質点の運動を扱うことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を深く理解し、発展的な問題に適用できる。		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解し、基本的な問題に適用できる。		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解しておらず、基本的な問題に適用できない。	
評価項目2	運動の法則に関する基本的な考え方を深く理解し、質点や剛体のつりあいや、質点の運動に関する発展的な問題に適用できる。		運動の法則に関する基本的な考え方を理解し、質点や剛体のつりあいや、質点の運動に関する基本的な問題に適用できる。		運動の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず、質点や剛体のつりあいや、質点の運動に関する基本的な問題に適用できない。	
評価項目3	運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を深く理解し、発展的な問題に適用できる。		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解し、基本的な問題に適用できる。		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解しておらず、基本的な問題に適用できない。	
評価項目4	運動方程式や各種保存則、万有引力の法則に関する基本的な考え方を深く理解し、等速円運動や単振動、惑星の運動に関する発展的な問題に適用できる。		運動方程式や各種保存則、万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解し、等速円運動や単振動、惑星の運動に関する基本的な問題に適用できる。		運動方程式や各種保存則、万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず、等速円運動や単振動、惑星の運動に関する基本的な問題に適用できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	高校物理の教科書にほぼ則して、力学について講義します。					
授業の進め方・方法	座学					
注意点	様々な学問の中で、物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に、日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を、納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず、先生や物理の得意な級友に、その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	運動の表し方(1)		等速直線運動に関する計算と説明ができる。	
		2週	運動の表し方(2)		変位・速度・平均速度・瞬間の速度に関する計算と説明ができる。	
		3週	運動の表し方(3)		速度の合成・相対速度に関する計算と説明ができる。	
		4週	加速度		等加速度直線運動に関する計算と説明ができる。	
		5週	落体の運動(1)		自由落下・鉛直投射に関する計算と説明ができる。	
		6週	落体の運動(2)		水平投射に関する計算と説明ができる。	
		7週	落体の運動(3)		斜方投射に関する計算と説明ができる。	
		8週	前期中間試験		第7週までの内容	
	2ndQ	9週	力のつりあい		力のつりあい・作用反作用の法則に関する計算と説明ができる。	
		10週	運動の法則(1)		運動方程式に関する計算と説明ができる。	
		11週	運動の法則(2)		運動方程式を用いて質点の運動を説明・解析できる。	
		12週	摩擦を受ける運動		静止摩擦力・動摩擦力に関する計算と説明ができる。	
		13週	液体や気体から受ける力		圧力・浮力・空気の抵抗に関する計算と説明ができる。	
		14週	剛体にはたらく力のつりあい		力のモーメント・剛体のつりあい・剛体にはたらく力の合力・偶力・重心に関する計算と説明ができる。	
		15週	前期定期試験答案返却		答案返却・まとめ	
		16週				
後期	3rdQ	1週	仕事		仕事・仕事の原理・仕事率に関する計算と説明ができる。	
		2週	運動エネルギー、位置エネルギー		運動エネルギー・重力の位置エネルギー・弾性力の位置エネルギーに関する計算と説明ができる。	
		3週	力学的エネルギーの保存(1)		力学的エネルギー保存則に関する計算と説明ができる。	

		4週	力学的エネルギーの保存(2)	力学的エネルギー保存則を応用して、物体の運動を解析・説明できる。
		5週	運動量と力積	運動量・力積・運動量と力積の関係に関する計算と説明ができる。
		6週	運動量保存則	運動量保存則に関する計算と説明ができる。
		7週	反発係数	反発係数・2物体の衝突に関する計算と説明ができる。
		8週	後期中間試験	第7週までの内容
	4thQ	9週	等速円運動(1)	単振動の角速度・周期・回転数に関する計算と説明ができる。
		10週	等速円運動(2)	等速円運動の加速度・等速円運動に必要な力に関する計算と説明ができる。
		11週	慣性力	慣性力に関する計算と説明ができる。
		12週	単振動(1)	単振動の変位・速度・加速度に関する計算と説明ができる。
		13週	単振動(2)	単振動に必要な力・単振動の運動方程式とその応用に関する計算と説明ができる。
		14週	万有引力	ケプラーの法則・万有引力に関する計算と説明ができる。
		15週	後期定期試験答案返却	答案返却・まとめ
		16週		

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語表現
科目基礎情報						
科目番号	1A054		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	探求 現代の国語：桐原書店：9784342121012					
担当教員	田貝 和子					
到達目標						
☐ 論理的な文章を客観的に理解することができる。 ☐ 論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。 ☐ 自己の考えを論理的、客観的に表現するための基本的な能力を養うことができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。 ☐ 現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章を客観的に理解することが十分にできる。		論理的な文章を客観的に理解することができる。		論理的な文章を客観的に理解することができない。	
評価項目2	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することが十分にできる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができる。		論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約することができない。	
評価項目3	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることが十分にできる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができる。		現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字等の基礎的知識について理解を深めることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	語彙・文法的事項を丁寧に確認しつつ、文章の展開に即して論旨を正確に把握し、論説内容に検討を加える。併せて、文章表現力の錬成も兼ねて「論旨の要旨」をまとめる作業を行う。					
授業の進め方・方法	1 学年の国語表現では、読むことを中心に行います。正確に読解することを通じて、考える力を身につけてください。それが、自分の考えを他人に正確に伝えるための表現力につながります。					
注意点	ノートを一冊用意してください。また、国語辞典も常に机の上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
		2週	口語文法		常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	
		3週	体験と思索Ⅰ 読書は必要か？ 1		筆者のものの見方や感じ方を理解することができる。	
		4週	体験と思索Ⅰ 読書は必要か？ 2		読書について考えることができる。	
		5週	評論Ⅰ 言葉の力 1		文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることができる。	
		6週	評論Ⅰ 言葉の力 2		日本の言葉について自分の考えを深めることができる。	
		7週	評論Ⅰ 言葉の力 3		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。	
		8週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 1		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
	2ndQ	9週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 2		論理性に着眼して評論を読み解く方法を学ぶことができる。	
		10週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 3		筆者の考えをまとめることができる。	
		11週	評論Ⅱ サイボーグとクローン人間 4		現代の科学について自分の考えを深めることができる。	
		12週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 1		常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	
		13週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 2		社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。	
		14週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 3		文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えることができる。	
		15週	評論Ⅲ 経済の論理／環境の倫理 4		社会のあり方について自分の考えを深めることができる。	
		16週	前期到達目標の確認		言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。	

後期	3rdQ	1週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
		2週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 2	他者の生き方から普遍的な価値を見出し、テーマに対する筆者の姿勢を理解することができる。
		3週	体験と思索Ⅱ レオーノフの帽子屋 3	生きることについての考えを深めることができる。
		4週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 1	社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。
		5週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 2	コミュニケーションに関する文章を読んで理解することができる。
		6週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 3	筆者の主張を踏まえた上で他者と自分との関係性について考えることができる。
		7週	評論Ⅳ わかつとうとする姿勢 4	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。
		8週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
	4thQ	9週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 2	言語についての文章を読んで理解することができる。
		10週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 3	筆者の主張を踏まえたうえで、現代的テーマについて考えることができる。
		11週	評論Ⅴ 言葉を学ぶとは 4	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。
		12週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 1	常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。
		13週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 2	社会生活で使われる語彙（故事成語・慣用句等を含む）を増やし、思考・表現に活用できる。
		14週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 3	思考の相対化をテーマとした文章を読んで理解することができる。
		15週	評論Ⅵ 歴史は「今・ここ・私」に向かつてはいない 4	筆者の主張を踏まえたうえで、「相対性」といった現代的テーマについて考えることができる。
		16週	後期到達目標の確認	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	歴史
科目基礎情報						
科目番号	1A055		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『詳述歴史総合』（実教出版）、『ダイアログ歴史総合』（第一学習社）					
担当教員	宮川 剛					
到達目標						
世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象について学ぶ。さらに、地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かし、かつ日本の歴史に多大な影響をおよぼしていく実態を学ぶ。そして、これらの学習内容が、現代の世界・日本とどのような関係を有しているのかを考察し、よりよき未来を切り開くために必要な視座を獲得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果に加えて、類似の現象についても説明することができる。		世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果について理解できる。		世界史と日本史における重要な諸事件や諸現象の原因・結果がよくわかっていない。	
評価項目2	地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解し、授業で学んだ現象についても応用することができる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解できる。		地球上の多様な地域や国家の間のヒト・モノ・情報の交流が、それぞれの地域や国家に影響を与え、世界史を動かしていく実態を理解していない。	
評価項目3	世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解し、よりよき未来を切り開くための視座を獲得している。		世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解している。		世界史と日本史の学習内容が現代の世界とどのように関係しているかを理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	・現代の世界と日本の歴史的背景を学習することにより、現代の課題を見出し、その解決に向けて思考し、行動するための基礎的な知的訓練を積むことができる。 ・世界の国々の文化や社会の歴史的背景を学ぶことにより、グローバル化の時代にふさわしい教養・知識を身につけることができる。 ・現代の日本とは異なる過去の社会や人々の生活を学ぶことにより、物事について多様な角度からアプローチするための訓練を積むことができる。 ・歴史における人類の偉業ならびに愚行について考察することにより、これからの世界を形作るうえで必要な教訓を得ることができる。					
授業の進め方・方法	・授業は主に講義形式で行なう。指定の教科書・資料集を用いて、主に近代以降の世界史と日本史に重点を置いて学習する。 ・基本的な歴史的事実を学習した後、担当教員との質疑応答のやり取りをつうじて、講義内容の理解を深めていく。学生には積極的に発言・質問することを期待する。 ・授業中配布する資料や文章を読んだり、レポートを作成したりすることにより、思考力や文章表現力を鍛える。					
注意点	課題提出を怠らないように。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション 16～19世紀の世界の経済（1）		近代の歴史を学ぶ意義について。 17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出について学ぶ。	
		2週	16～19世紀の世界の経済（2）		前半には、18世紀におけるヨーロッパとアジアの経済の関係について学ぶ。後半には産業革命の背景について学ぶ。	
		3週	16～19世紀の世界の経済（3）		産業革命期の技術革新、エネルギー革命。産業革命が社会に与えた影響。	
		4週	主権国家体制の確立 力独立革命（1）	アメリ	16～17世紀のヨーロッパで主権国家体制が確立していくプロセスを学ぶ。後半には、独立前のアメリカ植民地の状況を概観し、なぜ人々が独立を目指したのか、について理解する。	
		5週	アメリカ独立革命（2）		アメリカ独立戦争の原因、意義、課題について学ぶ。	
		6週	フランス革命とナポレオン（1）		フランス革命とナポレオンの時代の主な出来事と世界史におけるその意義について学ぶ。	
		7週	フランス革命とナポレオン（2）		フランス革命とナポレオンの時代の主な出来事と世界史におけるその意義について学ぶ。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	フランス革命とナポレオン（3）		フランス革命とナポレオンの時代がもたらした国民国家について学ぶ。	
		10週	ウィーン体制		ナポレオン戦争後の国際秩序はどのようなものか。 19世紀のヨーロッパ史の概要について学ぶ。	
		11週	19世紀のイギリスとフランス		19世紀のイギリスやフランスの政治や経済における変化、および市民社会の成立について学ぶ。	

後期		12週	ドイツとイタリアの統一	ドイツとイタリアにおける国民国家の形成過程について学び、日本との共通点、相違点を理解する。			
		13週	19世紀のロシアと東方問題	ロシアの南下政策が周辺諸国に及ぼした影響。クリミア戦争。ロシアの国内改革。			
		14週	19世紀のアメリカ合衆国	南北戦争期のアメリカについて学ぶ。奴隷制廃止と人種主義の台頭。			
		15週	前期定期試験				
		16週	世界市場の形成	「バクス＝ブリタニカ」時代の世界経済について学ぶ。			
	3rdQ	1週	アジアの変容と日本の近代化（１）	イスラーム世界の改革と再編。オスマン帝国とエジプトにおける改革と挫折について学ぶ。			
		2週	アジアの変容と日本の近代化（２）	19世紀の清王朝の動揺と改革（１）——冊封体制とアヘン戦争			
		3週	アジアの変容と日本の近代化（３）	19世紀の清王朝の動揺と改革（２）——太平天国と洋務運動			
		4週	アジアの変容と日本の近代化（４）	岩倉使節団および明治初期における清、朝鮮との外交関係について学ぶ。			
		5週	アジアの変容と日本の近代化（５）	明治初期における清、朝鮮との外交関係について学ぶ。			
		6週	アジアの変容と日本の近代化（６）	土族の反乱および1870年代の自由民権運動の高まりについて学ぶ。			
		7週	アジアの変容と日本の近代化（７）	1880年代における自由民権運動の行き詰まりと松方財政について学ぶ			
		8週	後期中間試験				
	4thQ	9週	アジアの変容と日本の近代化（８）	大日本帝国憲法の制定と帝国議会の開設について学ぶ。			
		10週	帝国主義の時代（１）	第二次産業革命の進行と独占資本の形成が帝国主義をもたらすプロセスについて学ぶ。			
		11週	帝国主義の時代（２）	帝国主義の時代の欧米社会の諸側面。国民統合の試みや人種差別の思想の台頭について学ぶ。			
		12週	日清戦争	日清戦争とその後の展開、および1890年代の日本の政治について学ぶ。			
		13週	日露戦争から韓国併合へ（１）	1890年代の中国における改革と挫折（戊戌の変法）。義和団戦争。日露戦争の勃発について学ぶ。			
		14週	日露戦争から韓国併合へ（２）	日露戦争の結果、および韓国併合のプロセスについて学ぶ。			
		15週	後期定期試験				
		16週	まとめ	19世紀までの世界および日本の歴史についての総括			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号		1A056		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		1	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材							
担当教員		櫻岡 広					
到達目標							
☐ スポーツテストで自分自身の体力を知ることが出来る ☐ 救命処置を確実にすることが出来る ☐ 自分自身の適度な運動量を知ることが出来る ☐ エイズについて理解することが出来る							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		スポーツテストを通じて、自分の限界と適切な運動量を知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができる		自分の体力をスポーツテストで知ることができない	
評価項目2		用具などの位置を把握し、救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができる		救命措置をおこなうことができない	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		前期 ・スポーツテスト {自分自身の能力（体力）を知る} ・心拍数の測定（講義） ・球技大会の練習（スポーツ種目別の練習） ・心肺蘇生法（講義＆実習） 後期 ・至適歩行速度の説明（講義） ・トレーニング1 至適歩行速度を求める。 ・サッカー ・AIDSについて（講義）					
授業の進め方・方法		教科書は使わない、必要に応じてプリントを配布					
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション		1年間の授業の説明・注意事項		
		2週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		3週	スポーツテスト		50m走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び等		
		4週	講義		身体活動の仕組みとそれを行うためのエネルギー産生について理解する		
		5週	スポーツテスト		持久走		
		6週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		7週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
		8週	ソフトボール		投・捕・打というスポーツの基本動作の習得		
	2ndQ	9週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		10週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		11週	球技大会練習		球技大会の出場種目別に練習		
		12週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		13週	救命処置		ダミーを使って、人工呼吸・胸骨圧迫を習得する		
		14週	救命処置（テスト）		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		15週	救命処置（テスト）		人工呼吸・胸骨圧迫が習得できているかテストする		
		16週					
後期	3rdQ	1週	講義		至適運動強度について説明する		
		2週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		3週	ウォーキング		個々人の至適歩行速度を求め、その歩行速度を体得する		
		4週	テストⅠ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		5週	テストⅡ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		6週	テストⅢ		至適歩行速度を体得できているか確認するテスト		
		7週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）		
		8週	フットサル		各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）		

	4thQ	9週	フットサル	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（下半身を使うスポーツ）
		10週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		11週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		12週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		13週	バレーボール	各科でチームを作り、総当たりでゲームをする（上半身を使うスポーツ）
		14週	講義	エイズについて理解する
		15週	講義	エイズについて理解する
		16週		

評価割合							
	試験	スポーツテスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	20	0	10	100
基礎的能力	0	10	0	20	0	10	40
専門的能力	60	0	0	0	0	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語表現
科目基礎情報						
科目番号	1A058		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	Martin, David (2008) "Talk a Lot: Starter Book," EFL Press.					
担当教員	ウィリアム ファッセル					
到達目標						
Students can understand the basics of spoken English and make attempts to improve. Students can communicate in English regardless of proficiency level. Students can write simple sentences in English. Students can make effort to learn about other cultures.						
ルーブリック						
	Ideal Level		Standard Level		Unacceptable Level	
Achievement 1	Students are able to understand the textbook and written assignments accurately.		Students are able to adequately understand the textbook and written assignments.		Students are not able to understand the textbook and written assignments adequately.	
Achievement 2	Students are able to express themselves confidently and make earnest effort to improve.		Students are able to express themselves but are sometimes hesitant to speak.		Students are not able to express themselves, nor make any effort to improve.	
Achievement 3	Students seek every possible opportunity to use English in the classroom activities.		Students make a moderate effort to use English in the classroom activities.		Students make minimal to no effort to use English in the classroom activities.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	The students will be learning common conversation phrases with basic grammar, and appropriate vocabulary from the textbook. The focus of the class will be improving confidence in speaking. To do this, students will participate in three types of presentations—individual, with pairs and in groups. Last, they will improve their vocabulary through creative writing exercises.					
授業の進め方・方法	Most classes will have textbook work with phrases and vocabulary that will involve individual work, pair work and group work. There will be supplementary activities to help students become familiar with textbook vocabulary and phrases and listening activities to enhance understanding of foreign cultures. Some classes will include writing activities where students express themselves freely. Exams given will cover the textbook and all materials, including presentations, done in the class.					
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Introduction. Ice breaker. Orientation. Create Self Intro. Writing exercise.	Understanding class rules. Do short self intro. Learn writing prompts.		
		2週	Unit 1 Getting to Know Each Other. Explain vocabulary. Finish self-intros.	How to use the textbook and study for tests. Interview classmates confidently.		
		3週	Unit 1 Finish Unit. Listening activity. Presentation – pair work.	Introducing a friend. Listening clearly.		
		4週	Unit 2 Dates & Ordinal Numbers. Worksheet.	Ordinal numbers. Large numbers. Simple present, simple past.		
		5週	Unit 2 Finish Unit. Presentation-group.	Weather vocabulary. Pronouncing world places.		
		6週	Unit 3 Personal Information. Interviews. Writing activity.	Wh-questions; pronouns.		
		7週	Unit 3 Finish Unit. Explain test. Exam preparation. Interview practice.	Review and study.		
		8週	Midterm Exam includes material from Units 1, 2 and 3. Interview test will be included.	Problem solving.		
	4thQ	9週	Pass back exam with explanation of answers. Unit 4 Likes and Dislikes. Presentation-self.	Wh- and Yes/No questions. Likes, dislikes. Self presentation with emotion.		
		10週	Unit 4 Finish Unit. Presentation-pair.	Favorites. Sharing information about classmates.		
		11週	Unit 6 “Wh-Questions.” Worksheet. Listening activity.	Adverbs of frequency. ‘How often’ questions.		
		12週	Unit 6 Finish Unit. Presentation-group.	Wh- questions and answers.		
		13週	Unit 7. Can and Can’t. Worksheet.	Talking about abilities, subjects, sports.		
		14週	Unit 7. Finish Unit. Prepare for exam. Explain sections of test. Interview practice.	Review and study.		
		15週	Final Exam includes materials from Units 1-6. Interview test will be included.	Problem solving.		
		16週	Return the final exam.	Review the exam.		
評価割合						
	Examination		Other		合計	
総合評価割合	80		20		100	

Basic Proficiency	80	20	100
-------------------	----	----	-----

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語A
科目基礎情報						
科目番号	1A059		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『MY WAY : English Communication I 』三省堂 『フェイバリット英単語・熟語　コーパス4500』東京書籍					
担当教員	横山 孝一					
到達目標						
1. 教科書で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 教科書の英文を読み、内容が理解できる。 4. 教科書の英語を聞いて理解することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	教科書で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が理解できない。	
評価項目 2	教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することができる。		教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。	
評価項目 3	教科書の英文を読み、内容がよく理解できる。		教科書の英文を読み、内容がある程度理解できる。		教科書の英文の内容が理解できない。	
評価項目 4	教科書の英語を聞いて内容をよく理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容をある程度理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	教科書の英文読解・練習問題・リスニング問題を通じて、総合的な英語力の基礎構築を目標とする。 具体的には、英検準2級～2 級レベルの英語運用能力を目指す。					
授業の進め方・方法	冒頭で、人生の指針となる英語のことわざ名言を紹介する。教科書の英文読解を毎回 3 名の学生に発表してもらい、難しいところなどがどこか全員で考える。レッスンごとに配布する語句プリントを全員に記入してもらい、それを使って音読の練習をする。新出単語はネイティブの音声でアクセントに注意しながら練習する。本文の読解を演習形式で進め、重要な文法事項等について解説を加える。 教科書の練習問題を全員で行ない、答え合わせをする。毎回、習った構文・表現・文法を用いるオリジナルの英訳問題を宿題とし、次回、ことわざのあとに確認して応用力を養う。 中間試験と定期試験の 2 週間前に復習小テストを実施し、学習事項の要点を確認する。					
注意点	外国語を身につけるには、まず授業の予習復習を習慣づける必要があります。具体的には、英語と日本語の違いがひと目でわかる「対訳ノート」を作ってください。そのためのノートを早めに用意しておくこと。辞書を活用することで英語力が飛躍的に向上するので、辞書を引いて例文を対訳ノートに書き加えていくこともお勧めします。音声は教科書のQRコードを使って聞くことができるので自宅で活用しましょう。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Part 1		英語の学習方法を知ることができる。 動詞の現在形と過去形が理解できる。	
		2週	Lesson 1 Part 2		現在進行形の使い方が理解できる。	
		3週	Lesson 1 Part 3 総復習		SVOが理解できる。 Lesson 1 で学習した語彙・文法が理解できる	
		4週	Lesson 2 Part 1		助動詞が理解できる。	
		5週	Lesson 2 Part 2		受け身が理解できる。	
		6週	復習小テスト Lesson 2 Part 3		自分の弱点が理解できる。 助動詞のついた受け身が理解できる。	
		7週	答案返却と解説 Lesson 3 Part 1		前期中間試験範囲の要点が理解できる。 動名詞が理解できる。	
		8週	前期中間試験		上記項目の理解度が確認できる。	
	2ndQ	9週	答案返却と解説 Lesson 3 Part 2		前期中間試験の間違ったところが理解できる。 to不定詞の名詞的・副詞的用法が理解できる。	
		10週	Lesson 3 Part 3 総復習		to不定詞の形容詞的用法が理解できる。	
		11週	Lesson 5 Part 1		関係代名詞（主格）が理解できる。	
		12週	Lesson 5 Part 2		関係代名詞（目的格）が理解できる。	
		13週	復習小テスト Lesson 5 Part 3		自分の弱点が理解できる。 関係代名詞 what が理解できる。	
		14週	答案返却と解説 Lesson 5 Part 4		前期定期試験範囲の要点が理解できる。 It is + 形容詞 + to不定詞が理解できる。	
		15週	前期定期試験		上記項目の理解度が確認できる。	
		16週	答案返却と解説 Lesson 6 Part 1		前期定期試験の間違ったところが理解できる。。 現在分詞の形容詞的用法が理解できる。	
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Part 1		関係副詞 where が理解できる。	
		2週	Lesson 7 Part 2		関係副詞 when が理解できる。	

		3週	Lesson 7 Part 3	関係副詞 why が理解できる。
		4週	Lesson 7 Part 4 総復習	比較級・最上級が理解できる。 Lesson 7 で学習した語彙・文法が理解できる。
		5週	Lesson 8 Part 1	条件を表わす if 節が理解できる。
		6週	復習小テスト Lesson 8 Part 2	自分の弱点が理解できる。 仮定法過去が理解できる。
		7週	答案返却と解説 Lesson 8 Part 3	後期中間試験範囲の要点が理解できる。 i wish～が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目の理解度が確認できる。
	4thQ	9週	答案返却 Lesson 8 Part 4	後期中間試験の間違ったところが理解できる。 as if ～ が理解できる。
		10週	Lesson 9 Part 1	how to～ の第 4 文型が理解できる。
		11週	Lesson 9 Part 2	SVO + to不定詞が理解できる。
		12週	Lesson 9 Part 3	SVOC（動詞の原形）が理解できる。
		13週	復習小テスト Lesson 9 Part 4	自分の弱点が理解できる。 SVOC（現在分詞）が理解できる。
		14週	復習小テスト返却と解説 Lesson10 Model 1	後期定期試験範囲の要点が理解できる。 プレゼンの基礎が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目の理解度が確認できる。
		16週	答案返却と解説 Lesson10 Model 2	後期定期試験の間違ったところが理解できる。 プレゼンの方法が理解できる。

評価割合			
	中間・定期試験	小テスト等	合計
総合評価割合	80	20	100
前期	40	10	50
後期	40	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学A I
科目基礎情報						
科目番号	1A061			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	1	
開設期	前期			週時間数	4	
教科書/教材	新基礎数学改訂版（大日本図書） / 新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	吉田 はん					
到達目標						
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。						
1. 方程式と不等式						
□ 2次方程式と2次不等式を解くことができる。						
□ いろいろな方程式・不等式を解くことができる。						
□ 方程式と恒等式の違いを説明でき、恒等式になるための条件を定めることができる。						
□ 等式と不等式の証明を行うことができる。						
□ 必要条件か十分条件かを、真理集合を考えて判定することができる。						
□ 命題の逆・裏・対偶を述べることができる。						
□ もとの命題とその対偶の真偽が一致することを納得し、証明問題に応用することができる。						
2. 関数とグラフ						
□ 2次関数のグラフの概形を、基本的性質を考えながらかくことができる。						
□ 2次関数の最大値・最小値を、グラフをかくて求めることができる。						
□ 「2次関数のグラフ」、「2次方程式・不等式」、「判別式」の関係を説明できる。						
□ べき関数・分数関数・無理関数のグラフをかくことができる。						
□ 関数のグラフを平行移動・対称移動・拡大（収縮）したグラフが表す関数を求めることができる。						
□ 関数の逆関数を求めることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	複雑な方程式・不等式を基礎的知識を組み合わせて解くことができる。		教科書の例題レベルの方程式や不等式を正確に解くことができる。		教科書の例題レベルの方程式や不等式を解法が身についていない。	
評価項目2	式の変形や論証の過程を、基礎的知識を組み合わせて、厳密に書くことができる。		教科書の例題レベルの証明問題を解くことができる。		基本的な証明方法が身についていない。	
評価項目3	グラフの平行移動などの基礎的知識を組み合わせて、関数の決定ができた、未定係数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。		教科書の例題レベルの関数のグラフを描くことができる。		関数の基本的性質が身についていないため、グラフをかくことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 方程式と不等式 ・方程式と不等式を解くための処理能力や、2次方程式の解と係数の関係など基本知識の習得を図る。 ・方程式と恒等式の違いや命題に関する基本的事柄、等式・不等式の証明を通じて論理的能力を養う。 2. 関数とグラフ ・2次関数のグラフの頂点や軸などの基本的知識を解説し、論理的思考と計算力を同時に養う。 ・2次関数、べき関数、分数関数、無理関数のグラフをかく練習をする。 また、平行移動・対称移動・拡大（縮小）の有用性を解説する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	2次方程式	2次方程式を解の公式を用いて解くことができ、解と係数の関係を説明できる。		
		2週	いろいろな方程式	高次方程式、連立方程式、分数や根号を含む方程式を解くことができる。		
		3週	恒等式・等式の証明	方程式と恒等式の違いを説明でき、恒等式になるための条件を定めることができる。また、等式の証明法を身につける。		
		4週	1次不等式	不等式の基本的性質を理解し、1次不等式を解くことができる。		
		5週	いろいろな不等式	2次不等式、高次不等式を解くことができる。		
		6週	不等式の証明	不等式の証明法を身につける。		
		7週	集合	2つの集合の共通部分、和集合、補集合の概念を理解し、ド・モルガンの法則を説明できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	命題	必要条件か十分条件かを、真理集合を考えて判定することができる。また、もとの命題とその対偶の真偽が一致することを納得し、証明問題に応用することができる。		
		10週	2次関数のグラフ	2次関数のグラフの概形を、基本的性質を考えながらかくことができる。		

		11週	2次関数の最大・最小	2次関数の最大値・最小値を，グラフをかいて求めることができる。
		12週	2次関数と2次方程式・不等式	「2次関数のグラフ」，「2次方程式・不等式」，「判別式」の関係を説明できる。また，任意の2次不等式を解くことができる。
		13週	べき関数と分数関数	グラフの平行移動を用いて，べき関数と分数関数のグラフをかくことができる。
		14週	無理関数	グラフの対称移動・拡大（縮小）に対応する関数を理解し，無理関数のグラフをかくことができる。
		15週	逆関数	逆関数を求める方法を身につけ，実際に求めることができる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学AⅡ	
科目基礎情報							
科目番号		1A062		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		1	
開設期		後期		週時間数		4	
教科書/教材		新基礎数学改訂版（大日本図書） / 新基礎数学問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員		吉田 はん					
到達目標							
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。							
1. 三角関数							
□鋭角に対する三角比の定義を直角三角形を用いて述べることができる。							
□正弦定理や余弦定理を用いて、図形の長さや角度、面積を求めることができる。							
□一般角において三角比の定義（単位円を用いた定義）を述べることができる。							
□三角関数の諸公式（加法定理、2倍角の公式、合成など）を駆使した計算ができる。							
□三角関数のグラフを用いて、三角方程式や不等式を解くことができる。							
2. 指数関数と対数関数							
□指数の考え方を、実数まで拡張して扱うことができる。							
□指数関数と対数関数の関係を説明することができる。							
□対数関数の諸公式が成り立つことを、定義に従って説明できる。							
□対数関数の諸公式を用いて、対数関数を含む式の計算ができる。							
□常用対数を用いて、自然数の桁数を求めることなどへの応用ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		三角比および三角関数の定義を理解し、複雑な三角方程式や不等式を正確に解くことができる。		三角比および三角関数の定義を理解し、三角方程式や不等式を解くことができる。		三角比および三角関数の定義を理解できず応用できない。	
評価項目2		正弦定理や余弦定理の仕組みを十分理解し、図形の長さや角度、面積を求めることができる。		正弦定理や余弦定理を用いて図形の長さや角度、面積を求めることができる。		正弦定理や余弦定理を使うことができない。	
評価項目3		指数関数や対数関数の定義や性質を理解し、諸公式を導き様々な問題に的確に応用できる。		指数関数と対数関数の定義や性質を理解し、諸公式を様々な問題に応用できる。		指数関数や対数関数の定義や性質を理解できず応用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		1. 三角関数 ・三角比とその応用について解説する（正弦定理、余弦定理など）。 ・三角関数の諸公式（加法定理、2倍角の公式、合成など）を解説し、論理的思考能力や図形的考察力を養う。 ・三角関数の諸公式を駆使した計算の習熟を図る。 ・三角関数のグラフと、三角方程式や不等式へ応用を解説し習熟を図る。 2. 指数関数と対数関数 ・指数の考え方が、実数にまで拡張できることを解説する。 ・指数関数と対数関数の関係やグラフについて解説する。 ・指数関数を含んだ式の計算に習熟する。 ・指数及び対数関数の有用性を応用問題を通して解説し、その演習も行う。					
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	三角比とその応用（1）		鋭角の三角比が理解できる。		
		2週	三角比とその応用（2）		鈍角の三角比が理解できる。		
		3週	三角比とその応用（3）		正弦定理、余弦定理、三角比と三角形の面積の関係が理解できる。		
		4週	三角関数（1）		一般角と弧度法が理解できる。		
		5週	三角関数（2）		三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		6週	三角関数（3）		三角関数の方程式、不等式が解ける。		
		7週	加法定理とその応用（1）		加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	加法定理とその応用（2）		加法定理の応用ができる。		
		10週	指数関数（1）		累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。		
		11週	指数関数（2）		指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。		
		12週	指数関数（3）		指数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
		13週	対数関数（1）		対数の性質を理解し、簡単な計算ができる。		
		14週	対数関数（2）		対数関数のグラフをかくことができ、対数関数を含む基本的な方程式を解くことができる。		
		15週	対数関数（3）		常用対数を使うことができる。		

		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	1A063		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	前期:4 後期:2		
教科書/教材	教科書：新基礎数学改訂版：赤池祐次 他：大日本図書 / 問題集：新基礎数学問題集改訂版：赤池祐次 他：大日本図書					
担当教員	山口 知彦,堀尾 明宏					
到達目標						
中学で習った数学を基礎とし、その自然な発展として、数学における基本的概念や原理、法則の基礎的知識の習得および計算技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理することができるようにする。						
1. 数と式の計算						
□ 整式の加減乗除や、たすき掛けによる因数分解ができる。						
□ 剰余の定理、因数分解を納得し、因数分解へ応用することができる。						
□ 数概念（実数、複素数）と演算を習得し、基本的な計算問題を処理できる。						
□ 複素数における概念（共役、大きさなど）を、複素数平面上で説明・考察できる。						
2. 図形と式						
□ 座標平面における2点間の距離、直線の方程式、点と直線の距離を求めることができる。						
□ 2直線が平行・垂直になるための条件を学び、関連する問題へ応用できる。						
□ 2次曲線（およびその接線）の方程式を求めたり、グラフをかくことができる。						
□ （連立）不等式の表す領域を図示することができる。						
3. 数列と場合の数						
□ 順列や組合せについて具体例を通して納得し、実際にその総数を求めることができる。						
□ 二項定理が成り立つことを納得し、実際に適用できる。						
□ 等差数列と等比数列の一般項を求めることができる。						
□ シグマ記号を用いていろいろな数列の和を求めることができる。						
□ 数学的帰納法を用いて、自然数を含んだ命題の証明ができる。						
□ 漸化式の意味を納得し、実際に漸化式を解くことができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		数と式についての複雑な計算ができる	数と式についての基本的な計算ができる	数と式についての基本的な計算ができない		
評価項目2		複雑な図形の性質を調べる事ができる	基本的な図形の性質を調べる事ができる	基本的な図形の性質を調べる事ができない		
評価項目3		数列の複雑な計算をすることができる	数列の基本的な計算をすることができる	数列の基本的な計算をすることができない		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 数と式の計算 ・ 整式の計算技能の習熟を図る（整式の加減乗除、因数分解）。 ・ 整式の性質の理解を図る（剰余の定理、因数定理など）。 ・ 数概念（実数、複素数）の理解と演算の習得を図る。 ・ 複素数平面を導入し、複素数は実数の拡張であることを実感させる。 2. 図形と式 ・ 座標平面における2点間の距離、直線の方程式、点と直線の距離の公式とその習熟を図る。 ・ 直線や2次曲線の方程式とグラフについて解説し、その習熟を図る。 ・ 座標平面を利用して、図形を数式で表せることの有用性を実感させる。 ・ 方程式が表す曲線だけではなく、（連立）不等式の表す領域についても解説し、その習熟を図る。 3. 数列と場合の数 ・ 順列、組合せに関する基本的な考え方を習熟する。 ・ 二項定理を解説し、実際に適用できるようにする。 ・ 等差数列と等比数列の一般項や、シグマ記号を用いていろいろな数列の和を取り扱う。 ・ 数学的帰納法のしくみを例を挙げて解説し、面白さを伝え、適用できるようにする。 ・ 漸化式の意味を解説し、実際に漸化式を解く技能を習熟する。					
授業の進め方・方法	座学					
注意点	数学はその修得に著しい困難を感じる学生が多い学問です。予習、復習を日頃から地道に努めて下さい。わからない点は先生や数学の得意な級友に、その都度早め早めに質問して対処することをお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	整式の計算			
		2週	整式の計算			
		3週	整式の計算			
		4週	整式の計算			
		5週	いろいろな数と式			
		6週	いろいろな数と式			
		7週	いろいろな数と式			
		8週	いろいろな数と式			
	2ndQ	9週	中間試験			
		10週	点と直線			
		11週	点と直線			
		12週	点と直線			

後期		13週	2次曲線	
		14週	2次曲線	
		15週	2次曲線	
		16週	2次曲線	
	3rdQ	1週	場合の数	
		2週	場合の数	
		3週	場合の数	
		4週	場合の数	
		5週	場合の数	
		6週	場合の数	
		7週	場合の数	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	数列	
		10週	数列	
		11週	数列	
		12週	数列	
		13週	数列	
		14週	数列	
		15週	定期試験	
		16週	定期試験答案返却 解答解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	生物
科目基礎情報						
科目番号	1A064			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	生物基礎（東京書籍）／レッツトライノート（東京書籍、問題集）／生物図録（数研出版）					
担当教員	宮里 直樹					
到達目標						
☐ 生物の多様性と共通性、生命活動とエネルギーについて理解できる。 ☐ 遺伝子であるDNAとその働きについて理解できる。 ☐ 生物の体内環境の維持の仕組みについて理解できる。 ☐ 生物多様性とバイオーム、生態系の保全について理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	細胞器官について理解し，呼吸や光合成，ATPや酵素の働きについてそのメカニズムの概要を説明できる。			真核細胞と原核細胞の違いを説明できる。呼吸や光合成，ATPや酵素の働きについて理解している。		呼吸や光合成，ATPや酵素といった用語を用いて説明できない。
評価項目2	遺伝子の本体としてのDNAの構造の機能について理解し，転写や翻訳，ゲノムについて説明できる。			遺伝子の本体がDNAであることや，タンパク質合成について説明できる。		遺伝子の本体としてのDNAの構造と働き（タンパク質合成など）について説明できない。
評価項目3	恒常性の維持について，ホルモン，脳神経系，生体防御の各面から説明できる。			生物の環境応答としての恒常性について説明できる。		生物の環境応答としての恒常性について説明できない。
評価項目4	バイオームの形成メカニズムや生態系における物質の流れとその保全について，地球の成り立ちと活動とも関連づけて説明できる。			バイオームを形成する要因や遷移，生態系や生物多様性の保全について，地球の成り立ちと活動とも関連づけて説明できる。		バイオームを形成する要因，生態系や生物多様性の保全について，地球の成り立ちと活動とも関連づけて説明できない。
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。観察，実験などを通して，生物学的に探究する能力と態度を身につける。生物学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，科学的な見方や考え方を養う。地球をその外部や内部から概観するとともに，生命や人間活動とのかかわりについて理解と関心を高める。					
授業の進め方・方法	教科書、図録、配布するプリントを用い、板書を中心に授業を進める。必要に応じてパワーポイント、動画などの視聴覚教材を併用したり、グループや個人でのワークも含めて学生の積極的な参加を促しながら実施する。					
注意点	ノートとしっかりと、プリントもファイルするかノートに貼るなどして整理して散逸しないようにすること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	生物の多様性と共通性（1）		細胞のつくりについて理解している。	
		2週	生物の多様性と共通性（2）		真核細胞と原核細胞について理解している。	
		3週	生命活動とエネルギー（1）ATPと酵素		生体のエネルギー通貨ATPについて理解している。	
		4週	生命活動とエネルギー（2）光合成と呼吸		光合成と呼吸、エネルギーや物質の収支について理解している。	
		5週	生命活動とエネルギー（3）ミトコンドリアと葉緑体の起源		ミトコンドリアと葉緑体の構造と機能、その起源について理解している。	
		6週	植生の多様性と遷移（1）		植生とその環境について理解している。	
		7週	前期中間試験			
		8週	植生の多様性と遷移（2）		植生の遷移について理解している。	
	2ndQ	9週	実習 1 酵素の働きとATP		酵素の性質やATPの働きについて理解できる。	
		10週	地球の概観とその成り立ち・活動（1）		太陽系の中の地球の概観とその内部構造，プレートテクトニクスについて理解している。	
		11週	地球の概観とその成り立ち・活動（2）		大気と海洋の構造や循環，気候との関係について理解している。	
		12週	バイオームとその分布（1）		世界と日本のバイオームおよび機構との関係について理解している。	
		13週	バイオームとその分布（2）		生態系と物質の循環について理解している。	
		14週	生態系とその保全（1）		生態系とバランスについて理解している。	
		15週	生態系とその保全（2）		生物多様性とその保全について理解できる。	
		16週	前期定期試験			
後期	3rdQ	1週	生物と遺伝子（1）		遺伝子の本体がDNAであること，その働きについて理解している。	
		2週	生物と遺伝子（2）		DNAの構造，ゲノムと遺伝情報について理解している。	
		3週	実習 2 植物からDNAを抽出してみよう		植物からDNAを取り出す実験を通じて，DNAとその性質について理解できる。	
		4週	遺伝情報の分配（1）		細胞分裂とDNAの関係について理解している。	

		5週	遺伝情報の分配（2）	遺伝情報の複製について理解している。
		6週	遺伝情報とタンパク質の合成（1）	遺伝情報をもとにしたタンパク質合成の過程について理解している。
		7週	遺伝情報とタンパク質の合成（2）	遺伝子発現とその調節について理解している。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	体内環境（1）	体内環境の特徴と血液の循環について理解している。
		10週	体内環境（2）	体内環境を調節する器官について理解している。
		11週	体内環境維持のしくみ（1）	自律神経系による調節について理解している。
		12週	体内環境維持のしくみ（1）	内分泌系による調節について理解している。
		13週	免疫（1）	生体防御のいろいろな段階とそれらのしくみについて理解している。
		14週	免疫（2）	自然免疫・適応免疫について理解し、関連する医療についても理解空いている。
		15週	まとめ	
		16週	後期定期試験	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	0	10	0	0	100
基礎的能力	60	5	0	5	0	0	70
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	5	0	5	0	0	20

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	力学基礎
科目基礎情報						
科目番号	1A065		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	総合物理 1 ー力と運動・熱ー, リードα 物理基礎・物理, フォローアップドリル物理基礎/物理, フォトサイエンス物理図録					
担当教員	堀尾 明宏,宇治野 秀晃					
到達目標						
☐ 高校物理程度の力学の基礎を理解し、代表的な系について運動方程式を立てることができる。 ☐ 質点の位置・速度・加速度を求めることができる。 ☐ 力学的エネルギー保存則と運動量保存則を使うことができる。 ☐ 運動方程式や各種保存則を利用し、質点の運動を扱うことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を深く理解し、発展的な問題に適用できる。		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解し、基本的な問題に適用できる。		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解しておらず、基本的な問題に適用できない。	
評価項目2	運動の法則に関する基本的な考え方を理解し、質点や剛体のつりあいや、質点の運動に関する発展的な問題に適用できる。		運動の法則に関する基本的な考え方を理解し、質点や剛体のつりあいや、質点の運動に関する基本的な問題に適用できる。		運動の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず、質点や剛体のつりあいや、質点の運動に関する基本的な問題に適用できない。	
評価項目3	運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を深く理解し、発展的な問題に適用できる。		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解し、基本的な問題に適用できる。		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解しておらず、基本的な問題に適用できない。	
評価項目4	運動方程式や各種保存則、万有引力の法則に関する基本的な考え方を深く理解し、等速円運動や単振動、惑星の運動に関する発展的な問題に適用できる。		運動方程式や各種保存則、万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解し、等速円運動や単振動、惑星の運動に関する基本的な問題に適用できる。		運動方程式や各種保存則、万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず、等速円運動や単振動、惑星の運動に関する基本的な問題に適用できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	高校物理の教科書にほぼ則して、力学について講義します。					
授業の進め方・方法	座学					
注意点	様々な学問の中で、物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に、日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を、納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず、先生や物理の得意な級友に、その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	運動の表し方(1)	等速直線運動に関する計算と説明ができる。		
		2週	運動の表し方(2)	変位・速度・平均速度・瞬間の速度に関する計算と説明ができる。		
		3週	運動の表し方(3)	速度の合成・相対速度に関する計算と説明ができる。		
		4週	加速度	等加速度直線運動に関する計算と説明ができる。		
		5週	落体の運動(1)	自由落下・鉛直投射に関する計算と説明ができる。		
		6週	落体の運動(2)	水平投射に関する計算と説明ができる。		
		7週	落体の運動(3)	斜方投射に関する計算と説明ができる。		
		8週	前期中間試験	第7週までの内容		
	2ndQ	9週	力のつりあい	力のつりあい・作用反作用の法則に関する計算と説明ができる。		
		10週	運動の法則(1)	運動方程式に関する計算と説明ができる。		
		11週	運動の法則(2)	運動方程式を用いて質点の運動を説明・解析できる。		
		12週	摩擦を受ける運動	静止摩擦力・動摩擦力に関する計算と説明ができる。		
		13週	液体や気体から受ける力	圧力・浮力・空気の抵抗に関する計算と説明ができる。		
		14週	剛体にはたらく力のつりあい	力のモーメント・剛体のつりあい・剛体にはたらく力の合力・偶力・重心に関する計算と説明ができる。		
		15週	前期定期試験答案返却	答案返却・まとめ		
		16週				
後期	3rdQ	1週	仕事	仕事・仕事の原理・仕事率に関する計算と説明ができる。		
		2週	運動エネルギー、位置エネルギー	運動エネルギー・重力の位置エネルギー・弾性力の位置エネルギーに関する計算と説明ができる。		
		3週	力学的エネルギーの保存(1)	力学的エネルギー保存則に関する計算と説明ができる。		

		4週	力学的エネルギーの保存(2)	力学的エネルギー保存則を応用して、物体の運動を解析・説明できる。
		5週	運動量と力積	運動量・力積・運動量と力積の関係に関する計算と説明ができる。
		6週	運動量保存則	運動量保存則に関する計算と説明ができる。
		7週	反発係数	反発係数・2物体の衝突に関する計算と説明ができる。
		8週	後期中間試験	第7週までの内容
	4thQ	9週	等速円運動(1)	単振動の角速度・周期・回転数に関する計算と説明ができる。
		10週	等速円運動(2)	等速円運動の加速度・等速円運動に必要な力に関する計算と説明ができる。
		11週	慣性力	慣性力に関する計算と説明ができる。
		12週	単振動(1)	単振動の変位・速度・加速度に関する計算と説明ができる。
		13週	単振動(2)	単振動に必要な力・単振動の運動方程式とその応用に関する計算と説明ができる。
		14週	万有引力	ケプラーの法則・万有引力に関する計算と説明ができる。
		15週	後期定期試験答案返却	答案返却・まとめ
		16週		

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	言語文化	
科目基礎情報							
科目番号		2A001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		一般教育		対象学年	2		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		精選 言語文化：三省堂 常用漢字フォルダ：浜島書店 新訂総合国語便覧：第一学習社					
担当教員		田貝 和子					
到達目標							
☐ 文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことが十分にできる。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことができる。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことができない。	
評価項目2		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得し、活用することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得できない。	
評価項目3		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを含めて作品の意義を考えることができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		中学校で既習の「古典」の学習成果、及び1年次に学習した現代語文法に基づき、基礎的な古典文法や古典常識から古典を読解・鑑賞して、古典作品の現代的意義について考察を深める。また、同じカテゴリーに属する作品を古典・現代文と比較しながら読解することで、日本語の変遷、思想や文化の流れを理解する。 韻文については、近代詩、短歌、俳句を扱い、創造性を培う。 漢文教材においては、訓読法の基礎学習から始発し、故事・漢詩をとりあげて読解・鑑賞し、中国の思想や文化が日本の文化に及ぼした影響について考える。					
授業の進め方・方法		講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。					
注意点		ノートを一冊用意してください。また、国語辞典、古語辞典も常に机上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の目標と概要を理解できる。		
		2週	古文入門		古文の言葉やきまりについて基本的な事項を学ぶことができる。		
		3週	絵仏師良秀(1)		「説話」に描かれた人物の言動や心情を読み取ることができる。		
		4週	絵仏師良秀(2)		「説話」に描かれた世界観や人間のありようを考えることができる。		
		5週	小説「羅生門」(1)		文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。		
		6週	小説「羅生門」(2)		作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解することができる。		
		7週	小説「羅生門」(3)		小説とその典拠になった説話を読み比べ、小説の読みを深める。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	漢文入門(1)		漢文の世界に分け入って、言語文化への関心をもつことができる。		
		10週	漢文入門(2)		訓読のきまりについて基本的な事項を学ぶことができる。		
		11週	故事成語(1)		本文を音読することができる。		
		12週	故事成語(2)		「故事成語」に表れた教訓や風刺などを読み取ることができる。		
		13週	詩(1)		「詩」について学び、近代詩の展開を把握することができる。		
		14週	詩(2)		「詩」に描かれた情景や、作者の心情を理解することができる。		
		15週	前期定期試験				
		16週	前期到達目標の確認		言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。		

後期	3rdQ	1週	土佐日記(1)	言語文化に特徴的な語句の量を増し、文化的背景について理解を深めることができる。
		2週	土佐日記(2)	「日記」「紀行」を読み、それぞれの場面に描かれた作者の心情を理解することができる。
		3週	土佐日記(3)	作品の中で和歌や俳句が果たす役割について考えることができる。
		4週	土佐日記(4)	「旅」という非日常的な空間が呼び起こす人生観について考えることができる。
		5週	短歌と俳句(1)	それぞれの短歌を音読し、その調べを味わうことができる。
		6週	短歌と俳句(2)	それぞれの作品に詠まれた情景や心情を理解することができる。
		7週	短歌と俳句(3)	それぞれの俳句について、季語とその季節を理解できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	漢詩(1)	「漢詩」に描かれた情景や心情を読み取ることができる。
		10週	漢詩(2)	「漢詩」の特徴や技法について理解することができる。
		11週	漢詩(3)	「漢詩」を理解し、日本の言語文化における意義について考えることができる。
		12週	小説「待ち伏せ」(1)	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。
		13週	小説「待ち伏せ」(2)	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。
		14週	小説「待ち伏せ」(3)	作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解することができる。
		15週	後期定期試験	
		16週	後期到達目標の確認	言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。
評価割合				
	試験・レポート	課題・ノート	小テスト	合計
総合評価割合	80	8	12	100
基礎的能力	80	8	12	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	2A003			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『最新図説 政経』：浜島書店						
担当教員	田口 有理,石関 正典						
到達目標							
□広い視野からの観察を通して、政治や経済の仕組みを理解し、現実に行っている様々な問題を多面的に考察する力を身につけることができる。 □社会人・有権者として主体的に生きていくための判断基準を構築し、自分の意見を表明するための基礎的な知識や分析手法を習得することができる。 □選挙における投票や企業等における経済活動、裁判員としての裁判への参加など、今後国民として経験する重要な事柄・場面において、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識や能力を身につけることができる。 □時事問題に触れることで、現代社会の抱える諸問題についての知識・理解を深めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		民主政治の基本的原理、日本国憲法の基本原理や特性について理解し、適切に説明できる。		民主政治の基本的原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解している。		民主政治の基本的原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解できない。	
評価項目2		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解し、適切に説明できる。		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解している。		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解できない。	
評価項目3		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を身につけ、自分の意見を適切に表明することができる。		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できている。		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	□前期は主に政治分野を、後期は主に経済分野を学習する。 □政治分野では、民主政治の基本原理、日本国憲法（国民主権、基本的人権、平和主義）、日本の政治機構（国会の仕組みと機能、内閣・行政の仕組みと機能、裁判所の仕組みと機能）について取り上げる。 □経済分野では、労働問題、社会保障、消費者保護、財政の役割、金融の役割、日本経済の歩みについて取り上げる。						
授業の進め方・方法	□授業は指定の資料集を用いて、基本的に講義形式で行う。 □学生には積極的な発言や質問を期待する。 □ノートやレポートの作成を通じて、学習内容の定着を図るとともに、自分で学習のポイントをまとめる力や文章表現力を身につける。 □評価は試験と提出物（ノート、レポート）の合算により行う。						
注意点	□中間試験、定期試験の前にノート提出の機会を設けるので、政治・経済用のノートを用意すること（必ずクラス・番号・氏名を記載。ルーズリーフ等の使用も可とするが、紛失等を防ぐため、必ずファイルに綴じて提出すること）。 □ノートや課題提出を怠らないようにすること。						
授業の属性・履修上の区分							
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	政治と法の支配		ホッブズ・ロック・ルソーの社会契約説の内容や法の支配の意義を説明できる。		
		2週	日本国憲法の成立(1)		大日本帝国憲法の制定背景や基本的性格、日本国憲法との相違点を説明できる。		
		3週	日本国憲法の成立(2)		日本国憲法制定の背景や制定過程を説明できる。		
		4週	日本国憲法の基本的性格		国民主権と象徴天皇制の意義を説明できる。		
		5週	平和主義(1)		日本国憲法の平和主義の概要、憲法9条と自衛隊の解釈を説明できる。		
		6週	平和主義(2)		日本の防衛政策の基本、日米安全保障条約の意義や問題点を説明できる。		
		7週	平和主義(3)		冷戦後の国際社会の変化や自衛隊の国際貢献について説明できる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	基本的人権の保障(1)		日本国憲法の権利・義務、法の下での平等の意義を説明できる。		
		10週	基本的人権の保障(2)		自由権(精神の自由・身体の自由・経済的自由)の内容や代表的な判例を説明できる。		
		11週	基本的人権の保障(3)		社会権の内容や関連条文、代表的な判例を説明できる。		
		12週	国会の構成と権限(1)		国会の地位、国会の構成と運営について説明できる。		
		13週	国会の構成と権限(2)		衆議院の優越、国会の権限について説明できる。		
		14週	議院内閣制と行政(1)		内閣の成立と国会との関係について説明できる。		
		15週	前期定期試験				
		16週	議院内閣制と行政(2)		内閣の働き、内閣総理大臣の職務と権限について説明できる。		

後期	3rdQ	1週	司法と国民(1)	司法権の独立と裁判制度(裁判の種類、三審制、再審制度)を説明できる。
		2週	司法と国民(2)	違憲審査権、司法制度改革と裁判員制度の概要や意義を説明できる。
		3週	労使関係と労働問題(1)	労働基本権と労働三法の内容を説明できる。
		4週	労使関係と労働問題(2)	労働市場と労働問題、女性をとりまく労働環境の課題を説明できる。
		5週	社会保障と社会福祉(1)	日本の社会保障体系、社会保険の内容を説明できる。
		6週	社会保障と社会福祉(2)	公的扶助、社会福祉の内容と課題を説明できる。
		7週	消費者保護	悪質商法や多重債務など消費者を取り巻く問題や消費者保護行政について説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	財政の役割(1)	財政の 3 つの機能と財政政策の手法を説明できる。
		10週	財政の役割(2)	租税の種類と税制の課題、財政健全化を実現するためにはどうすればよいか説明できる。
		11週	金融の役割(1)	日本銀行の役割と金融政策の手法を説明できる。
		12週	金融の役割(2)	金融自由化、バブル崩壊と金融への影響を説明できる。
		13週	日本経済の歩み(1)	戦後復興期から現在に至るまでの日本経済の歩みを説明できる。
		14週	日本経済の歩み(2)	バブル崩壊以降の日本経済が抱える課題について説明できる。
		15週	後期定期試験	
		16週	学習のまとめ	試験返却およびこれまでの学習の総括を行い理解を深める。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	0	100
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号	2A004			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	佐藤 孝之						
到達目標							
☐ 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 ☐ 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 ☐ 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 ☐ 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
		ルールを理解し、説明できる.		ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない.		よくわからないし、ルールも理解できていない.	
		ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた.		友人のマネをしながら安全に効率よく動けた.		安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった.	
		実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた.		積極的に参加したいと思っていた.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
		コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った.		とりあえず、準備片付けは手伝った.		特に何もしなかった.	
		チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した.		とりあえず、自分の役割は果たした.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。						
授業の進め方・方法	実技授業中に各自が歩数計を取り付け歩数を測ります。この記録は授業ノートに記入します。また授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価して記入、授業後は授業感想を記入します。学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。						
注意点	・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 ・ケガを未然に防ぐために、時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアス等の貴金属類はすべて外して参加すること。 ・サイズが合っている学校指定のジャージおよびシューズ（屋内外別、スパイク禁止）を着用の上、参加すること（ジーンパンなどの普段着での受講は不可）。 ・髪が長い学生は髪を纏めた状態で参加すること。 ・それぞれの授業を進める上で配慮を必要とする学生(ケガ等)は申し出ること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意		授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。		
		2週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		3週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		4週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得		コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。		
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
		12週	水泳の基本的技術の習得		基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。		
		13週	水泳の基本的技術の習得		基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。		

後期		14週	着衣泳の基本的技術の習得	着衣泳を行い水難事故対応策や護身術を理解することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	前期の体育授業を振り返り、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		
	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		5週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		6週	野球の基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		7週	野球の基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		8週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	4thQ	9週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		10週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		11週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		12週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		13週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		14週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取り組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語A	
科目基礎情報							
科目番号	2A005			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『MY WAY : English Communication II 』三省堂 『フェイバリット英単語・熟語 コーパス4500』東京書籍						
担当教員	横山 孝一						
到達目標							
1. 教科書で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 教科書の英文を読み、内容が理解できる。 4. 教科書の英語を聞いて理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	教科書で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。			教科書で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が理解できない。	
評価項目 2	教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することができる。			教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。	
評価項目 3	教科書の英文を読み、内容がよく理解できる。			教科書の英文を読み、内容がある程度理解できる。		教科書の英文の内容が理解できない。	
評価項目 4	教科書の英語を聞いて内容をよく理解することができる。			教科書の英語を聞いて内容をある程度理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	教科書の英文読解・練習問題・リスニング問題を通じて、総合的な英語力の基礎構築を目標とする。 具体的には、英検準2級～2級レベルの英語運用能力を目指す。						
授業の進め方・方法	冒頭で、人生の指針となる英語のことわざ名言を紹介する。教科書の英文読解を毎回3名の学生に発表してもらい、難しいところなどが全員で考える。レッスンごとに配布する語句プリントを全員に記入してもらい、それを使って音読の練習をする。新出単語はネイティブの音声でアクセントに注意しながら練習する。本文の読解を演習形式で進め、重要な文法事項等について解説を加える。 教科書の練習問題を全員で行ない、答え合わせをする。毎回、習った構文・表現・文法を用いるオリジナルの英訳問題を宿題とし、次回、ことわざのあとに確認して応用力を養う。 中間試験と定期試験の2週間前に復習小テストを実施し、学習事項の要点を確認する。						
注意点	外国語を身につけるには、まず授業の予習復習を習慣づける必要があります。具体的には、英語と日本語の違いがひと目でわかる「対訳ノート」を作ってください。そのためのノートを早めに用意しておくこと。辞書を活用することで英語力が飛躍的に向上するので、辞書を引いて例文を対訳ノートに書き加えていくこともお勧めします。音声は教科書のQRコードを使って聞くことができるので自宅で活用しましょう。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Section 1		英語の学習方法を知ることができる。 SV+ that が理解できる。		
		2週	Lesson 1 Section 2		SV+ if が理解できる。		
		3週	Lesson 1 Section 3 総復習		S ask O if が理解できる。 Lesson 1 で学習した語彙・文法が理解できる		
		4週	Lesson 2 Section 1		形式主語が理解できる。		
		5週	Lesson 2 Section 2		形式目的語が理解できる。		
		6週	復習小テスト Lesson 2 Section 3		自分の弱点が理解できる。 形式目的語の it が理解できる。		
		7週	答案返却と解説 Lesson 3 Section 1		前期中間試験範囲の要点が理解できる。 現在完了形が理解できる。		
		8週	前期中間試験		上記項目の理解度が確認できる。		
	2ndQ	9週	答案返却と解説 Lesson 3 Section 2		前期中間試験の間違ったところが理解できる。 過去完了形が理解できる。		
		10週	Lesson 3 Section 3 総復習		過去完了進行形が理解できる。		
		11週	Lesson 4 Section 1		S see O + 動詞の原形が理解できる。		
		12週	Lesson 4 Section 2		S see O + 過去分詞が理解できる。		
		13週	復習小テスト Lesson 4 Section 3		自分の弱点が理解できる。 S have O + 過去分詞が理解できる。		
		14週	答案返却と解説 Lesson 4 Section 4		前期定期試験範囲の要点が理解できる。 S help O + 動詞の原形が理解できる。		
		15週	前期定期試験		上記項目の理解度が確認できる。		
		16週	答案返却と解説 Lesson 5 Section 1		前期定期試験の間違ったところが理解できる。。 関係代名詞（主格）が理解できる。		
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Section 1		分詞構文 が理解できる。		
		2週	Lesson 7 Section 2		受け身の分詞構文が理解できる。		

		3週	Lesson 7 Section 3	完了形の分詞構文 が理解できる。
		4週	Lesson 7 Section 4 総復習	付帯状況の with が理解できる。 Lesson 7 で学習した語彙・文法が理解できる。
		5週	Lesson 8 Section 1	仮定法過去が理解できる。
		6週	復習小テスト Lesson 8 Section 2	自分の弱点が理解できる。 仮定法過去完了が理解できる。
		7週	答案返却と解説 Lesson 8 Section 3	後期中間試験範囲の要点が理解できる。 if を使わない仮定法が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目の理解度が確認できる。
	4thQ	9週	答案返却 Lesson 8 Section 4	後期中間試験の間違ったところが理解できる。 no matter + 疑問詞 が理解できる。
		10週	Lesson 9 Section 1	同格の that が理解できる。
		11週	Lesson 9 Section 2	強調構文が理解できる。
		12週	Lesson 9 Section 3	倒置が理解できる。
		13週	復習小テスト Lesson 9 Section 4	自分の弱点が理解できる。 省略が理解できる。
		14週	復習小テスト返却と解説 Lesson10 Topic 1	後期定期試験範囲の要点が理解できる。 議論の基礎が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目の理解度が確認できる。
		16週	答案返却と解説 Lesson10 Topic 2	後期定期試験の間違ったところが理解できる。 議論の表現が理解できる。

評価割合

	中間・定期試験	小テスト等	合計
総合評価割合	80	20	100
前期	40	10	50
後期	40	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語B	
科目基礎情報							
科目番号	2A006			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	dual scope English grammar in 27 stages						
担当教員	伊藤 文彦						
到達目標							
☐ 基本的な英文を読んで理解することができる(reading)。 ☐ 基本的な英文を発音することができる(speaking---発音・アクセント含む)。 ☐ 基本的な英文の構造・構文を文法的に理解できる(grammar)。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
reading	基本的な英文を読んで理解することがよくできる			ある程度、基本的な英文を読んで理解することができる		基本的な英文を読んで理解することができない	
speaking	基本的な英文を発音することがよくできる			ある程度、基本的な英文を発音することができる		基本的な英文を発音することがよくできない	
grammar	英文の構造・構文を文法的によく理解できる			ある程度、英文の構造・構文を文法的に理解できる		英文の構造・構文を文法的に理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	・体系的な文法法則を理解する。 ・文法を理解するかたわら、スピーキング力とリーディング力を身につける。						
授業の進め方・方法	教科書を中心に基本的な文法事項について学習する。						
注意点	辞書を持参すること(スマートフォン辞書は反応速度が悪く、基礎学力をつける英語学習者には不向きのため不可)。 English proficiency will be yours by virtue of daily continious practice.						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	introduction---part of speech etc		identify part of speech, comprehend clause and phrase, handwriting		
		2週	lesson1,2,3		comprehend five sentence patterns		
		3週	lesson1,2,3		comprehend five sentence patterns		
		4週	lesson 4,5,6,7		comprehend tense; speaking---/アオ/の音について		
		5週	lesson 4,5,6,7		comprehend tense; speaking---/逆v/について		
		6週	lesson 4,5,6,7		comprehend tense; speaking---/シュワ/soundについて		
		7週	lesson 4,5,6,7		comprehend tense; speaking---/アエ/の音について		
		8週	mid-term exam		review		
	2ndQ	9週	lesson 8,9,10		comprehend aux verbs; speaking---その他の発音記号について		
		10週	lesson 8,9,10		comprehend aux verbs; speaking---その他の発音記号について		
		11週	lesson 8,9,10		comprehend aux verbs		
		12週	lesson 11,12, 13,14		comprehend voices, infinitive		
		13週	lesson 11,12,13,14		comprehend voices, infinitive		
		14週	lesson 11,12,13,14; English for fun		comprehend participle		
		15週	final exam		review		
		16週	return the test		review		
後期	3rdQ	1週	lesson 16,17		comprehend gerund; speaking---その他の発音記号について		
		2週	lesson 18,19,20		comprehend participle; speaking---その他の発音記号について		
		3週	lesson 21,22		comprehend contrast		
		4週	lesson 21,22		comprehend contrast		
		5週	lesson 23,24,25		comprehend relative pronoun		
		6週	lesson 23,24,25		comprehend relative pronoun		
		7週	lesson 23,24,25		comprehend relative pronoun		
		8週	mid-term exam		review		
	4thQ	9週	extra lesson		review; comprehend subjunctive mode		
		10週	lesson 26		comprehend subjunctive mood; speaking---その他の発音記号について		
		11週	lesson 27		comprehend subjunctive mood; speaking---その他の発音記号について		

		12週	extra lesson	comprehend subjunctive mood
		13週	lesson 1-27, reading/writing activity	comprehend English grammar; improve reading/writing skills
		14週	lesson 1-27, reading/writing activity; English for fun	comprehend English grammar; improve reading/writing skills
		15週	final exam	review
		16週	review	review

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
mid	40	0	0	0	0	10	50
final	40	0	0	0	0	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学A I	
科目基礎情報							
科目番号	2A007			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	新微分積分I改訂版（大日本図書）新微分積分I問題集改訂版（大日本図書）						
担当教員	北田 健策						
到達目標							
☐ 微分係数・導関数の定義や、導関数の性質が理解できる。 ☐ 合成関数の導関数, 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を求めることができる。 ☐ 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べることができる。 ☐ 関数のグラフの接線と法線を求められる。 ☐ 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度を求められる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	微分係数, 導関数の定義を十分理解できる。		微分係数, 導関数の定義が理解できる。		微分係数, 導関数の定義が理解できない。		
評価項目2	導関数と関数の増減の関係を十分理解できる。		導関数と関数の増減の関係を理解できる。		導関数と関数の増減の関係を理解できない。		
評価項目3	媒介変数表示された複雑な関数の導関数を求められる。		媒介変数表示された関数の導関数を求められる。		媒介変数表示された関数の導関数を求められない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1. 関数の極限について学び、微分係数・導関数の定義や、導関数の性質、基本公式等を学習する。 2. 合成関数の導関数の求め方や諸公式の応用の習熟を図る。 3. 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を学習する。 4. 導関数と関数の増減との関係を学び、最大値・最小値を求める問題に応用する。 5. 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べ、グラフとの関係を学習する。 6. 関数のグラフの接線と法線、ロピタルの定理。 7. 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	関数の極限と導関数 (1)		いろいろな関数の極限を求めることができる。		
		2週	関数の極限と導関数 (2)		微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。		
		3週	関数の極限と導関数 (3)		積・商の導関数の公式を使うことができる。		
		4週	関数の極限と導関数 (4)		三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。		
		5週	いろいろな関数の導関数 (1)		合成関数の導関数を求めることができる。		
		6週	いろいろな関数の導関数 (2)		対数微分法が理解できる。		
		7週	いろいろな関数の導関数 (3)		逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	関数の変動 (1)		基本的な関数の接線の方程式を求めることができ、微分係数と関数の増減の関係が理解できる。		
		10週	関数の変動 (2)		関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができ、関数の最大値・最小値を求めることができる。		
		11週	関数の変動 (3)		不定形の極限を求めることができる。		
		12週	いろいろな応用 (1)		2次以上の導関数を求めることができる。		
		13週	いろいろな応用 (2)		関数の凹凸, 変曲点を求めることができる。		
		14週	いろいろな応用 (3)		関数の媒介変数表示を理解し、その導関数を計算できる。		
		15週	いろいろな応用 (4)		平均値の定理が理解できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学AⅡ		
科目基礎情報								
科目番号	2A008			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教育			対象学年	2			
開設期	後期			週時間数	4			
教科書/教材	新微分積分I改訂版（大日本図書）新微分積分I問題集改訂版（大日本図書）							
担当教員	北田 健策							
到達目標								
☐ 定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。 ☐ 基本的な計算方法を習得し、様々な応用ができる。 ☐ 置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。 ☐ 分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分ができる。 ☐ 積分を応用して長さ、面積、体積等を求めることができる。 ☐ 広義積分ができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	定積分を十分理解し、積分の計算ができる。		定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。		定積分を理解し、基本的な積分の計算ができない。			
評価項目2	置換積分法と部分積分法を用いて複雑な積分できる。		置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。		置換積分法と部分積分法を用いて積分できない。			
評価項目3	広義積分を十分理解し計算ができる。		広義積分ができる。		広義積分ができない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	1. 定積分の定義をし、微分の逆演算である不定積分との関係を学習する。また、基本的な関数の積分方法を学ぶ。 2. 積分の大切な計算方法である置換積分法と部分積分法について学ぶ。分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分法を学ぶ。 3. 長さ、面積、体積等を求める問題に応用する。 4. 媒介変数、曲座標によって表示された図形の問題、運動との関係、広義積分等のいろいろな応用を学習する。							
授業の進め方・方法								
注意点								
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	不定積分と定積分 (1)			不定積分の定義を理解している。		
		2週	不定積分と定積分 (2)			定積分の定義を理解している。		
		3週	不定積分と定積分 (3)			微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。		
		4週	積分の計算 (1)			置換積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		5週	積分の計算 (2)			部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		6週	積分の計算 (3)			置換積分法、部分積分法の応用ができる。		
		7週	積分の計算 (4)			分数関数、無理関数、三角関数の不定積分・定積分の計算ができる。		
	8週	中間試験						
	4thQ	9週	面積・曲線の長さ・体積 (1)			基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。		
		10週	面積・曲線の長さ・体積 (2)			いろいろな曲線の長さを求めることができる。		
		11週	面積・曲線の長さ・体積 (3)			立体の体積を求めることができる。		
		12週	いろいろな応用 (1)			媒介変数表示された図形の面積や長さを求められる。		
		13週	いろいろな応用 (2)			極座標を理解できる		
		14週	いろいろな応用 (3)			広義積分を理解できる		
		15週	いろいろな応用 (4)			変化率と積分の関係を理解できる。		
16週								
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	2A009		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	新線形代数改訂版（大日本図書） / 新線形代数問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	大森 祥輔					
到達目標						
ベクトルや行列について学習し、次のことをできるようにする。 ☐ベクトルの定義を理解し基本的な計算（和、差、定数倍）ができ、大きさを求めることができる。 ☐ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 ☐ベクトルの内積を求めることができる。 ☐ベクトルの平行、垂直条件を利用することができる。 ☐空間内の直線の方程式、平面の方程式、球の方程式を求めることができる。 ☐行列の定義を理解して、和・差・積の計算ができる。 ☐逆行列の定義を理解し、逆行列を求めることができる。 ☐行列を利用して連立方程式を解くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求め、応用した問題を解ける。		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができない。	
評価項目2	空間内の直線・平面・球の方程式を求めて、応用した問題を解くことができる。		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる（必要に応じてベクトル方程式も扱う）。		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができない。	
評価項目3	行列の和・差・積、数との積の計算から応用した問題を解くことができる。		行列の和・差・積、数との積の計算ができる。		行列の和・差・積、数との積の計算ができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	前期は代数学・幾何学の基礎であるベクトルについて学ぶ。具体的には平面上のベクトル、その内積および図形への応用である。次に空間内のベクトルについて学習する。ここでは直線の方程式、平面の方程式、球の方程式などを学び、最後にベクトルの線形独立・線形従属の概念について学習する。後期は線形代数の基本である行列の性質について学習する。行列を定義して、和・差・積を導入し、いろいろな性質について学び、連立方程式と関連させて学習する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	平面のベクトル (1)	ベクトルの定義を理解できる。		
		2週	平面のベクトル (2)	平面ベクトルの基本的な計算ができる。		
		3週	平面のベクトル (3)	平面ベクトルの成分表示ができる。		
		4週	平面のベクトル (4)	平面ベクトルの内積を求めることができる。		
		5週	平面のベクトル (5)	ベクトルの平行条件を利用することができる。		
		6週	平面のベクトル (6)	ベクトルの垂直条件を利用することができる。		
		7週	平面のベクトル (7)	直線のベクトル方程式を理解できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	平面のベクトル (8)	平面のベクトルの線形独立性を理解できる。		
		10週	空間のベクトル (1)	空間内のベクトルの定義を理解できる。		
		11週	空間のベクトル (2)	空間ベクトルの基本的な計算ができる。		
		12週	空間のベクトル (3)	空間ベクトルの大きさが計算ができる。		
		13週	空間のベクトル (4)	ベクトルの内積を理解できる。		
		14週	空間のベクトル (5)	直線の方程式を求められる。		
		15週	空間のベクトル (6)	平面の方程式を求められる。		
		16週				
後期	3rdQ	1週	空間のベクトル (7)	球の方程式を求められる。		
		2週	空間のベクトル (8)	空間ベクトルの線形独立・線形従属について理解できる。		
		3週	行列 (1)	行列の定義を理解している。		
		4週	行列 (2)	行列の和・差・数との積の計算ができる。		
		5週	行列 (3)	行列の積の計算ができる。		
		6週	行列 (4)	行列の積の性質を理解できる。		
		7週	行列 (5)	零因子や単位行列を理解できる。		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	行列 (6)	転置行列を理解できる。		

		10週	行列 (7)	2次の正方行列の逆行列を求めることができる。
		11週	連立 1 次方程式 (1)	消去法を理解できる。
		12週	連立 1 次方程式 (2)	消去法から無限個の解を持つ連立方程式を解ける。
		13週	連立 1 次方程式 (3)	消去法で逆行列を求められる。
		14週	連立 1 次方程式 (4)	逆行列を使って連立一次方程式を解ける。
		15週	連立 1 次方程式 (5)	行列の階数を求められる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物理 I	
科目基礎情報							
科目番号		2A010		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		2	
開設期		前期		週時間数		4	
教科書/教材		教科書：総合物理1―力と運動・熱―, 総合物理2―波・電気と磁気・原子― (数研出版) 問題集：リードα物理基礎・物理 (数研出版), フォローアップドリル物理基礎 仕事とエネルギー・熱, 波・電気 (数研出版), フォローアップドリル物理 力と運動・熱と気体, 波, 電気と磁気 (数研出版) 図解：フォトサイエンス物理図録 (数研出版)					
担当教員		宇治野 秀晃					
到達目標							
☐ 熱力学第一法則を様々な過程に適用することができる。 ☐ 正弦波の式について理解し, 図示することができる。 ☐ 波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。 ☐ 電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 応用問題を解くことができる。		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができる。		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができない。	
評価項目2		正弦波の式について十分に理解し, 図示することができる。		正弦波の式について理解し, 図示することができる。		正弦波の式について理解し, 図示することができない。	
評価項目3		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を十分に説明することができる。		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができない。	
評価項目4		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する応用問題を解くことができる。		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する基本問題を解くことができる。		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		高校物理教科書に則して, 熱力学, 波動, 静電場の電磁気学について講義する。					
授業の進め方・方法		座学, 演示実験など					
注意点		様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	熱と物質 (問題集単元11)		熱と熱量, 仕事について説明できる。 熱容量と比熱に関する計算ができる。 物質の三態について説明できる。 熱量の保存, 固体の膨張に関する計算ができる。		
		2週	気体のエネルギーと状態変化(1) (問題集単元12)		気体の法則について説明できる。 気体の状態方程式に関する計算ができる。		
		3週	気体のエネルギーと状態変化(2) (問題集単元13)		気体の分子運動について説明できる。		
		4週	気体のエネルギーと状態変化(3) (問題集単元13)		熱力学の第一法則について理解し, 気体の状態変化に関する計算と説明ができる。		
		5週	波(1) (問題集単元14, 15)		縦波と横波について説明できる。 波の伝わり方, 重ね合わせについて説明できる。		
		6週	波(2) (問題集単元14, 15)		波の反射について説明できる。		
		7週	波(3) (問題集単元16)		平面上の波の干渉と回折, 反射と屈折について説明できる。		
		8週	中間試験		第1週-第7週の講義内容に関する試験		
	2ndQ	9週	音(1) (問題集単元17)		音波の性質について説明できる。 共振と共鳴について説明できる。		
		10週	音(2) (問題集単元18)		ドップラー効果に関する計算と説明ができる。		
		11週	光(1) (問題集単元19)		光の性質と進み方について説明できる。 レンズ・鏡による像を作図し, 説明できる。		
		12週	光(2) (問題集単元20)		光の回折と干渉について説明できる。		
		13週	静電場(1) (問題集単元21)		電荷と電気力に関する計算と説明ができる。		
		14週	静電場(2) (問題集単元21)		電場・電位に関する計算と説明ができる。		
		15週	定期試験答案返却		答案返却・まとめ		
		16週					

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物理Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	2A011			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	2	
開設期	後期			週時間数	4	
教科書/教材	教科書：総合物理 2ー波・電気と磁気・原子ー (数研出版) 問題集：リードα物理基礎・物理 (数研出版), フォローアップドリル物理基礎 波・電気, フォローアップドリル物理 電気と磁気, 原子 (数研出版) 図解：フォトサイエンス物理図録 (数研出版)					
担当教員	宇治野 秀晃					
到達目標						
☐ コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則などを用いて電気量・電流・発熱量などを求めることができる。 ☐ 単純な形状の電流が作る磁場と磁場から電流が受ける力を求めることができる。 ☐ 電磁誘導現象を理解し, 誘導起電力の計算や交流回路へ応用できる。 ☐ 光や電子の二重性とは何かを説明でき, ボーアの原子模型を使って電子の状態の遷移に伴って放出・吸収される電磁波の波長を求めることができる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って複雑な電気回路に関する問題を解くことができる。		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができる。		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができない。	
評価項目2	電流によって作られる磁場の特徴を十分に理解した上で計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる。		電流によって作られる磁場が計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる。		電流によって作られる磁場の計算, および電流が磁場から受ける力を求めることができない。	
評価項目3	誘導起電力を求めることができ, 発電や複雑な交流回路への応用できる。		誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できる。		誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できない。	
評価項目4	光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について十分に説明できる。		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できる。		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	高校物理教科書に則して, 電磁気学と前期量子論について講義する。					
授業の進め方・方法	座学、演示実験など					
注意点	様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	電気容量(1) (問題集単元22)	コンデンサーの性質について理解することができる。		
		2週	電気容量(2) 直流と電気抵抗 (問題集単元23)	コンデンサーの並列接続、直列接続について理解できる。 オームの法則を用いて、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。		
		3週	直流回路 半導体 (問題集単元24)	抵抗の直列接続、並列接続時の合成抵抗を求めることができる。 キルヒホッフの法則を用いて、電気回路に関する問題を解くことができる。 半導体の性質を理解することができる。		
		4週	磁界 電流が磁界から受ける力(1) (問題集単元25)	磁界の性質を理解することが出来る。 電流の作る磁界について理解できる。 電流が磁界から受ける力の性質について理解できる。		
		5週	電流が磁界から受ける力(2) ローレンツ力(1) (問題集単元25)	電流が磁界から受ける力の性質について理解できる。 荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる。		
		6週	ローレンツ力(2) 電磁誘導(1) (問題集単元26)	荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる。 ファラデーの電磁誘導の法則およびレンツの法則について説明できる。		
		7週	電磁誘導(2) 自己誘導と相互誘導 (問題集単元26)	誘導起電力を求めることができる。 自己誘導・相互誘導の特徴を理解することができる。		
		8週	中間試験	第1週-第7週までの内容		
	4thQ	9週	交流回路 電磁波 (問題集単元27)	交流電流・交流電圧の特徴を理解し、交流回路に関する問題を解くことができる。 電磁波の性質を理解することができる。		
		10週	電子の発見 (問題集単元28)	電子の性質を説明できる。 電子の比電荷の計算ができる。		

		11週	波動と粒子の二重性 (問題集単元28)	アインシュタインの光量子説および光電効果について説明できる。 X線の特徴を説明できる。 コンプトン効果の計算ができる。 粒子と波動の二重性について、電子の干渉実験などを通して理解することができる。
		12週	原子模型 原子核の構成 (問題集単元29)	ラザフォードの原子模型について説明できる。 ボーアの水素原子理論から、水素原子内の電子の軌道半径およびエネルギー準位について計算できる。
		13週	原子核の崩壊と放射能 (問題集単元29, 30)	原子核の構成について説明できる。 放射線および放射性物質の特徴を理解し、 α , β , γ 崩壊の違いの説明ができる。 半減期の計算ができる。
		14週	原子核の変換と核エネルギー (問題集単元29, 30)	質量とエネルギーの等価性の関係から、原子核の結合エネルギーを計算できる。 核反応における核エネルギーの大きさの計算をすることができる。 核分裂、核融合の違いについて理解できる。
		15週	定期試験答案返却	答案返却・まとめ
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	言語文化	
科目基礎情報							
科目番号		2A012		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		一般教育		対象学年	2		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		精選 言語文化：三省堂 常用漢字フォルダ：浜島書店 新訂総合国語便覧：第一学習社					
担当教員		田貝 和子					
到達目標							
☐ 文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことが十分にできる。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことができる。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことができない。	
評価項目2		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得し、活用することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得できない。	
評価項目3		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを含めて作品の意義を考えることができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		中学校で既習の「古典」の学習成果、及び1年次に学習した現代語文法に基づき、基礎的な古典文法や古典常識から古典を読解・鑑賞して、古典作品の現代的意義について考察を深める。また、同じカテゴリーに属する作品を古典・現代文と比較しながら読解することで、日本語の変遷、思想や文化の流れを理解する。 韻文については、近代詩、短歌、俳句を扱い、創造性を培う。 漢文教材においては、訓読法の基礎学習から始発し、故事・漢詩をとりあげて読解・鑑賞し、中国の思想や文化が日本の文化に及ぼした影響について考える。					
授業の進め方・方法		講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。					
注意点		ノートを一冊用意してください。また、国語辞典、古語辞典も常に机の上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の目標と概要を理解できる。		
		2週	古文入門		古文の言葉やきまりについて基本的な事項を学ぶことができる。		
		3週	絵仏師良秀(1)		「説話」に描かれた人物の言動や心情を読み取ることができる。		
		4週	絵仏師良秀(2)		「説話」に描かれた世界観や人間のありようを考えることができる。		
		5週	小説「羅生門」(1)		文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。		
		6週	小説「羅生門」(2)		作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解することができる。		
		7週	小説「羅生門」(3)		小説とその典拠になった説話を読み比べ、小説の読みを深める。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	漢文入門(1)		漢文の世界に分け入って、言語文化への関心をもつことができる。		
		10週	漢文入門(2)		訓読のきまりについて基本的な事項を学ぶことができる。		
		11週	故事成語(1)		本文を音読することができる。		
		12週	故事成語(2)		「故事成語」に表れた教訓や風刺などを読み取ることができる。		
		13週	詩(1)		「詩」について学び、近代詩の展開を把握することができる。		
		14週	詩(2)		「詩」に描かれた情景や、作者の心情を理解することができる。		
		15週	前期定期試験				
		16週	前期到達目標の確認		言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。		

後期	3rdQ	1週	土佐日記(1)	言語文化に特徴的な語句の量を増し、文化的背景について理解を深めることができる。
		2週	土佐日記(2)	「日記」「紀行」を読み、それぞれの場面に描かれた作者の心情を理解することができる。
		3週	土佐日記(3)	作品の中で和歌や俳句が果たす役割について考えることができる。
		4週	土佐日記(4)	「旅」という非日常的な空間が呼び起こす人生観について考えることができる。
		5週	短歌と俳句(1)	それぞれの短歌を音読し、その調べを味わうことができる。
		6週	短歌と俳句(2)	それぞれの作品に詠まれた情景や心情を理解することができる。
		7週	短歌と俳句(3)	それぞれの俳句について、季語とその季節を理解できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	漢詩(1)	「漢詩」に描かれた情景や心情を読み取ることができる。
		10週	漢詩(2)	「漢詩」の特徴や技法について理解することができる。
		11週	漢詩(3)	「漢詩」を理解し、日本の言語文化における意義について考えることができる。
		12週	小説「待ち伏せ」(1)	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。
		13週	小説「待ち伏せ」(2)	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。
		14週	小説「待ち伏せ」(3)	作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解することができる。
		15週	後期定期試験	
		16週	後期到達目標の確認	言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。
評価割合				
	試験・レポート	課題・ノート	小テスト	合計
総合評価割合	80	8	12	100
基礎的能力	80	8	12	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	2A014			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『最新図説 政経』：浜島書店						
担当教員	石関 正典						
到達目標							
□広い視野からの観察を通して、政治や経済の仕組みを理解し、現実に行っている様々な問題を多面的に考察する力を身につけることができる。 □社会人・有権者として主体的に生きていくための判断基準を構築し、自分の意見を表明するための基礎的な知識や分析手法を習得することができる。 □選挙における投票や企業等における経済活動、裁判員としての裁判への参加など、今後国民として経験する重要な事柄・場面において、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識や能力を身につけることができる。 □時事問題に触れることで、現代社会の抱える諸問題についての知識・理解を深めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		民主政治の基本原理、日本国憲法の基本原理や特性について理解し、適切に説明できる。		民主政治の基本原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解している。		民主政治の基本原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解できない。	
評価項目2		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解し、適切に説明できる。		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解している。		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解できない。	
評価項目3		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を身につけ、自分の意見を適切に表明することができる。		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できている。		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	□前期は主に政治分野を、後期は主に経済分野を学習する。 □政治分野では、民主政治の基本原則、日本国憲法（国民主権、基本的人権、平和主義）、日本の政治機構（国会の仕組みと機能、内閣・行政の仕組みと機能、裁判所の仕組みと機能）について取り上げる。 □経済分野では、労働問題、社会保障、消費者保護、財政の役割、金融の役割、日本経済の歩みについて取り上げる。						
授業の進め方・方法	□授業は指定の資料集を用いて、基本的に講義形式で行う。 □学生には積極的な発言や質問を期待する。 □ノートやレポートの作成を通じて、学習内容の定着を図るとともに、自分で学習のポイントをまとめる力や文章表現力を身につける。 □評価は試験と提出物（ノート、レポート）の合算により行う。						
注意点	□中間試験、定期試験の前にノート提出の機会を設けるので、政治・経済用のノートを用意すること（必ずクラス・番号・氏名を記載。ルーズリーフ等の使用も可とするが、紛失等を防ぐため、必ずファイルに綴じて提出すること）。 □ノートや課題提出を怠らないようにすること。						
授業の属性・履修上の区分							
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	政治と法の支配		ホッブズ・ロック・ルソーの社会契約説の内容や法の支配の意義を説明できる。		
		2週	日本国憲法の成立(1)		大日本帝国憲法の制定背景や基本的性格、日本国憲法との相違点を説明できる。		
		3週	日本国憲法の成立(2)		日本国憲法制定の背景や制定過程を説明できる。		
		4週	日本国憲法の基本的性格		国民主権と象徴天皇制の意義を説明できる。		
		5週	平和主義(1)		日本国憲法の平和主義の概要、憲法9条と自衛隊の解釈を説明できる。		
		6週	平和主義(2)		日本の防衛政策の基本、日米安全保障条約の意義や問題点を説明できる。		
		7週	平和主義(3)		冷戦後の国際社会の変化や自衛隊の国際貢献について説明できる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	基本的人権の保障(1)		日本国憲法の権利・義務、法の下での平等の意義を説明できる。		
		10週	基本的人権の保障(2)		自由権(精神の自由・身体の自由・経済的自由)の内容や代表的な判例を説明できる。		
		11週	基本的人権の保障(3)		社会権の内容や関連条文、代表的な判例を説明できる。		
		12週	国会の構成と権限(1)		国会の地位、国会の構成と運営について説明できる。		
		13週	国会の構成と権限(2)		衆議院の優越、国会の権限について説明できる。		
		14週	議院内閣制と行政(1)		内閣の成立と国会との関係について説明できる。		
		15週	前期定期試験				
		16週	議院内閣制と行政(2)		内閣の働き、内閣総理大臣の職務と権限について説明できる。		

後期	3rdQ	1週	司法と国民(1)	司法権の独立と裁判制度(裁判の種類、三審制、再審制度)を説明できる。
		2週	司法と国民(2)	違憲審査権、司法制度改革と裁判員制度の概要や意義を説明できる。
		3週	労使関係と労働問題(1)	労働基本権と労働三法の内容を説明できる。
		4週	労使関係と労働問題(2)	労働市場と労働問題、女性をとりまく労働環境の課題を説明できる。
		5週	社会保障と社会福祉(1)	日本の社会保障体系、社会保険の内容を説明できる。
		6週	社会保障と社会福祉(2)	公的扶助、社会福祉の内容と課題を説明できる。
		7週	消費者保護	悪質商法や多重債務など消費者を取り巻く問題や消費者保護行政について説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	財政の役割(1)	財政の 3 つの機能と財政政策の手法を説明できる。
		10週	財政の役割(2)	租税の種類と税制の課題、財政健全化を実現するためにはどうすればよいか説明できる。
		11週	金融の役割(1)	日本銀行の役割と金融政策の手法を説明できる。
		12週	金融の役割(2)	金融自由化、バブル崩壊と金融への影響を説明できる。
		13週	日本経済の歩み(1)	戦後復興期から現在に至るまでの日本経済の歩みを説明できる。
		14週	日本経済の歩み(2)	バブル崩壊以降の日本経済が抱える課題について説明できる。
		15週	後期定期試験	
		16週	学習のまとめ	試験返却およびこれまでの学習の総括を行い理解を深める。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	0	100
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号	2A015			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	佐藤 孝之						
到達目標							
☐ 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 ☐ 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 ☐ 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 ☐ 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
		ルールを理解し、説明できる.		ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない.		よくわからないし、ルールも理解できていない.	
		ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた.		友人のマネをしながら安全に効率よく動けた.		安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった.	
		実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた.		積極的に参加したいと思っていた.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
		コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った.		とりあえず、準備片付けは手伝った.		特に何もしなかった.	
		チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した.		とりあえず、自分の役割は果たした.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。						
授業の進め方・方法	実技授業中に各自が歩数計を取り付け歩数を測ります。この記録は授業ノートに記入します。また授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価して記入、授業後は授業感想を記入します。学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。						
注意点	・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 ・ケガを未然に防ぐために、時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアス等の貴金属類はすべて外して参加すること。 ・サイズが合っている学校指定のジャージおよびシューズ（屋内外別、スパイク禁止）を着用の上、参加すること（ジーンズなどの普段着での受講は不可）。 ・髪が長い学生は髪を纏めた状態で参加すること。 ・それぞれの授業を進める上で配慮を必要とする学生(ケガ等)は申し出ること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意		授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。		
		2週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		3週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		4週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得		コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。		
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
		12週	水泳の基本的技術の習得		基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。		
		13週	水泳の基本的技術の習得		基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。		

後期		14週	着衣泳の基本的技術の習得	着衣泳を行い水難事故対応策や護身術を理解することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	前期の体育授業を振り返り、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		
	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		5週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		6週	野球の基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		7週	野球の基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		8週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	4thQ	9週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		10週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		11週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		12週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		13週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		14週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取り組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語A	
科目基礎情報							
科目番号	2A016			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『MY WAY : English Communication II 』三省堂 『フェイバリット英単語・熟語 コーパス4500』東京書籍						
担当教員	横山 孝一						
到達目標							
1. 教科書で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 教科書の英文を読み、内容が理解できる。 4. 教科書の英語を聞いて理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	教科書で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。			教科書で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が理解できない。	
評価項目 2	教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することができる。			教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。	
評価項目 3	教科書の英文を読み、内容がよく理解できる。			教科書の英文を読み、内容がある程度理解できる。		教科書の英文の内容が理解できない。	
評価項目 4	教科書の英語を聞いて内容をよく理解することができる。			教科書の英語を聞いて内容をある程度理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	教科書の英文読解・練習問題・リスニング問題を通じて、総合的な英語力の基礎構築を目標とする。 具体的には、英検準2級～2級レベルの英語運用能力を目指す。						
授業の進め方・方法	冒頭で、人生の指針となる英語のことわざ名言を紹介する。教科書の英文読解を毎回3名の学生に発表してもらい、難しいところなどが全員で考える。レッスンごとに配布する語句プリントを全員に記入してもらい、それを使って音読の練習をする。新出単語はネイティブの音声でアクセントに注意しながら練習する。本文の読解を演習形式で進め、重要な文法事項等について解説を加える。 教科書の練習問題を全員で行ない、答え合わせをする。毎回、習った構文・表現・文法を用いるオリジナルの英訳問題を宿題とし、次回、ことわざのあとに確認して応用力を養う。 中間試験と定期試験の2週間前に復習小テストを実施し、学習事項の要点を確認する。						
注意点	外国語を身につけるには、まず授業の予習復習を習慣づける必要があります。具体的には、英語と日本語の違いがひと目でわかる「対訳ノート」を作ってください。そのためのノートを早めに用意しておくこと。辞書を活用することで英語力が飛躍的に向上するので、辞書を引いて例文を対訳ノートに書き加えていくこともお勧めします。音声は教科書のQRコードを使って聞くことができるので自宅で活用しましょう。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Section 1		英語の学習方法を知ることができる。 SV+ that が理解できる。		
		2週	Lesson 1 Section 2		SV+ if が理解できる。		
		3週	Lesson 1 Section 3 総復習		S ask O if が理解できる。 Lesson 1 で学習した語彙・文法が理解できる		
		4週	Lesson 2 Section 1		形式主語が理解できる。		
		5週	Lesson 2 Section 2		形式目的語が理解できる。		
		6週	復習小テスト Lesson 2 Section 3		自分の弱点が理解できる。 形式目的語の it が理解できる。		
		7週	答案返却と解説 Lesson 3 Section 1		前期中間試験範囲の要点が理解できる。 現在完了形が理解できる。		
		8週	前期中間試験		上記項目の理解度が確認できる。		
	2ndQ	9週	答案返却と解説 Lesson 3 Section 2		前期中間試験の間違ったところが理解できる。 過去完了形が理解できる。		
		10週	Lesson 3 Section 3 総復習		過去完了進行形が理解できる。		
		11週	Lesson 4 Section 1		S see O + 動詞の原形が理解できる。		
		12週	Lesson 4 Section 2		S see O + 過去分詞が理解できる。		
		13週	復習小テスト Lesson 4 Section 3		自分の弱点が理解できる。 S have O + 過去分詞が理解できる。		
		14週	答案返却と解説 Lesson 4 Section 4		前期定期試験範囲の要点が理解できる。 S help O + 動詞の原形が理解できる。		
		15週	前期定期試験		上記項目の理解度が確認できる。		
		16週	答案返却と解説 Lesson 5 Section 1		前期定期試験の間違ったところが理解できる。。 関係代名詞（主格）が理解できる。		
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Section 1		分詞構文 が理解できる。		
		2週	Lesson 7 Section 2		受け身の分詞構文が理解できる。		

		3週	Lesson 7 Section 3	完了形の分詞構文 が理解できる。
		4週	Lesson 7 Section 4 総復習	付帯状況の with が理解できる。 Lesson 7 で学習した語彙・文法が理解できる。
		5週	Lesson 8 Section 1	仮定法過去が理解できる。
		6週	復習小テスト Lesson 8 Section 2	自分の弱点が理解できる。 仮定法過去完了が理解できる。
		7週	答案返却と解説 Lesson 8 Section 3	後期中間試験範囲の要点が理解できる。 if を使わない仮定法が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目の理解度が確認できる。
	4thQ	9週	答案返却 Lesson 8 Section 4	後期中間試験の間違ったところが理解できる。 no matter + 疑問詞 が理解できる。
		10週	Lesson 9 Section 1	同格の that が理解できる。
		11週	Lesson 9 Section 2	強調構文が理解できる。
		12週	Lesson 9 Section 3	倒置が理解できる。
		13週	復習小テスト Lesson 9 Section 4	自分の弱点が理解できる。 省略が理解できる。
		14週	復習小テスト返却と解説 Lesson10 Topic 1	後期定期試験範囲の要点が理解できる。 議論の基礎が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目の理解度が確認できる。
		16週	答案返却と解説 Lesson10 Topic 2	後期定期試験の間違ったところが理解できる。 議論の表現が理解できる。

評価割合

	中間・定期試験	小テスト等	合計
総合評価割合	80	20	100
前期	40	10	50
後期	40	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語B	
科目基礎情報							
科目番号	2A017			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『be English Grammar 30』 いいずな書店						
担当教員	伊藤 文彦						
到達目標							
☐ 教科書の文法事項を用いた英文を読んで理解できる。 ☐ 教科書の文法事項を用いて基本的な英作文ができる。 ☐ 日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
教科書の文法事項を用いた英文を読んで理解できる	教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容がよく理解できる			教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容がある程度理解できる		教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容が理解できない	
教科書の文法事項を用いて基本的な英作文ができる	適切な英文・語彙を用いてよく作文ができる			適切な英文・語彙を用いてある程度作文ができる		適切な英文・語彙を用いて作文ができない	
日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できる	日常的な話題に関する英文を聴いて内容がよく理解できる			日常的な話題に関する英文を聴いて内容がある程度理解できる		日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業では前年度に学習した英文法を定着させるとともに、高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を新たに習得することを目指している。 具体的には英検準二級レベルの英語運用能力の獲得を目指す。						
授業の進め方・方法	教科書の練習問題を用い、演習形式で授業を進める。 適宜小テストを行い、紀州事項の定着を図る。 ライティング、リスニング、スピーキング練習も適宜取り入れる予定である。						
注意点	予習を前提として授業を進める。 毎回の授業に辞書を持参すること。（スマートフォン不可）						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1		日英語の語順の違いが理解できる。		
		2週	Lesson 2		日英語の語順の違いが理解できる。 各品詞の役割が理解できる。		
		3週	Lesson 3, 4		文の種類が理解できる。		
		4週	Lesson 5, 6		時制の使い分けができる。		
		5週	Lesson 7, 8		完了形の使い方が理解できる。		
		6週	Lesson 9, 10		助動詞の使い方が理解できる。		
		7週	Lesson 11, 12		助動詞の使い方が理解できる。		
		8週	前期中間試験		上記項目について、理解度を確認する。		
	2ndQ	9週	試験返却		前期中間試験の解説		
		10週	Lesson 13		受動態の使い方が理解できる。		
		11週	Lesson 14, 15, 16		不定詞・動名詞の使い方が理解できる。		
		12週	Lesson 14, 15, 16		不定詞・動名詞の使い方が理解できる。		
		13週	Lesson 17, 18		不定詞を使った様々な表現が理解できる。		
		14週	Lesson 19, 20		分詞の使い方が理解できる。		
		15週	前期定期試験		上記項目について、理解度を確認する。		
		16週	試験返却		前期定期試験の解説		
後期	3rdQ	1週	Lesson 21, 22, 23		関係詞の使い方が理解できる。		
		2週	Lesson 21, 22, 23		関係詞の使い方が理解できる。		
		3週	Lesson 24, 25		比較級・最上級の使い方が理解できる。		
		4週	Lesson 24, 25		比較級・最上級の使い方が理解できる。		
		5週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		6週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		7週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		8週	後期中間試験		上記項目について、理解度を確認する。		
	4thQ	9週	試験返却		後期中間試験の解説		
		10週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		11週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		12週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		13週	Lesson 30		話法の使い方が理解できる。		

		14週	Lesson 30	話法の使い方が理解できる。			
		15週	後期定期試験	上記項目について、理解度を確認する。			
		16週	試験返却	後期定期試験の解説			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
mid	40	0	0	0	0	10	50
final	40	0	0	0	0	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学A I	
科目基礎情報							
科目番号	2A018		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教育		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	4			
教科書/教材	新微分積分I改訂版（大日本図書）新微分積分I問題集改訂版（大日本図書）						
担当教員	市村 和也						
到達目標							
☐ 微分係数・導関数の定義や、導関数の性質が理解できる。 ☐ 合成関数の導関数、三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を求めることができる。 ☐ 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べることができる。 ☐ 関数のグラフの接線と法線を求められる。 ☐ 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度を求められる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	微分係数、導関数の定義を十分理解できる。		微分係数、導関数の定義が理解できる。		微分係数、導関数の定義が理解できない。		
評価項目2	導関数と関数の増減の関係を十分理解できる。		導関数と関数の増減の関係を理解できる。		導関数と関数の増減の関係を理解できない。		
評価項目3	媒介変数表示された複雑な関数の導関数を求められる。		媒介変数表示された関数の導関数を求められる。		媒介変数表示された関数の導関数を求められない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1. 関数の極限について学び、微分係数・導関数の定義や、導関数の性質、基本公式等を学習する。 2. 合成関数の導関数の求め方や諸公式の応用の習熟を図る。 3. 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を学習する。 4. 導関数と関数の増減との関係を学び、最大値・最小値を求める問題に応用する。 5. 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べ、グラフとの関係を学習する。 6. 関数のグラフの接線と法線、ロピタルの定理。 7. 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度。						
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	関数の極限と導関数 (1)		いろいろな関数の極限を求めることができる。		
		2週	関数の極限と導関数 (2)		微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。		
		3週	関数の極限と導関数 (3)		積・商の導関数の公式を使うことができる。		
		4週	関数の極限と導関数 (4)		三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。		
		5週	いろいろな関数の導関数(1)		合成関数の導関数を求めることができる。		
		6週	いろいろな関数の導関数 (2)		対数微分法が理解できる。		
		7週	いろいろな関数の導関数 (3)		逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	関数の変動 (1)		基本的な関数の接線の方程式を求めることができ、微分係数と関数の増減の関係が理解できる。		
		10週	関数の変動 (2)		関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができ、関数の最大値・最小値を求めることができる。		
		11週	関数の変動 (3)		不定形の極限を求めることができる。		
		12週	いろいろな応用 (1)		2次以上の導関数を求めることができる。		
		13週	いろいろな応用 (2)		関数の凹凸、変曲点を求めることができる。		
		14週	いろいろな応用 (3)		関数の媒介変数表示を理解し、その導関数を計算できる。		
		15週	いろいろな応用 (4)		平均値の定理が理解できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学AⅡ		
科目基礎情報								
科目番号	2A019			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教育			対象学年	2			
開設期	後期			週時間数	4			
教科書/教材	新微分積分I改訂版（大日本図書）新微分積分I問題集改訂版（大日本図書）							
担当教員	松本 敦							
到達目標								
☐ 定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。 ☐ 基本的な計算方法を習得し、様々な応用ができる。 ☐ 置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。 ☐ 分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分ができる。 ☐ 積分を応用して長さ、面積、体積等を求めることができる。 ☐ 広義積分ができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	定積分を十分理解し、積分の計算ができる。		定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。		定積分を理解し、基本的な積分の計算ができない。			
評価項目2	置換積分法と部分積分法を用いて複雑な積分できる。		置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。		置換積分法と部分積分法を用いて積分できない。			
評価項目3	広義積分を十分理解し計算ができる。		広義積分ができる。		広義積分ができない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	1. 定積分の定義をし、微分の逆演算である不定積分との関係を学習する。また、基本的な関数の積分方法を学ぶ。 2. 積分の大切な計算方法である置換積分法と部分積分法について学ぶ。分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分法を学ぶ。 3. 長さ、面積、体積等を求める問題に応用する。 4. 媒介変数、曲座標によって表示された図形の問題、運動との関係、広義積分等のいろいろな応用を学習する。							
授業の進め方・方法								
注意点								
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	不定積分と定積分 (1)			不定積分の定義を理解している。		
		2週	不定積分と定積分 (2)			定積分の定義を理解している。		
		3週	不定積分と定積分 (3)			微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。		
		4週	積分の計算 (1)			置換積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		5週	積分の計算 (2)			部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		6週	積分の計算 (3)			置換積分法、部分積分法の応用ができる。		
		7週	積分の計算 (4)			分数関数、無理関数、三角関数の不定積分・定積分の計算ができる。		
	4thQ	8週	中間試験					
		9週	面積・曲線の長さ・体積 (1)			基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。		
		10週	面積・曲線の長さ・体積 (2)			いろいろな曲線の長さを求めることができる。		
		11週	面積・曲線の長さ・体積 (3)			立体の体積を求めることができる。		
		12週	いろいろな応用 (1)			媒介変数表示された図形の面積や長さを求められる。		
		13週	いろいろな応用 (2)			極座標を理解できる		
		14週	いろいろな応用 (3)			広義積分を理解できる		
		15週	いろいろな応用 (4)			変化率と積分の関係を理解できる。		
16週								
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	2A020		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	新線形代数改訂版（大日本図書） / 新線形代数問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	谷中 勝,北田 健策,布施川 秀紀					
到達目標						
ベクトルや行列について学習し、次のことをできるようにする。 □ベクトルの定義を理解し基本的な計算（和、差、定数倍）ができ、大きさを求めることができる。 □ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 □ベクトルの内積を求めることができる。 □ベクトルの平行、垂直条件を利用することができる。 □空間内の直線の方程式、平面の方程式、球の方程式を求めることができる。 □行列の定義を理解して、和・差・積の計算ができる。 □逆行列の定義を理解し、逆行列を求めることができる。 □行列を利用して連立方程式を解くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求め、応用した問題を解ける。		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができない。	
評価項目2	空間内の直線・平面・球の方程式を求めて、応用した問題を解くことができる。		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる（必要に応じてベクトル方程式も扱う）。		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができない。	
評価項目3	行列の和・差・積、数との積の計算から応用した問題を解くことができる。		行列の和・差・積、数との積の計算ができる。		行列の和・差・積、数との積の計算ができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	前期は代数学・幾何学の基礎であるベクトルについて学ぶ。具体的には平面上のベクトル、その内積および図形への応用である。次に空間内のベクトルについて学習する。ここでは直線の方程式、平面の方程式、球の方程式などを学び、最後にベクトルの線形独立・線形従属の概念について学習する。後期は線形代数の基本である行列の性質について学習する。行列を定義して、和・差・積を導入し、いろいろな性質について学び、連立方程式と関連させて学習する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
□ アクティブラーニング		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	平面のベクトル (1)	ベクトルの定義を理解できる。		
		2週	平面のベクトル (2)	平面ベクトルの基本的な計算ができる。		
		3週	平面のベクトル (3)	平面ベクトルの成分表示ができる。		
		4週	平面のベクトル (4)	平面ベクトルの内積を求めることができる。		
		5週	平面のベクトル (5)	ベクトルの平行条件を利用することができる。		
		6週	平面のベクトル (6)	ベクトルの垂直条件を利用することができる。		
		7週	平面のベクトル (7)	直線のベクトル方程式を理解できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	平面のベクトル (8)	平面のベクトルの線形独立性を理解できる。		
		10週	空間のベクトル (1)	空間内のベクトルの定義を理解できる。		
		11週	空間のベクトル (2)	空間ベクトルの基本的な計算ができる。		
		12週	空間のベクトル (3)	空間ベクトルの大きさが計算ができる。		
		13週	空間のベクトル (4)	ベクトルの内積を理解できる。		
		14週	空間のベクトル (5)	直線の方程式を求められる。		
		15週	空間のベクトル (6)	平面の方程式を求められる。		
		16週				
後期	3rdQ	1週	空間のベクトル (7)	球の方程式を求められる。		
		2週	空間のベクトル (8)	空間ベクトルの線形独立・線形従属について理解できる。		
		3週	行列 (1)	行列の定義を理解している。		
		4週	行列 (2)	行列の和・差・数との積の計算ができる。		
		5週	行列 (3)	行列の積の計算ができる。		
		6週	行列 (4)	行列の積の性質を理解できる。		
		7週	行列 (5)	零因子や単位行列を理解できる。		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	行列 (6)	転置行列を理解できる。		

	10週	行列 (7)	2次の正方行列の逆行列を求めることができる。
	11週	連立 1 次方程式 (1)	消去法を理解できる。
	12週	連立 1 次方程式 (2)	消去法から無限個の解を持つ連立方程式を解ける。
	13週	連立 1 次方程式 (3)	消去法で逆行列を求められる。
	14週	連立 1 次方程式 (4)	逆行列を使って連立一次方程式を解ける。
	15週	連立 1 次方程式 (5)	行列の階数を求められる。
	16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物理 I	
科目基礎情報							
科目番号		2A021		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		2	
開設期		前期		週時間数		4	
教科書/教材		教科書：総合物理1―力と運動・熱―, 総合物理2―波・電気と磁気・原子― (数研出版) 問題集：リードα物理基礎・物理 (数研出版), フォローアップドリル物理基礎 仕事とエネルギー・熱, 波・電気 (数研出版), フォローアップドリル物理 力と運動・熱と気体, 波, 電気と磁気 (数研出版) 図解：フォトサイエンス物理図録 (数研出版)					
担当教員		渡邊 悠貴					
到達目標							
☐ 熱力学第一法則を様々な過程に適用することができる。 ☐ 正弦波の式について理解し, 図示することができる。 ☐ 波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。 ☐ 電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 応用問題を解くことができる。		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができる。		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができない。	
評価項目2		正弦波の式について十分に理解し, 図示することができる。		正弦波の式について理解し, 図示することができる。		正弦波の式について理解し, 図示することができない。	
評価項目3		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を十分に説明することができる。		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができない。	
評価項目4		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する応用問題を解くことができる。		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する基本問題を解くことができる。		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		高校物理教科書に則して, 熱力学, 波動, 静電場の電磁気学について講義する。					
授業の進め方・方法		座学, 演実実験など					
注意点		様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	熱と物質 (問題集単元11)		熱と熱量, 仕事について説明できる。 熱容量と比熱に関する計算ができる。 物質の三態について説明できる。 熱量の保存, 固体の膨張に関する計算ができる。		
		2週	気体のエネルギーと状態変化(1) (問題集単元12)		気体の法則について説明できる。 気体の状態方程式に関する計算ができる。		
		3週	気体のエネルギーと状態変化(2) (問題集単元13)		気体の分子運動について説明できる。		
		4週	気体のエネルギーと状態変化(3) (問題集単元13)		熱力学の第一法則について理解し, 気体の状態変化に関する計算と説明ができる。		
		5週	波(1) (問題集単元14, 15)		縦波と横波について説明できる。 波の伝わり方, 重ね合わせについて説明できる。		
		6週	波(2) (問題集単元14, 15)		波の反射について説明できる。		
		7週	波(3) (問題集単元16)		平面上の波の干渉と回折, 反射と屈折について説明できる。		
		8週	中間試験		第1週-第7週の講義内容に関する試験		
	2ndQ	9週	音(1) (問題集単元17)		音波の性質について説明できる。 共振と共鳴について説明できる。		
		10週	音(2) (問題集単元18)		ドップラー効果に関する計算と説明ができる。		
		11週	光(1) (問題集単元19)		光の性質と進み方について説明できる。 レンズ・鏡による像を作図し, 説明できる。		
		12週	光(2) (問題集単元20)		光の回折と干渉について説明できる。		
		13週	静電場(1) (問題集単元21)		電荷と電気力に関する計算と説明ができる。		
		14週	静電場(2) (問題集単元21)		電場・電位に関する計算と説明ができる。		
		15週	定期試験答案返却		答案返却・まとめ		
		16週					

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物理Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		2A022		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		2	
開設期		後期		週時間数		4	
教科書/教材		教科書：総合物理 2ー波・電気と磁気・原子ー (数研出版) 問題集：リードα物理基礎・物理 (数研出版), フォローアップドリル物理基礎 波・電気, フォローアップドリル物理 電気と磁気, 原子 (数研出版) 図解：フォトサイエンス物理図録 (数研出版)					
担当教員		渡邊 悠貴					
到達目標							
☐ コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則などを用いて電気量・電流・発熱量などを求めることができる。 ☐ 単純な形状の電流が作る磁場と磁場から電流が受ける力を求めることができる。 ☐ 電磁誘導現象を理解し, 誘導起電力の計算や交流回路へ応用できる。 ☐ 光や電子の二重性とは何かを説明でき, ボーアの原子模型を使って電子の状態の遷移に伴って放出・吸収される電磁波の波長を求めることができる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って複雑な電気回路に関する問題を解くことができる。		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができる。		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができない。	
評価項目2		電流によって作られる磁場の特徴を十分に理解した上で計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる。		電流によって作られる磁場が計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる。		電流によって作られる磁場の計算, および電流が磁場から受ける力を求めることができない。	
評価項目3		誘導起電力を求めることができ, 発電や複雑な交流回路への応用できる。		誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できる。		誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できない。	
評価項目4		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について十分に説明できる。		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できる。		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		高校物理教科書に則して, 電磁気学と前期量子論について講義する。					
授業の進め方・方法		座学、演示実験など					
注意点		様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	電気容量(1) (問題集単元22)		コンデンサーの性質について理解することができる。		
		2週	電気容量(2) 直流と電気抵抗 (問題集単元23)		コンデンサーの並列接続、直列接続について理解できる。 オームの法則を用いて、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。		
		3週	直流回路 半導体 (問題集単元24)		抵抗の直列接続、並列接続時の合成抵抗を求めることができる。 キルヒホッフの法則を用いて、電気回路に関する問題を解くことができる。 半導体の性質を理解することができる。		
		4週	磁界 電流が磁界から受ける力(1) (問題集単元25)		磁界の性質を理解することが出来る。 電流の作る磁界について理解できる。 電流が磁界から受ける力の性質について理解できる。		
		5週	電流が磁界から受ける力(2) ローレンツ力(1) (問題集単元25)		電流が磁界から受ける力の性質について理解できる。 荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる。		
		6週	ローレンツ力(2) 電磁誘導(1) (問題集単元26)		荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる。 ファラデーの電磁誘導の法則およびレンツの法則について説明できる。		
		7週	電磁誘導(2) 自己誘導と相互誘導 (問題集単元26)		誘導起電力を求めることができる。 自己誘導・相互誘導の特徴を理解することができる。		
		8週	中間試験		第1週-第7週までの内容		
	4thQ	9週	交流回路 電磁波 (問題集単元27)		交流電流・交流電圧の特徴を理解し、交流回路に関する問題を解くことができる。 電磁波の性質を理解することができる。		
		10週	電子の発見 (問題集単元28)		電子の性質を説明できる。 電子の比電荷の計算ができる。		

		11週	波動と粒子の二重性 (問題集単元28)	アインシュタインの光量子説および光電効果について説明できる。 X線の特徴を説明できる。 コンプトン効果の計算ができる。 粒子と波動の二重性について、電子の干渉実験などを通して理解することができる。
		12週	原子模型 原子核の構成 (問題集単元29)	ラザフォードの原子模型について説明できる。 ボーアの水素原子理論から、水素原子内の電子の軌道半径およびエネルギー準位について計算できる。
		13週	原子核の崩壊と放射能 (問題集単元29, 30)	原子核の構成について説明できる。 放射線および放射性物質の特徴を理解し、 α , β , γ 崩壊の違いの説明ができる。 半減期の計算ができる。
		14週	原子核の変換と核エネルギー (問題集単元29, 30)	質量とエネルギーの等価性の関係から、原子核の結合エネルギーを計算できる。 核反応における核エネルギーの大きさの計算をすることができる。 核分裂、核融合の違いについて理解できる。
		15週	定期試験答案返却	答案返却・まとめ
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	言語文化	
科目基礎情報							
科目番号		2A023		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		一般教育		対象学年	2		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		精選 言語文化：三省堂 常用漢字フォルダ：浜島書店 新訂総合国語便覧：第一学習社					
担当教員		田貝 和子					
到達目標							
☐ 文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことが十分にできる。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことができる。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことができない。	
評価項目2		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得し、活用することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得できない。	
評価項目3		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを含めて作品の意義を考えることができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		中学校で既習の「古典」の学習成果、及び1年次に学習した現代語文法に基づき、基礎的な古典文法や古典常識から古典を読解・鑑賞して、古典作品の現代的意義について考察を深める。また、同じカテゴリーに属する作品を古典・現代文と比較しながら読解することで、日本語の変遷、思想や文化の流れを理解する。 韻文については、近代詩、短歌、俳句を扱い、創造性を培う。 漢文教材においては、訓読法の基礎学習から始発し、故事・漢詩をとりあげて読解・鑑賞し、中国の思想や文化が日本の文化に及ぼした影響について考える。					
授業の進め方・方法		講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。					
注意点		ノートを一冊用意してください。また、国語辞典、古語辞典も常に机の上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の目標と概要を理解できる。		
		2週	古文入門		古文の言葉やきまりについて基本的な事項を学ぶことができる。		
		3週	絵仏師良秀(1)		「説話」に描かれた人物の言動や心情を読み取ることができる。		
		4週	絵仏師良秀(2)		「説話」に描かれた世界観や人間のありようを考えることができる。		
		5週	小説「羅生門」(1)		文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。		
		6週	小説「羅生門」(2)		作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解することができる。		
		7週	小説「羅生門」(3)		小説とその典拠になった説話を読み比べ、小説の読みを深める。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	漢文入門(1)		漢文の世界に分け入って、言語文化への関心をもつことができる。		
		10週	漢文入門(2)		訓読のきまりについて基本的な事項を学ぶことができる。		
		11週	故事成語(1)		本文を音読することができる。		
		12週	故事成語(2)		「故事成語」に表れた教訓や風刺などを読み取ることができる。		
		13週	詩(1)		「詩」について学び、近代詩の展開を把握することができる。		
		14週	詩(2)		「詩」に描かれた情景や、作者の心情を理解することができる。		
		15週	前期定期試験				
		16週	前期到達目標の確認		言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。		

後期	3rdQ	1週	土佐日記(1)	言語文化に特徴的な語句の量を増し、文化的背景について理解を深めることができる。
		2週	土佐日記(2)	「日記」「紀行」を読み、それぞれの場面に描かれた作者の心情を理解することができる。
		3週	土佐日記(3)	作品の中で和歌や俳句が果たす役割について考えることができる。
		4週	土佐日記(4)	「旅」という非日常的な空間が呼び起こす人生観について考えることができる。
		5週	短歌と俳句(1)	それぞれの短歌を音読し、その調べを味わうことができる。
		6週	短歌と俳句(2)	それぞれの作品に詠まれた情景や心情を理解することができる。
		7週	短歌と俳句(3)	それぞれの俳句について、季語とその季節を理解できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	漢詩(1)	「漢詩」に描かれた情景や心情を読み取ることができる。
		10週	漢詩(2)	「漢詩」の特徴や技法について理解することができる。
		11週	漢詩(3)	「漢詩」を理解し、日本の言語文化における意義について考えることができる。
		12週	小説「待ち伏せ」(1)	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。
		13週	小説「待ち伏せ」(2)	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。
		14週	小説「待ち伏せ」(3)	作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解することができる。
		15週	後期定期試験	
		16週	後期到達目標の確認	言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。
評価割合				
	試験・レポート	課題・ノート	小テスト	合計
総合評価割合	80	8	12	100
基礎的能力	80	8	12	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	2A025			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『最新図説 政経』：浜島書店						
担当教員	石関 正典						
到達目標							
☐広い視野からの観察を通して、政治や経済の仕組みを理解し、現実に行っている様々な問題を多面的に考察する力を身につけることができる。 ☐社会人・有権者として主体的に生きていくための判断基準を構築し、自分の意見を表明するための基礎的な知識や分析手法を習得することができる。 ☐選挙における投票や企業等における経済活動、裁判員としての裁判への参加など、今後国民として経験する重要な事柄・場面において、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識や能力を身につけることができる。 ☐時事問題に触れることで、現代社会の抱える諸問題についての知識・理解を深めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		民主政治の基本的原理、日本国憲法の基本原理や特性について理解し、適切に説明できる。		民主政治の基本的原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解している。		民主政治の基本的原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解できない。	
評価項目2		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解し、適切に説明できる。		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解している。		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解できない。	
評価項目3		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を身につけ、自分の意見を適切に表明することができる。		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できている。		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	☐前期は主に政治分野を、後期は主に経済分野を学習する。 ☐政治分野では、民主政治の基本原則、日本国憲法（国民主権、基本的人権、平和主義）、日本の政治機構（国会の仕組みと機能、内閣・行政の仕組みと機能、裁判所の仕組みと機能）について取り上げる。 ☐経済分野では、労働問題、社会保障、消費者保護、財政の役割、金融の役割、日本経済の歩みについて取り上げる。						
授業の進め方・方法	☐授業は指定の資料集を用いて、基本的に講義形式で行う。 ☐学生には積極的な発言や質問を期待する。 ☐ノートやレポートの作成を通じて、学習内容の定着を図るとともに、自分で学習のポイントをまとめる力や文章表現力を身につける。 ☐評価は試験と提出物（ノート、レポート）の合算により行う。						
注意点	☐中間試験、定期試験の前にノート提出の機会を設けるので、政治・経済用のノートを用意すること（必ずクラス・番号・氏名を記載。ルーズリーフ等の使用も可とするが、紛失等を防ぐため、必ずファイルに綴じて提出すること）。 ☐ノートや課題提出を怠らないようにすること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	政治と法の支配		ホッブズ・ロック・ルソーの社会契約説の内容や法の支配の意義を説明できる。		
		2週	日本国憲法の成立(1)		大日本帝国憲法の制定背景や基本的性格、日本国憲法との相違点を説明できる。		
		3週	日本国憲法の成立(2)		日本国憲法制定の背景や制定過程を説明できる。		
		4週	日本国憲法の基本的性格		国民主権と象徴天皇制の意義を説明できる。		
		5週	平和主義(1)		日本国憲法の平和主義の概要、憲法9条と自衛隊の解釈を説明できる。		
		6週	平和主義(2)		日本の防衛政策の基本、日米安全保障条約の意義や問題点を説明できる。		
		7週	平和主義(3)		冷戦後の国際社会の変化や自衛隊の国際貢献について説明できる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	基本的人権の保障(1)		日本国憲法の権利・義務、法の下での平等の意義を説明できる。		
		10週	基本的人権の保障(2)		自由権(精神の自由・身体的自由・経済的自由)の内容や代表的な判例を説明できる。		
		11週	基本的人権の保障(3)		社会権の内容や関連条文、代表的な判例を説明できる。		
		12週	国会の構成と権限(1)		国会の地位、国会の構成と運営について説明できる。		
		13週	国会の構成と権限(2)		衆議院の優越、国会の権限について説明できる。		
		14週	議院内閣制と行政(1)		内閣の成立と国会との関係について説明できる。		
		15週	前期定期試験				
		16週	議院内閣制と行政(2)		内閣の働き、内閣総理大臣の職務と権限について説明できる。		

後期	3rdQ	1週	司法と国民(1)	司法権の独立と裁判制度(裁判の種類、三審制、再審制度)を説明できる。
		2週	司法と国民(2)	違憲審査権、司法制度改革と裁判員制度の概要や意義を説明できる。
		3週	労使関係と労働問題(1)	労働基本権と労働三法の内容を説明できる。
		4週	労使関係と労働問題(2)	労働市場と労働問題、女性をとりまく労働環境の課題を説明できる。
		5週	社会保障と社会福祉(1)	日本の社会保障体系、社会保険の内容を説明できる。
		6週	社会保障と社会福祉(2)	公的扶助、社会福祉の内容と課題を説明できる。
		7週	消費者保護	悪質商法や多重債務など消費者を取り巻く問題や消費者保護行政について説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	財政の役割(1)	財政の 3 つの機能と財政政策の手法を説明できる。
		10週	財政の役割(2)	租税の種類と税制の課題、財政健全化を実現するためにはどうすればよいか説明できる。
		11週	金融の役割(1)	日本銀行の役割と金融政策の手法を説明できる。
		12週	金融の役割(2)	金融自由化、バブル崩壊と金融への影響を説明できる。
		13週	日本経済の歩み(1)	戦後復興期から現在に至るまでの日本経済の歩みを説明できる。
		14週	日本経済の歩み(2)	バブル崩壊以降の日本経済が抱える課題について説明できる。
		15週	後期定期試験	
		16週	学習のまとめ	試験返却およびこれまでの学習の総括を行い理解を深める。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	0	100
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号	2A026			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	佐藤 孝之						
到達目標							
☐ 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 ☐ 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 ☐ 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 ☐ 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
		ルールを理解し、説明できる.		ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない.		よくわからないし、ルールも理解できていない.	
		ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた.		友人のマネをしながら安全に効率よく動けた.		安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった.	
		実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた.		積極的に参加したいと思っていた.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
		コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った.		とりあえず、準備片付けは手伝った.		特に何もしなかった.	
		チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した.		とりあえず、自分の役割は果たした.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。						
授業の進め方・方法	実技授業中に各自が歩数計を取り付け歩数を測ります。この記録は授業ノートに記入します。また授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価して記入、授業後は授業感想を記入します。 学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。						
注意点	・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 ・ケガを未然に防ぐために、時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアス等の貴金属類はすべて外して参加すること。 ・サイズが合っている学校指定のジャージおよびシューズ（屋内外別、スパイク禁止）を着用の上、参加すること（ジーンズなどの普段着での受講は不可）。 ・髪が長い学生は髪を纏めた状態で参加すること。 ・それぞれの授業を進める上で配慮を必要とする学生(ケガ等)は申し出ること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意		授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。		
		2週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		3週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		4週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得		コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。		
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
		12週	水泳の基本的技術の習得		基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。		
		13週	水泳の基本的技術の習得		基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。		

後期		14週	着衣泳の基本的技術の習得	着衣泳を行い水難事故対応策や護身術を理解することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	前期の体育授業を振り返り、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		
	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		5週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		6週	野球の基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		7週	野球の基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		8週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	4thQ	9週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		10週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		11週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		12週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		13週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		14週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取り組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語A	
科目基礎情報							
科目番号	2A027			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『MY WAY : English Communication II 』三省堂 『フェイバリット英単語・熟語 コーパス4500』東京書籍						
担当教員	横山 孝一						
到達目標							
1. 教科書で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 教科書の英文を読み、内容が理解できる。 4. 教科書の英語を聞いて理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目 1	教科書で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が理解できない。		
評価項目 2	教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することができる。		教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。		
評価項目 3	教科書の英文を読み、内容がよく理解できる。		教科書の英文を読み、内容がある程度理解できる。		教科書の英文の内容が理解できない。		
評価項目 4	教科書の英語を聞いて内容をよく理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容をある程度理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	教科書の英文読解・練習問題・リスニング問題を通じて、総合的な英語力の基礎構築を目標とする。 具体的には、英検準2級～2級レベルの英語運用能力を目指す。						
授業の進め方・方法	冒頭で、人生の指針となる英語のことわざ名言を紹介する。教科書の英文読解を毎回3名の学生に発表してもらい、難しいところなどが全員で考える。レッスンごとに配布する語句プリントを全員に記入してもらい、それを使って音読の練習をする。新出単語はネイティブの音声でアクセントに注意しながら練習する。本文の読解を演習形式で進め、重要な文法事項等について解説を加える。 教科書の練習問題を全員で行ない、答え合わせをする。毎回、習った構文・表現・文法を用いるオリジナルの英訳問題を宿題とし、次回、ことわざのあとに確認して応用力を養う。 中間試験と定期試験の2週間前に復習小テストを実施し、学習事項の要点を確認する。						
注意点	外国語を身につけるには、まず授業の予習復習を習慣づける必要があります。具体的には、英語と日本語の違いがひと目でわかる「対訳ノート」を作ってください。そのためのノートを早めに用意しておくこと。辞書を活用することで英語力が飛躍的に向上するので、辞書を引いて例文を対訳ノートに書き加えていくこともお勧めします。音声は教科書のQRコードを使って聞くことができるので自宅で活用しましょう。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Section 1		英語の学習方法を知ることができる。 SV+ that が理解できる。		
		2週	Lesson 1 Section 2		SV+ if が理解できる。		
		3週	Lesson 1 Section 3 総復習		S ask O if が理解できる。 Lesson 1 で学習した語彙・文法が理解できる		
		4週	Lesson 2 Section 1		形式主語が理解できる。		
		5週	Lesson 2 Section 2		形式目的語が理解できる。		
		6週	復習小テスト Lesson 2 Section 3		自分の弱点が理解できる。 形式目的語の it が理解できる。		
		7週	答案返却と解説 Lesson 3 Section 1		前期中間試験範囲の要点が理解できる。 現在完了形が理解できる。		
		8週	前期中間試験		上記項目の理解度が確認できる。		
	2ndQ	9週	答案返却と解説 Lesson 3 Section 2		前期中間試験の間違ったところが理解できる。 過去完了形が理解できる。		
		10週	Lesson 3 Section 3 総復習		過去完了進行形が理解できる。		
		11週	Lesson 4 Section 1		S see O + 動詞の原形が理解できる。		
		12週	Lesson 4 Section 2		S see O + 過去分詞が理解できる。		
		13週	復習小テスト Lesson 4 Section 3		自分の弱点が理解できる。 S have O + 過去分詞が理解できる。		
		14週	答案返却と解説 Lesson 4 Section 4		前期定期試験範囲の要点が理解できる。 S help O + 動詞の原形が理解できる。		
		15週	前期定期試験		上記項目の理解度が確認できる。		
		16週	答案返却と解説 Lesson 5 Section 1		前期定期試験の間違ったところが理解できる。。 関係代名詞（主格）が理解できる。		
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Section 1		分詞構文 が理解できる。		
		2週	Lesson 7 Section 2		受け身の分詞構文が理解できる。		

		3週	Lesson 7 Section 3	完了形の分詞構文 が理解できる。
		4週	Lesson 7 Section 4 総復習	付帯状況の with が理解できる。 Lesson 7 で学習した語彙・文法が理解できる。
		5週	Lesson 8 Section 1	仮定法過去が理解できる。
		6週	復習小テスト Lesson 8 Section 2	自分の弱点が理解できる。 仮定法過去完了が理解できる。
		7週	答案返却と解説 Lesson 8 Section 3	後期中間試験範囲の要点が理解できる。 if を使わない仮定法が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目の理解度が確認できる。
	4thQ	9週	答案返却 Lesson 8 Section 4	後期中間試験の間違ったところが理解できる。 no matter + 疑問詞 が理解できる。
		10週	Lesson 9 Section 1	同格の that が理解できる。
		11週	Lesson 9 Section 2	強調構文が理解できる。
		12週	Lesson 9 Section 3	倒置が理解できる。
		13週	復習小テスト Lesson 9 Section 4	自分の弱点が理解できる。 省略が理解できる。
		14週	復習小テスト返却と解説 Lesson10 Topic 1	後期定期試験範囲の要点が理解できる。 議論の基礎が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目の理解度が確認できる。
		16週	答案返却と解説 Lesson10 Topic 2	後期定期試験の間違ったところが理解できる。 議論の表現が理解できる。
評価割合				
	中間・定期試験	小テスト等	合計	
総合評価割合	80	20	100	
前期	40	10	50	
後期	40	10	50	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語B	
科目基礎情報							
科目番号		2A028		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		2	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材		『be English Grammar 30』 いいずな書店					
担当教員		伊藤 文彦					
到達目標							
☐ 教科書の文法事項を用いた英文を読んで理解できる。 ☐ 教科書の文法事項を用いて基本的な英作文ができる。 ☐ 日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
教科書の文法事項を用いた英文を読んで理解できる		教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容がよく理解できる		教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容がある程度理解できる		教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容が理解できない	
教科書の文法事項を用いて基本的な英作文ができる		適切な英文・語彙を用いてよく作文ができる		適切な英文・語彙を用いてある程度作文ができる		適切な英文・語彙を用いて作文ができない	
日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できる		日常的な話題に関する英文を聴いて内容がよく理解できる		日常的な話題に関する英文を聴いて内容がある程度理解できる		日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		本授業では前年度に学習した英文法を定着させるとともに、高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を新たに習得することを目指している。 具体的には英検準二級レベルの英語運用能力の獲得を目指す。					
授業の進め方・方法		教科書の練習問題を用い、演習形式で授業を進める。 適宜小テストを行い、紀州事項の定着を図る。 ライティング、リスニング、スピーキング練習も適宜取り入れる予定である。					
注意点		予習を前提として授業を進める。 毎回の授業に辞書を持参すること。(スマートフォン不可)					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1		日英語の語順の違いが理解できる。		
		2週	Lesson 2		日英語の語順の違いが理解できる。 各品詞の役割が理解できる。		
		3週	Lesson 3, 4		文の種類が理解できる。		
		4週	Lesson 5, 6		時制の使い分けができる。		
		5週	Lesson 7, 8		完了形の使い方が理解できる。		
		6週	Lesson 9, 10		助動詞の使い方が理解できる。		
		7週	Lesson 11, 12		助動詞の使い方が理解できる。		
		8週	前期中間試験		上記項目について、理解度を確認する。		
	2ndQ	9週	試験返却		前期中間試験の解説		
		10週	Lesson 13		受動態の使い方が理解できる。		
		11週	Lesson 14, 15, 16		不定詞・動名詞の使い方が理解できる。		
		12週	Lesson 14, 15, 16		不定詞・動名詞の使い方が理解できる。		
		13週	Lesson 17, 18		不定詞を使った様々な表現が理解できる。		
		14週	Lesson 19, 20		分詞の使い方が理解できる。		
		15週	前期定期試験		上記項目について、理解度を確認する。		
		16週	試験返却		前期定期試験の解説		
後期	3rdQ	1週	Lesson 21, 22, 23		関係詞の使い方が理解できる。		
		2週	Lesson 21, 22, 23		関係詞の使い方が理解できる。		
		3週	Lesson 24, 25		比較級・最上級の使い方が理解できる。		
		4週	Lesson 24, 25		比較級・最上級の使い方が理解できる。		
		5週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		6週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		7週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		8週	後期中間試験		上記項目について、理解度を確認する。		
	4thQ	9週	試験返却		後期中間試験の解説		
		10週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		11週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		12週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		13週	Lesson 30		話法の使い方が理解できる。		

		14週	Lesson 30	話法の使い方が理解できる。			
		15週	後期定期試験	上記項目について、理解度を確認する。			
		16週	試験返却	後期定期試験の解説			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
mid	40	0	0	0	0	10	50
final	40	0	0	0	0	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学A I	
科目基礎情報							
科目番号	2A029			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	新微分積分I改訂版（大日本図書）新微分積分I問題集改訂版（大日本図書）						
担当教員	奈須田 祐大						
到達目標							
☐ 微分係数・導関数の定義や、導関数の性質が理解できる。 ☐ 合成関数の導関数, 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を求めることができる。 ☐ 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べることができる。 ☐ 関数のグラフの接線と法線を求められる。 ☐ 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度を求められる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		微分係数, 導関数の定義を十分理解できる。		微分係数, 導関数の定義が理解できる。		微分係数, 導関数の定義が理解できない。	
評価項目2		導関数と関数の増減の関係を十分理解できる。		導関数と関数の増減の関係を理解できる。		導関数と関数の増減の関係を理解できない。	
評価項目3		媒介変数表示された複雑な関数の導関数を求められる。		媒介変数表示された関数の導関数を求められる。		媒介変数表示された関数の導関数を求められない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		1. 関数の極限について学び、微分係数・導関数の定義や、導関数の性質、基本公式等を学習する。 2. 合成関数の導関数の求め方や諸公式の応用の習熟を図る。 3. 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を学習する。 4. 導関数と関数の増減との関係を学び、最大値・最小値を求める問題に応用する。 5. 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べ、グラフとの関係を学習する。 6. 関数のグラフの接線と法線、ロピタルの定理。 7. 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度。					
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	関数の極限と導関数 (1)		いろいろな関数の極限を求めることができる。		
		2週	関数の極限と導関数 (2)		微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。		
		3週	関数の極限と導関数 (3)		積・商の導関数の公式を使うことができる。		
		4週	関数の極限と導関数 (4)		三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。		
		5週	いろいろな関数の導関数 (1)		合成関数の導関数を求めることができる。		
		6週	いろいろな関数の導関数 (2)		対数微分法が理解できる。		
		7週	いろいろな関数の導関数 (3)		逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	関数の変動 (1)		基本的な関数の接線の方程式を求めることができ、微分係数と関数の増減の関係が理解できる。		
		10週	関数の変動 (2)		関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができ、関数の最大値・最小値を求めることができる。		
		11週	関数の変動 (3)		不定形の極限を求めることができる。		
		12週	いろいろな応用 (1)		2次以上の導関数を求めることができる。		
		13週	いろいろな応用 (2)		関数の凹凸, 変曲点を求めることができる。		
		14週	いろいろな応用 (3)		関数の媒介変数表示を理解し、その導関数を計算できる。		
		15週	いろいろな応用 (4)		平均値の定理が理解できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学AⅡ		
科目基礎情報								
科目番号	2A030			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教育			対象学年	2			
開設期	後期			週時間数	4			
教科書/教材	新微分積分I改訂版（大日本図書）新微分積分I問題集改訂版（大日本図書）							
担当教員	奈須田 祐大							
到達目標								
☐ 定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。 ☐ 基本的な計算方法を習得し、様々な応用ができる。 ☐ 置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。 ☐ 分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分ができる。 ☐ 積分を応用して長さ、面積、体積等を求めることができる。 ☐ 広義積分ができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	定積分を十分理解し、積分の計算ができる。		定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。		定積分を理解し、基本的な積分の計算ができない。			
評価項目2	置換積分法と部分積分法を用いて複雑な積分できる。		置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。		置換積分法と部分積分法を用いて積分できない。			
評価項目3	広義積分を十分理解し計算ができる。		広義積分ができる。		広義積分ができない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	1. 定積分の定義をし、微分の逆演算である不定積分との関係を学習する。また、基本的な関数の積分方法を学ぶ。 2. 積分の大切な計算方法である置換積分法と部分積分法について学ぶ。分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分法を学ぶ。 3. 長さ、面積、体積等を求める問題に応用する。 4. 媒介変数、曲座標によって表示された図形の問題、運動との関係、広義積分等のいろいろな応用を学習する。							
授業の進め方・方法								
注意点								
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	不定積分と定積分 (1)			不定積分の定義を理解している。		
		2週	不定積分と定積分 (2)			定積分の定義を理解している。		
		3週	不定積分と定積分 (3)			微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。		
		4週	積分の計算 (1)			置換積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		5週	積分の計算 (2)			部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		6週	積分の計算 (3)			置換積分法、部分積分法の応用ができる。		
		7週	積分の計算 (4)			分数関数、無理関数、三角関数の不定積分・定積分の計算ができる。		
	4thQ	8週	中間試験					
		9週	面積・曲線の長さ・体積 (1)			基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。		
		10週	面積・曲線の長さ・体積 (2)			いろいろな曲線の長さを求めることができる。		
		11週	面積・曲線の長さ・体積 (3)			立体の体積を求めることができる。		
		12週	いろいろな応用 (1)			媒介変数表示された図形の面積や長さを求められる。		
		13週	いろいろな応用 (2)			極座標を理解できる		
		14週	いろいろな応用 (3)			広義積分を理解できる		
		15週	いろいろな応用 (4)			変化率と積分の関係を理解できる。		
16週								
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	2A031			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	2	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	新線形代数改訂版（大日本図書） / 新線形代数問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	碓氷 久					
到達目標						
ベクトルや行列について学習し、次のことをできるようにする。 ☐ベクトルの定義を理解し基本的な計算（和、差、定数倍）ができ、大きさを求めることができる。 ☐ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 ☐ベクトルの内積を求めることができる。 ☐ベクトルの平行、垂直条件を利用することができる。 ☐空間内の直線の方程式、平面の方程式、球の方程式を求めることができる。 ☐行列の定義を理解して、和・差・積の計算ができる。 ☐逆行列の定義を理解し、逆行列を求めることができる。 ☐行列を利用して連立方程式を解くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求め、応用した問題を解ける。		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができない。	
評価項目2	空間内の直線・平面・球の方程式を求めて、応用した問題を解くことができる。		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる（必要に応じてベクトル方程式も扱う）。		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができない。	
評価項目3	行列の和・差・積、数との積の計算から応用した問題を解くことができる。		行列の和・差・積、数との積の計算ができる。		行列の和・差・積、数との積の計算ができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	前期は代数学・幾何学の基礎であるベクトルについて学ぶ。具体的には平面上のベクトル、その内積および図形への応用である。次に空間内のベクトルについて学習する。ここでは直線の方程式、平面の方程式、球の方程式などを学び、最後にベクトルの線形独立・線形従属の概念について学習する。後期は線形代数の基本である行列の性質について学習する。行列を定義して、和・差・積を導入し、いろいろな性質について学び、連立方程式と関連させて学習する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	平面のベクトル (1)	ベクトルの定義を理解できる。		
		2週	平面のベクトル (2)	平面ベクトルの基本的な計算ができる。		
		3週	平面のベクトル (3)	平面ベクトルの成分表示ができる。		
		4週	平面のベクトル (4)	平面ベクトルの内積を求めることができる。		
		5週	平面のベクトル (5)	ベクトルの平行条件を利用することができる。		
		6週	平面のベクトル (6)	ベクトルの垂直条件を利用することができる。		
		7週	平面のベクトル (7)	直線のベクトル方程式を理解できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	平面のベクトル (8)	平面のベクトルの線形独立性を理解できる。		
		10週	空間のベクトル (1)	空間内のベクトルの定義を理解できる。		
		11週	空間のベクトル (2)	空間ベクトルの基本的な計算ができる。		
		12週	空間のベクトル (3)	空間ベクトルの大きさが計算ができる。		
		13週	空間のベクトル (4)	ベクトルの内積を理解できる。		
		14週	空間のベクトル (5)	直線の方程式を求められる。		
		15週	空間のベクトル (6)	平面の方程式を求められる。		
		16週				
後期	3rdQ	1週	空間のベクトル (7)	球の方程式を求められる。		
		2週	空間のベクトル (8)	空間ベクトルの線形独立・線形従属について理解できる。		
		3週	行列 (1)	行列の定義を理解している。		
		4週	行列 (2)	行列の和・差・数との積の計算ができる。		
		5週	行列 (3)	行列の積の計算ができる。		
		6週	行列 (4)	行列の積の性質を理解できる。		
		7週	行列 (5)	零因子や単位行列を理解できる。		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	行列 (6)	転置行列を理解できる。		

		10週	行列 (7)	2次の正方行列の逆行列を求めることができる。
		11週	連立 1 次方程式 (1)	消去法を理解できる。
		12週	連立 1 次方程式 (2)	消去法から無限個の解を持つ連立方程式を解ける。
		13週	連立 1 次方程式 (3)	消去法で逆行列を求められる。
		14週	連立 1 次方程式 (4)	逆行列を使って連立一次方程式を解ける。
		15週	連立 1 次方程式 (5)	行列の階数を求められる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物理 I	
科目基礎情報							
科目番号		2A032		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		2	
開設期		前期		週時間数		4	
教科書/教材		教科書：総合物理1―力と運動・熱―, 総合物理2―波・電気と磁気・原子― (数研出版) 問題集：リードα物理基礎・物理 (数研出版), フォローアップドリル物理基礎 仕事とエネルギー・熱, 波・電気 (数研出版), フォローアップドリル物理 力と運動・熱と気体, 波, 電気と磁気 (数研出版) 図解：フォトサイエンス物理図録 (数研出版)					
担当教員		高橋 徹					
到達目標							
☐ 熱力学第一法則を様々な過程に適用することができる。 ☐ 正弦波の式について理解し, 図示することができる。 ☐ 波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。 ☐ 電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 応用問題を解くことができる。		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができる。		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができない。	
評価項目2		正弦波の式について十分に理解し, 図示することができる。		正弦波の式について理解し, 図示することができる。		正弦波の式について理解し, 図示することができない。	
評価項目3		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を十分に説明することができる。		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができない。	
評価項目4		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する応用問題を解くことができる。		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する基本問題を解くことができる。		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		高校物理教科書に則して, 熱力学, 波動, 静電場の電磁気学について講義する。					
授業の進め方・方法		座学, 演実実験など					
注意点		様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	熱と物質 (問題集単元11)		熱と熱量, 仕事について説明できる。 熱容量と比熱に関する計算ができる。 物質の三態について説明できる。 熱量の保存, 固体の膨張に関する計算ができる。		
		2週	気体のエネルギーと状態変化(1) (問題集単元12)		気体の法則について説明できる。 気体の状態方程式に関する計算ができる。		
		3週	気体のエネルギーと状態変化(2) (問題集単元13)		気体の分子運動について説明できる。		
		4週	気体のエネルギーと状態変化(3) (問題集単元13)		熱力学の第一法則について理解し, 気体の状態変化に関する計算と説明ができる。		
		5週	波(1) (問題集単元14, 15)		縦波と横波について説明できる。 波の伝わり方, 重ね合わせについて説明できる。		
		6週	波(2) (問題集単元14, 15)		波の反射について説明できる。		
		7週	波(3) (問題集単元16)		平面上の波の干渉と回折, 反射と屈折について説明できる。		
		8週	中間試験		第1週-第7週の講義内容に関する試験		
	2ndQ	9週	音(1) (問題集単元17)		音波の性質について説明できる。 共振と共鳴について説明できる。		
		10週	音(2) (問題集単元18)		ドップラー効果に関する計算と説明ができる。		
		11週	光(1) (問題集単元19)		光の性質と進み方について説明できる。 レンズ・鏡による像を作図し, 説明できる。		
		12週	光(2) (問題集単元20)		光の回折と干渉について説明できる。		
		13週	静電場(1) (問題集単元21)		電荷と電気力に関する計算と説明ができる。		
		14週	静電場(2) (問題集単元21)		電場・電位に関する計算と説明ができる。		
		15週	定期試験答案返却		答案返却・まとめ		
		16週					

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物理Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	2A033			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	2	
開設期	後期			週時間数	4	
教科書/教材	教科書：総合物理 2ー波・電気と磁気・原子ー (数研出版) 問題集：リードα物理基礎・物理 (数研出版), フォローアップドリル物理基礎 波・電気, フォローアップドリル物理 電気と磁気, 原子 (数研出版) 図解：フォトサイエンス物理図録 (数研出版)					
担当教員	高橋 徹					
到達目標						
☐ コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則などを用いて電気量・電流・発熱量などを求めることができる. ☐ 単純な形状の電流が作る磁場と磁場から電流が受ける力を求めることができる. ☐ 電磁誘導現象を理解し, 誘導起電力の計算や交流回路へ応用できる. ☐ 光や電子の二重性とは何かを説明でき, ボーアの原子模型を使って電子の状態の遷移に伴って放出・吸収される電磁波の波長を求めることができる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って複雑な電気回路に関する問題を解くことができる.		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができる.		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができない.	
評価項目2	電流によって作られる磁場の特徴を十分に理解した上で計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる.		電流によって作られる磁場が計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる.		電流によって作られる磁場の計算, および電流が磁場から受ける力を求めることができない.	
評価項目3	誘導起電力を求めることができ, 発電や複雑な交流回路への応用できる.		誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できる.		誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できない.	
評価項目4	光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について十分に説明できる.		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できる.		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できない.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	高校物理教科書に則して, 電磁気学と前期量子論について講義する.					
授業の進め方・方法	座学、演示実験など					
注意点	様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です. 復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい. また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう. このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします.					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	電気容量(1) (問題集単元22)		コンデンサーの性質について理解することができる.	
		2週	電気容量(2) 直流と電気抵抗 (問題集単元23)		コンデンサーの並列接続、直列接続について理解できる. オームの法則を用いて、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる.	
		3週	直流回路 半導体 (問題集単元24)		抵抗の直列接続、並列接続時の合成抵抗を求めることができる. キルヒホッフの法則を用いて、電気回路に関する問題を解くことができる. 半導体の性質を理解することができる.	
		4週	磁界 電流が磁界から受ける力(1) (問題集単元25)		磁界の性質を理解することが出来る. 電流の作る磁界について理解できる. 電流が磁界から受ける力の性質について理解できる.	
		5週	電流が磁界から受ける力(2) ローレンツ力(1) (問題集単元25)		電流が磁界から受ける力の性質について理解できる. 荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる.	
		6週	ローレンツ力(2) 電磁誘導(1) (問題集単元26)		荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる. ファラデーの電磁誘導の法則およびレンツの法則について説明できる.	
		7週	電磁誘導(2) 自己誘導と相互誘導 (問題集単元26)		誘導起電力を求めることができる. 自己誘導・相互誘導の特徴を理解することができる.	
		8週	中間試験		第1週-第7週までの内容	
	4thQ	9週	交流回路 電磁波 (問題集単元27)		交流電流・交流電圧の特徴を理解し、交流回路に関する問題を解くことができる. 電磁波の性質を理解することができる.	
		10週	電子の発見 (問題集単元28)		電子の性質を説明できる. 電子の比電荷の計算ができる.	

		11週	波動と粒子の二重性 (問題集単元28)	アインシュタインの光量子説および光電効果について説明できる。 X線の特徴を説明できる。 コンプトン効果の計算ができる。 粒子と波動の二重性について、電子の干渉実験などを通して理解することができる。
		12週	原子模型 原子核の構成 (問題集単元29)	ラザフォードの原子模型について説明できる。 ボーアの水素原子理論から、水素原子内の電子の軌道半径およびエネルギー準位について計算できる。
		13週	原子核の崩壊と放射能 (問題集単元29, 30)	原子核の構成について説明できる。 放射線および放射性物質の特徴を理解し、 α , β , γ 崩壊の違いの説明ができる。 半減期の計算ができる。
		14週	原子核の変換と核エネルギー (問題集単元29, 30)	質量とエネルギーの等価性の関係から、原子核の結合エネルギーを計算できる。 核反応における核エネルギーの大きさの計算をすることができる。 核分裂、核融合の違いについて理解できる。
		15週	定期試験答案返却	答案返却・まとめ
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	言語文化	
科目基礎情報							
科目番号		2A034		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		2	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材		精選 言語文化：三省堂 常用漢字フォルダ：浜島書店 新訂総合国語便覧：第一学習社					
担当教員		田貝 和子					
到達目標							
☐ 文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことが十分にできる。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことができる。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことができない。	
評価項目2		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得し、活用することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得できない。	
評価項目3		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを含めて作品の意義を考えることができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		中学校で既習の「古典」の学習成果、及び1年次に学習した現代語文法に基づき、基礎的な古典文法や古典常識から古典を読解・鑑賞して、古典作品の現代的意義について考察を深める。また、同じカテゴリーに属する作品を古典・現代文と比較しながら読解することで、日本語の変遷、思想や文化の流れを理解する。 韻文については、近代詩、短歌、俳句を扱い、創造性を培う。 漢文教材においては、訓読法の基礎学習から始発し、故事・漢詩をとりあげて読解・鑑賞し、中国の思想や文化が日本の文化に及ぼした影響について考える。					
授業の進め方・方法		講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。					
注意点		ノートを一冊用意してください。また、国語辞典、古語辞典も常に机上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の目標と概要を理解できる。		
		2週	古文入門		古文の言葉やきまりについて基本的な事項を学ぶことができる。		
		3週	絵仏師良秀(1)		「説話」に描かれた人物の言動や心情を読み取ることができる。		
		4週	絵仏師良秀(2)		「説話」に描かれた世界観や人間のありようを考えることができる。		
		5週	小説「羅生門」(1)		文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。		
		6週	小説「羅生門」(2)		作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解することができる。		
		7週	小説「羅生門」(3)		小説とその典拠になった説話を読み比べ、小説の読みを深める。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	漢文入門(1)		漢文の世界に分け入って、言語文化への関心をもつことができる。		
		10週	漢文入門(2)		訓読のきまりについて基本的な事項を学ぶことができる。		
		11週	故事成語(1)		本文を音読することができる。		
		12週	故事成語(2)		「故事成語」に表れた教訓や風刺などを読み取ることができる。		
		13週	詩(1)		「詩」について学び、近代詩の展開を把握することができる。		
		14週	詩(2)		「詩」に描かれた情景や、作者の心情を理解することができる。		
		15週	前期定期試験				
		16週	前期到達目標の確認		言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。		

後期	3rdQ	1週	土佐日記(1)	言語文化に特徴的な語句の量を増し、文化的背景について理解を深めることができる。
		2週	土佐日記(2)	「日記」「紀行」を読み、それぞれの場面に描かれた作者の心情を理解することができる。
		3週	土佐日記(3)	作品の中で和歌や俳句が果たす役割について考えることができる。
		4週	土佐日記(4)	「旅」という非日常的な空間が呼び起こす人生観について考えることができる。
		5週	短歌と俳句(1)	それぞれの短歌を音読し、その調べを味わうことができる。
		6週	短歌と俳句(2)	それぞれの作品に詠まれた情景や心情を理解することができる。
		7週	短歌と俳句(3)	それぞれの俳句について、季語とその季節を理解できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	漢詩(1)	「漢詩」に描かれた情景や心情を読み取ることができる。
		10週	漢詩(2)	「漢詩」の特徴や技法について理解することができる。
		11週	漢詩(3)	「漢詩」を理解し、日本の言語文化における意義について考えることができる。
		12週	小説「待ち伏せ」(1)	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。
		13週	小説「待ち伏せ」(2)	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。
		14週	小説「待ち伏せ」(3)	作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解することができる。
		15週	後期定期試験	
		16週	後期到達目標の確認	言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。

評価割合				
	試験・レポート	課題・ノート	小テスト	合計
総合評価割合	80	8	12	100
基礎的能力	80	8	12	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号		2A036		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		一般教育		対象学年	2		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		『最新図説 政経』：浜島書店					
担当教員		石関 正典					
到達目標							
□広い視野からの観察を通して、政治や経済の仕組みを理解し、現実に行っている様々な問題を多面的に考察する力を身につけることができる。 □社会人・有権者として主体的に生きていくための判断基準を構築し、自分の意見を表明するための基礎的な知識や分析手法を習得することができる。 □選挙における投票や企業等における経済活動、裁判員としての裁判への参加など、今後国民として経験する重要な事柄・場面において、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識や能力を身につけることができる。 □時事問題に触れることで、現代社会の抱える諸問題についての知識・理解を深めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		民主政治の基本原理、日本国憲法の基本原理や特性について理解し、適切に説明できる。		民主政治の基本原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解している。		民主政治の基本原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解できない。	
評価項目2		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解し、適切に説明できる。		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解している。		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解できない。	
評価項目3		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を身につけ、自分の意見を適切に表明することができる。		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できている。		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		□前期は主に政治分野を、後期は主に経済分野を学習する。 □政治分野では、民主政治の基本原則、日本国憲法（国民主権、基本的人権、平和主義）、日本の政治機構（国会の仕組みと機能、内閣・行政の仕組みと機能、裁判所の仕組みと機能）について取り上げる。 □経済分野では、労働問題、社会保障、消費者保護、財政の役割、金融の役割、日本経済の歩みについて取り上げる。					
授業の進め方・方法		□授業は指定の資料集を用いて、基本的に講義形式で行う。 □学生には積極的な発言や質問を期待する。 □ノートやレポートの作成を通じて、学習内容の定着を図るとともに、自分で学習のポイントをまとめる力や文章表現力を身につける。 □評価は試験と提出物（ノート、レポート）の合算により行う。					
注意点		□中間試験、定期試験の前にノート提出の機会を設けるので、政治・経済用のノートを用意すること（必ずクラス・番号・氏名を記載。ルーズリーフ等の使用も可とするが、紛失等を防ぐため、必ずファイルに綴じて提出すること）。 □ノートや課題提出を怠らないようにすること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	政治と法の支配		ホッブズ・ロック・ルソーの社会契約説の内容や法の支配の意義を説明できる。		
		2週	日本国憲法の成立(1)		大日本帝国憲法の制定背景や基本的性格、日本国憲法との相違点を説明できる。		
		3週	日本国憲法の成立(2)		日本国憲法制定の背景や制定過程を説明できる。		
		4週	日本国憲法の基本的性格		国民主権と象徴天皇制の意義を説明できる。		
		5週	平和主義(1)		日本国憲法の平和主義の概要、憲法9条と自衛隊の解釈を説明できる。		
		6週	平和主義(2)		日本の防衛政策の基本、日米安全保障条約の意義や問題点を説明できる。		
		7週	平和主義(3)		冷戦後の国際社会の変化や自衛隊の国際貢献について説明できる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	基本的人権の保障(1)		日本国憲法の権利・義務、法の下での平等の意義を説明できる。		
		10週	基本的人権の保障(2)		自由権(精神の自由・身体の自由・経済的自由)の内容や代表的な判例を説明できる。		
		11週	基本的人権の保障(3)		社会権の内容や関連条文、代表的な判例を説明できる。		
		12週	国会の構成と権限(1)		国会の地位、国会の構成と運営について説明できる。		
		13週	国会の構成と権限(2)		衆議院の優越、国会の権限について説明できる。		
		14週	議院内閣制と行政(1)		内閣の成立と国会との関係について説明できる。		
		15週	前期定期試験				
		16週	議院内閣制と行政(2)		内閣の働き、内閣総理大臣の職務と権限について説明できる。		

後期	3rdQ	1週	司法と国民(1)	司法権の独立と裁判制度(裁判の種類、三審制、再審制度)を説明できる。
		2週	司法と国民(2)	違憲審査権、司法制度改革と裁判員制度の概要や意義を説明できる。
		3週	労使関係と労働問題(1)	労働基本権と労働三法の内容を説明できる。
		4週	労使関係と労働問題(2)	労働市場と労働問題、女性をとりまく労働環境の課題を説明できる。
		5週	社会保障と社会福祉(1)	日本の社会保障体系、社会保険の内容を説明できる。
		6週	社会保障と社会福祉(2)	公的扶助、社会福祉の内容と課題を説明できる。
		7週	消費者保護	悪質商法や多重債務など消費者を取り巻く問題や消費者保護行政について説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	財政の役割(1)	財政の 3 つの機能と財政政策の手法を説明できる。
		10週	財政の役割(2)	租税の種類と税制の課題、財政健全化を実現するためにはどうすればよいか説明できる。
		11週	金融の役割(1)	日本銀行の役割と金融政策の手法を説明できる。
		12週	金融の役割(2)	金融自由化、バブル崩壊と金融への影響を説明できる。
		13週	日本経済の歩み(1)	戦後復興期から現在に至るまでの日本経済の歩みを説明できる。
		14週	日本経済の歩み(2)	バブル崩壊以降の日本経済が抱える課題について説明できる。
		15週	後期定期試験	
		16週	学習のまとめ	試験返却およびこれまでの学習の総括を行い理解を深める。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	0	100
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号	2A037			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	佐藤 孝之						
到達目標							
☐ 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 ☐ 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 ☐ 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 ☐ 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
		ルールを理解し、説明できる.		ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない.		よくわからないし、ルールも理解できていない.	
		ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた.		友人のマネをしながら安全に効率よく動けた.		安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった.	
		実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた.		積極的に参加したいと思っていた.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
		コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った.		とりあえず、準備片付けは手伝った.		特に何もしなかった.	
		チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した.		とりあえず、自分の役割は果たした.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。						
授業の進め方・方法	実技授業中に各自が歩数計を取り付け歩数を測ります。この記録は授業ノートに記入します。また授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価して記入、授業後は授業感想を記入します。学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。						
注意点	・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 ・ケガを未然に防ぐために、時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアス等の貴金属類はすべて外して参加すること。 ・サイズが合っている学校指定のジャージおよびシューズ（屋内外別、スパイク禁止）を着用の上、参加すること（ジーンパンなどの普段着での受講は不可）。 ・髪が長い学生は髪を纏めた状態で参加すること。 ・それぞれの授業を進める上で配慮を必要とする学生(ケガ等)は申し出ること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意		授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。		
		2週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		3週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		4週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得		コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。		
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
		12週	水泳の基本的技術の習得		基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。		
		13週	水泳の基本的技術の習得		基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。		

後期		14週	着衣泳の基本的技術の習得	着衣泳を行い水難事故対応策や護身術を理解することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	前期の体育授業を振り返り、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		
	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		5週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		6週	野球の基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		7週	野球の基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		8週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	4thQ	9週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		10週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		11週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		12週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		13週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		14週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取り組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語A	
科目基礎情報							
科目番号		2A038		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		2	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材		『MY WAY : English Communication II 』三省堂 『フェイバリット英単語・熟語 コーパス4500』東京書籍					
担当教員		横山 孝一					
到達目標							
1. 教科書で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 教科書の英文を読み、内容が理解できる。 4. 教科書の英語を聞いて理解することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1		教科書で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が理解できない。	
評価項目 2		教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することができる。		教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。	
評価項目 3		教科書の英文を読み、内容がよく理解できる。		教科書の英文を読み、内容がある程度理解できる。		教科書の英文の内容が理解できない。	
評価項目 4		教科書の英語を聞いて内容をよく理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容をある程度理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		教科書の英文読解・練習問題・リスニング問題を通じて、総合的な英語力の基礎構築を目標とする。 具体的には、英検準2級～2級レベルの英語運用能力を目指す。					
授業の進め方・方法		冒頭で、人生の指針となる英語のことわざ名言を紹介する。教科書の英文読解を毎回3名の学生に発表してもらい、難しいところなどが全員で考える。レッスンごとに配布する語句プリントを全員に記入してもらい、それを使って音読の練習をする。新出単語はネイティブの音声でアクセントに注意しながら練習する。本文の読解を演習形式で進め、重要な文法事項等について解説を加える。 教科書の練習問題を全員で行ない、答え合わせをする。毎回、習った構文・表現・文法を用いるオリジナルの英訳問題を宿題とし、次回、ことわざのあとに確認して応用力を養う。 中間試験と定期試験の2週間前に復習小テストを実施し、学習事項の要点を確認する。					
注意点		外国語を身につけるには、まず授業の予習復習を習慣づける必要があります。具体的には、英語と日本語の違いがひと目でわかる「対訳ノート」を作ってください。そのためのノートを早めに用意しておくこと。辞書を活用することで英語力が飛躍的に向上するので、辞書を引いて例文を対訳ノートに書き加えていくこともお勧めします。音声は教科書のQRコードを使って聞くことができるので自宅で活用しましょう。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Section 1		英語の学習方法を知ることができる。 SV+ that が理解できる。		
		2週	Lesson 1 Section 2		SV+ if が理解できる。		
		3週	Lesson 1 Section 3 総復習		S ask O if が理解できる。 Lesson 1 で学習した語彙・文法が理解できる		
		4週	Lesson 2 Section 1		形式主語が理解できる。		
		5週	Lesson 2 Section 2		形式目的語が理解できる。		
		6週	復習小テスト Lesson 2 Section 3		自分の弱点が理解できる。 形式目的語の it が理解できる。		
		7週	答案返却と解説 Lesson 3 Section 1		前期中間試験範囲の要点が理解できる。 現在完了形が理解できる。		
		8週	前期中間試験		上記項目の理解度が確認できる。		
	2ndQ	9週	答案返却と解説 Lesson 3 Section 2		前期中間試験の間違ったところが理解できる。 過去完了形が理解できる。		
		10週	Lesson 3 Section 3 総復習		過去完了進行形が理解できる。		
		11週	Lesson 4 Section 1		S see O + 動詞の原形が理解できる。		
		12週	Lesson 4 Section 2		S see O + 過去分詞が理解できる。		
		13週	復習小テスト Lesson 4 Section 3		自分の弱点が理解できる。 S have O + 過去分詞が理解できる。		
		14週	答案返却と解説 Lesson 4 Section 4		前期定期試験範囲の要点が理解できる。 S help O + 動詞の原形が理解できる。		
		15週	前期定期試験		上記項目の理解度が確認できる。		
		16週	答案返却と解説 Lesson 5 Section 1		前期定期試験の間違ったところが理解できる。。 関係代名詞（主格）が理解できる。		
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Section 1		分詞構文 が理解できる。		
		2週	Lesson 7 Section 2		受け身の分詞構文が理解できる。		

		3週	Lesson 7 Section 3	完了形の分詞構文 が理解できる。
		4週	Lesson 7 Section 4 総復習	付帯状況の with が理解できる。 Lesson 7 で学習した語彙・文法が理解できる。
		5週	Lesson 8 Section 1	仮定法過去が理解できる。
		6週	復習小テスト Lesson 8 Section 2	自分の弱点が理解できる。 仮定法過去完了が理解できる。
		7週	答案返却と解説 Lesson 8 Section 3	後期中間試験範囲の要点が理解できる。 if を使わない仮定法が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目の理解度が確認できる。
	4thQ	9週	答案返却 Lesson 8 Section 4	後期中間試験の間違ったところが理解できる。 no matter + 疑問詞 が理解できる。
		10週	Lesson 9 Section 1	同格の that が理解できる。
		11週	Lesson 9 Section 2	強調構文が理解できる。
		12週	Lesson 9 Section 3	倒置が理解できる。
		13週	復習小テスト Lesson 9 Section 4	自分の弱点が理解できる。 省略が理解できる。
		14週	復習小テスト返却と解説 Lesson10 Topic 1	後期定期試験範囲の要点が理解できる。 議論の基礎が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目の理解度が確認できる。
		16週	答案返却と解説 Lesson10 Topic 2	後期定期試験の間違ったところが理解できる。 議論の表現が理解できる。
評価割合				
	中間・定期試験	小テスト等	合計	
総合評価割合	80	20	100	
前期	40	10	50	
後期	40	10	50	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語B	
科目基礎情報							
科目番号	2A039			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『be English Grammar 30』 いいずな書店						
担当教員	伊藤 文彦						
到達目標							
☐ 教科書の文法事項を用いた英文を読んで理解できる。 ☐ 教科書の文法事項を用いて基本的な英作文ができる。 ☐ 日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
教科書の文法事項を用いた英文を読んで理解できる	教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容がよく理解できる		教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容がある程度理解できる		教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容が理解できない		
教科書の文法事項を用いて基本的な英作文ができる	適切な英文・語彙を用いてよく作文ができる		適切な英文・語彙を用いてある程度作文ができる		適切な英文・語彙を用いて作文ができない		
日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できる	日常的な話題に関する英文を聴いて内容がよく理解できる		日常的な話題に関する英文を聴いて内容がある程度理解できる		日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業では前年度に学習した英文法を定着させるとともに、高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を新たに習得することを目指している。 具体的には英検準二級レベルの英語運用能力の獲得を目指す。						
授業の進め方・方法	教科書の練習問題を用い、演習形式で授業を進める。 適宜小テストを行い、紀州事項の定着を図る。 ライティング、リスニング、スピーキング練習も適宜取り入れる予定である。						
注意点	予習を前提として授業を進める。 毎回の授業に辞書を持参すること。（スマートフォン不可）						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1		日英語の語順の違いが理解できる。		
		2週	Lesson 2		日英語の語順の違いが理解できる。 各品詞の役割が理解できる。		
		3週	Lesson 3, 4		文の種類が理解できる。		
		4週	Lesson 5, 6		時制の使い分けができる。		
		5週	Lesson 7, 8		完了形の使い方が理解できる。		
		6週	Lesson 9, 10		助動詞の使い方が理解できる。		
		7週	Lesson 11, 12		助動詞の使い方が理解できる。		
		8週	前期中間試験		上記項目について、理解度を確認する。		
	2ndQ	9週	試験返却		前期中間試験の解説		
		10週	Lesson 13		受動態の使い方が理解できる。		
		11週	Lesson 14, 15, 16		不定詞・動名詞の使い方が理解できる。		
		12週	Lesson 14, 15, 16		不定詞・動名詞の使い方が理解できる。		
		13週	Lesson 17, 18		不定詞を使った様々な表現が理解できる。		
		14週	Lesson 19, 20		分詞の使い方が理解できる。		
		15週	前期定期試験		上記項目について、理解度を確認する。		
		16週	試験返却		前期定期試験の解説		
後期	3rdQ	1週	Lesson 21, 22, 23		関係詞の使い方が理解できる。		
		2週	Lesson 21, 22, 23		関係詞の使い方が理解できる。		
		3週	Lesson 24, 25		比較級・最上級の使い方が理解できる。		
		4週	Lesson 24, 25		比較級・最上級の使い方が理解できる。		
		5週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		6週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		7週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		8週	後期中間試験		上記項目について、理解度を確認する。		
	4thQ	9週	試験返却		後期中間試験の解説		
		10週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		11週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		12週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		13週	Lesson 30		話法の使い方が理解できる。		

		14週	Lesson 30	話法の使い方が理解できる。			
		15週	後期定期試験	上記項目について、理解度を確認する。			
		16週	試験返却	後期定期試験の解説			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
mid	40	0	0	0	0	10	50
final	40	0	0	0	0	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学A I	
科目基礎情報							
科目番号	2A040			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	新微分積分I改訂版（大日本図書）新微分積分I問題集改訂版（大日本図書）						
担当教員	奈須田 祐大						
到達目標							
☐ 微分係数・導関数の定義や、導関数の性質が理解できる。 ☐ 合成関数の導関数、三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を求めることができる。 ☐ 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べることができる。 ☐ 関数のグラフの接線と法線を求められる。 ☐ 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度を求められる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		微分係数、導関数の定義を十分理解できる。		微分係数、導関数の定義が理解できる。		微分係数、導関数の定義が理解できない。	
評価項目2		導関数と関数の増減の関係を十分理解できる。		導関数と関数の増減の関係を理解できる。		導関数と関数の増減の関係を理解できない。	
評価項目3		媒介変数表示された複雑な関数の導関数を求められる。		媒介変数表示された関数の導関数を求められる。		媒介変数表示された関数の導関数を求められない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		1. 関数の極限について学び、微分係数・導関数の定義や、導関数の性質、基本公式等を学習する。 2. 合成関数の導関数の求め方や諸公式の応用の習熟を図る。 3. 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を学習する。 4. 導関数と関数の増減との関係を学び、最大値・最小値を求める問題に応用する。 5. 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べ、グラフとの関係を学習する。 6. 関数のグラフの接線と法線、ロピタルの定理。 7. 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度。					
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	関数の極限と導関数 (1)		いろいろな関数の極限を求めることができる。		
		2週	関数の極限と導関数 (2)		微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。		
		3週	関数の極限と導関数 (3)		積・商の導関数の公式を使うことができる。		
		4週	関数の極限と導関数 (4)		三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。		
		5週	いろいろな関数の導関数 (1)		合成関数の導関数を求めることができる。		
		6週	いろいろな関数の導関数 (2)		対数微分法が理解できる。		
		7週	いろいろな関数の導関数 (3)		逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	関数の変動 (1)		基本的な関数の接線の方程式を求めることができ、微分係数と関数の増減の関係が理解できる。		
		10週	関数の変動 (2)		関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができ、関数の最大値・最小値を求めることができる。		
		11週	関数の変動 (3)		不定形の極限を求めることができる。		
		12週	いろいろな応用 (1)		2次以上の導関数を求めることができる。		
		13週	いろいろな応用 (2)		関数の凹凸、変曲点を求めることができる。		
		14週	いろいろな応用 (3)		関数の媒介変数表示を理解し、その導関数を計算できる。		
		15週	いろいろな応用 (4)		平均値の定理が理解できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学AⅡ		
科目基礎情報								
科目番号	2A041			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教育			対象学年	2			
開設期	後期			週時間数	4			
教科書/教材	新微分積分I改訂版（大日本図書）新微分積分I問題集改訂版（大日本図書）							
担当教員	奈須田 祐大							
到達目標								
☐ 定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。 ☐ 基本的な計算方法を習得し、様々な応用ができる。 ☐ 置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。 ☐ 分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分ができる。 ☐ 積分を応用して長さ、面積、体積等を求めることができる。 ☐ 広義積分ができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	定積分を十分理解し、積分の計算ができる。		定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。		定積分を理解し、基本的な積分の計算ができない。			
評価項目2	置換積分法と部分積分法を用いて複雑な積分できる。		置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。		置換積分法と部分積分法を用いて積分できない。			
評価項目3	広義積分を十分理解し計算ができる。		広義積分ができる。		広義積分ができない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	1. 定積分の定義をし、微分の逆演算である不定積分との関係を学習する。また、基本的な関数の積分方法を学ぶ。 2. 積分の大切な計算方法である置換積分法と部分積分法について学ぶ。分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分法を学ぶ。 3. 長さ、面積、体積等を求める問題に応用する。 4. 媒介変数、曲座標によって表示された図形の問題、運動との関係、広義積分等のいろいろな応用を学習する。							
授業の進め方・方法								
注意点								
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	不定積分と定積分 (1)			不定積分の定義を理解している。		
		2週	不定積分と定積分 (2)			定積分の定義を理解している。		
		3週	不定積分と定積分 (3)			微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。		
		4週	積分の計算 (1)			置換積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		5週	積分の計算 (2)			部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		6週	積分の計算 (3)			置換積分法、部分積分法の応用ができる。		
		7週	積分の計算 (4)			分数関数、無理関数、三角関数の不定積分・定積分の計算ができる。		
	8週	中間試験						
	4thQ	9週	面積・曲線の長さ・体積 (1)			基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。		
		10週	面積・曲線の長さ・体積 (2)			いろいろな曲線の長さを求めることができる。		
		11週	面積・曲線の長さ・体積 (3)			立体の体積を求めることができる。		
		12週	いろいろな応用 (1)			媒介変数表示された図形の面積や長さを求められる。		
		13週	いろいろな応用 (2)			極座標を理解できる		
		14週	いろいろな応用 (3)			広義積分を理解できる		
		15週	いろいろな応用 (4)			変化率と積分の関係を理解できる。		
16週								
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	2A042		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	新線形代数改訂版（大日本図書） / 新線形代数問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	碓氷 久,神長 保仁					
到達目標						
ベクトルや行列について学習し、次のことをできるようにする。 ☐ベクトルの定義を理解し基本的な計算（和・差・定数倍）ができ、大きさを求めることができる。 ☐ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 ☐ベクトルの内積を求めることができる。 ☐ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。 ☐空間内の直線の方程式、平面の方程式、球の方程式を求めることができる。 ☐行列の定義を理解して、和・差・積の計算ができる。 ☐逆行列の定義を理解し、逆行列を求めることができる。 ☐行列を利用して連立方程式を解くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求め、応用した問題を解ける。		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができない。	
評価項目2	空間内の直線・平面・球の方程式を求めて、応用した問題を解くことができる。		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる（必要に応じてベクトル方程式も扱う）。		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができない。	
評価項目3	行列の和・差・積、数との積の計算から応用した問題を解くことができる。		行列の和・差・積、数との積の計算ができる。		行列の和・差・積、数との積の計算ができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	前期は代数学・幾何学の基礎であるベクトルについて学ぶ。具体的には平面上のベクトル、その内積および図形への応用である。次に空間内のベクトルについて学習する。ここでは直線の方程式、平面の方程式、球の方程式などを学び、最後にベクトルの線形独立・線形従属の概念について学習する。後期は線形代数の基本である行列の性質について学習する。行列を定義して、和・差・積を導入し、いろいろな性質について学び、連立方程式と関連させて学習する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	平面のベクトル (1)	ベクトルの定義を理解できる。		
		2週	平面のベクトル (2)	平面ベクトルの基本的な計算ができる。		
		3週	平面のベクトル (3)	平面ベクトルの成分表示ができる。		
		4週	平面のベクトル (4)	平面ベクトルの内積を求めることができる。		
		5週	平面のベクトル (5)	ベクトルの平行条件を利用することができる。		
		6週	平面のベクトル (6)	ベクトルの垂直条件を利用することができる。		
		7週	平面のベクトル (7)	直線のベクトル方程式を理解できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	平面のベクトル (8)	平面のベクトルの線形独立性を理解できる。		
		10週	空間のベクトル (1)	空間内のベクトルの定義を理解できる。		
		11週	空間のベクトル (2)	空間ベクトルの基本的な計算ができる。		
		12週	空間のベクトル (3)	空間ベクトルの大きさが計算ができる。		
		13週	空間のベクトル (4)	ベクトルの内積を理解できる。		
		14週	空間のベクトル (5)	直線の方程式を求められる。		
		15週	空間のベクトル (6)	平面の方程式を求められる。		
		16週				
後期	3rdQ	1週	空間のベクトル (7)	球の方程式を求められる。		
		2週	空間のベクトル (8)	空間ベクトルの線形独立・線形従属について理解できる。		
		3週	行列 (1)	行列の定義を理解している。		
		4週	行列 (2)	行列の和・差・数との積の計算ができる。		
		5週	行列 (3)	行列の積の計算ができる。		
		6週	行列 (4)	行列の積の性質を理解できる。		
		7週	行列 (5)	零因子や単位行列を理解できる。		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	行列 (6)	転置行列を理解できる。		

		10週	行列 (7)	2次の正方行列の逆行列を求めることができる。
		11週	連立 1 次方程式 (1)	消去法を理解できる。
		12週	連立 1 次方程式 (2)	消去法から無限個の解を持つ連立方程式を解ける。
		13週	連立 1 次方程式 (3)	消去法で逆行列を求められる。
		14週	連立 1 次方程式 (4)	逆行列を使って連立一次方程式を解ける。
		15週	連立 1 次方程式 (5)	行列の階数を求められる。
		16週		

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物理 I	
科目基礎情報							
科目番号	2A043			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	教科書：総合物理1―力と運動・熱―, 総合物理2―波・電気と磁気・原子― (数研出版) 問題集：リードα物理基礎・物理 (数研出版), フォローアップドリル物理基礎 仕事とエネルギー・熱, 波・電気 (数研出版), フォローアップドリル物理 力と運動・熱と気体, 波, 電気と磁気 (数研出版) 図解：フォトサイエンス物理図録 (数研出版)						
担当教員	品川 和男,高橋 徹						
到達目標							
☐ 熱力学第一法則を様々な過程に適用することができる。 ☐ 正弦波の式について理解し, 図示することができる。 ☐ 波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。 ☐ 電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 応用問題を解くことができる。			熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができる。		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができない。	
評価項目2	正弦波の式について十分に理解し, 図示することができる。			正弦波の式について理解し, 図示することができる。		正弦波の式について理解し, 図示することができない。	
評価項目3	波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を十分に説明することができる。			波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができない。	
評価項目4	電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する応用問題を解くことができる。			電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する基本問題を解くことができる。		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	高校物理教科書に則して, 熱力学, 波動, 静電場の電磁気学について講義する。						
授業の進め方・方法	座学, 演実実験など						
注意点	様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	熱と物質 (問題集単元11)		熱と熱量, 仕事について説明できる。 熱容量と比熱に関する計算ができる。 物質の三態について説明できる。 熱量の保存, 固体の膨張に関する計算ができる。		
		2週	気体のエネルギーと状態変化(1) (問題集単元12)		気体の法則について説明できる。 気体の状態方程式に関する計算ができる。		
		3週	気体のエネルギーと状態変化(2) (問題集単元13)		気体の分子運動について説明できる。		
		4週	気体のエネルギーと状態変化(3) (問題集単元13)		熱力学の第一法則について理解し, 気体の状態変化に関する計算と説明ができる。		
		5週	波(1) (問題集単元14, 15)		縦波と横波について説明できる。 波の伝わり方, 重ね合わせについて説明できる。		
		6週	波(2) (問題集単元14, 15)		波の反射について説明できる。		
		7週	波(3) (問題集単元16)		平面上の波の干渉と回折, 反射と屈折について説明できる。		
		8週	中間試験		第1週-第7週の講義内容に関する試験		
	2ndQ	9週	音(1) (問題集単元17)		音波の性質について説明できる。 共振と共鳴について説明できる。		
		10週	音(2) (問題集単元18)		ドップラー効果に関する計算と説明ができる。		
		11週	光(1) (問題集単元19)		光の性質と進み方について説明できる。 レンズ・鏡による像を作図し, 説明できる。		
		12週	光(2) (問題集単元20)		光の回折と干渉について説明できる。		
		13週	静電場(1) (問題集単元21)		電荷と電気力に関する計算と説明ができる。		
		14週	静電場(2) (問題集単元21)		電場・電位に関する計算と説明ができる。		
		15週	定期試験答案返却		答案返却・まとめ		
		16週					

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物理Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	2A044			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	2	
開設期	後期			週時間数	4	
教科書/教材	教科書：総合物理 2ー波・電気と磁気・原子ー (数研出版) 問題集：リードα物理基礎・物理 (数研出版), フォローアップドリル物理基礎 波・電気, フォローアップドリル物理 電気と磁気, 原子 (数研出版) 図解：フォトサイエンス物理図録 (数研出版)					
担当教員	品川 和男,高橋 徹					
到達目標						
☐ コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則などを用いて電気量・電流・発熱量などを求めることができる。 ☐ 単純な形状の電流が作る磁場と磁場から電流が受ける力を求めることができる。 ☐ 電磁誘導現象を理解し, 誘導起電力の計算や交流回路へ応用できる。 ☐ 光や電子の二重性とは何かを説明でき, ボーアの原子模型を使って電子の状態の遷移に伴って放出・吸収される電磁波の波長を求めることができる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って複雑な電気回路に関する問題を解くことができる。		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができる。		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができない。	
評価項目2	電流によって作られる磁場の特徴を十分に理解した上で計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる。		電流によって作られる磁場が計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる。		電流によって作られる磁場の計算, および電流が磁場から受ける力を求めることができない。	
評価項目3	誘導起電力を求めることができ, 発電や複雑な交流回路への応用できる。		誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できる。		誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できない。	
評価項目4	光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について十分に説明できる。		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できる。		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	高校物理教科書に則して, 電磁気学と前期量子論について講義する。					
授業の進め方・方法	座学、演示実験など					
注意点	様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	電気容量(1) (問題集単元22)		コンデンサーの性質について理解することができる。	
		2週	電気容量(2) 直流と電気抵抗 (問題集単元23)		コンデンサーの並列接続、直列接続について理解できる。 オームの法則を用いて、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。	
		3週	直流回路 半導体 (問題集単元24)		抵抗の直列接続、並列接続時の合成抵抗を求めることができる。 キルヒホッフの法則を用いて、電気回路に関する問題を解くことができる。 半導体の性質を理解することができる。	
		4週	磁界 電流が磁界から受ける力(1) (問題集単元25)		磁界の性質を理解することが出来る。 電流の作る磁界について理解できる。 電流が磁界から受ける力の性質について理解できる。	
		5週	電流が磁界から受ける力(2) ローレンツ力(1) (問題集単元25)		電流が磁界から受ける力の性質について理解できる。 荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる。	
		6週	ローレンツ力(2) 電磁誘導(1) (問題集単元26)		荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる。 ファラデーの電磁誘導の法則およびレンツの法則について説明できる。	
		7週	電磁誘導(2) 自己誘導と相互誘導 (問題集単元26)		誘導起電力を求めることができる。 自己誘導・相互誘導の特徴を理解することができる。	
		8週	中間試験		第1週-第7週までの内容	
	4thQ	9週	交流回路 電磁波 (問題集単元27)		交流電流・交流電圧の特徴を理解し、交流回路に関する問題を解くことができる。 電磁波の性質を理解することができる。	
		10週	電子の発見 (問題集単元28)		電子の性質を説明できる。 電子の比電荷の計算ができる。	

		11週	波動と粒子の二重性 (問題集単元28)	アインシュタインの光量子説および光電効果について説明できる。 X線の特徴を説明できる。 コンプトン効果の計算ができる。 粒子と波動の二重性について、電子の干渉実験などを通して理解することができる。
		12週	原子模型 原子核の構成 (問題集単元29)	ラザフォードの原子模型について説明できる。 ボーアの水素原子理論から、水素原子内の電子の軌道半径およびエネルギー準位について計算できる。
		13週	原子核の崩壊と放射能 (問題集単元29, 30)	原子核の構成について説明できる。 放射線および放射性物質の特徴を理解し、 α , β , γ 崩壊の違いの説明ができる。 半減期の計算ができる。
		14週	原子核の変換と核エネルギー (問題集単元29, 30)	質量とエネルギーの等価性の関係から、原子核の結合エネルギーを計算できる。 核反応における核エネルギーの大きさの計算をすることができる。 核分裂、核融合の違いについて理解できる。
		15週	定期試験答案返却	答案返却・まとめ
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	言語文化	
科目基礎情報							
科目番号	2A045			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	精選 言語文化：三省堂 常用漢字フォルダ：浜島書店 新訂総合国語便覧：第一学習社						
担当教員	田貝 和子						
到達目標							
☐ 文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。 ☐ 常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。 ☐ 類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 ☐ 社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことが十分にできる。			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことができる。		文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べる ことができない。	
評価項目2	古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得し、活用することができる。			古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得することができる。		古典の読解・鑑賞に必要な基礎的知識を習得できない。	
評価項目3	教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを含めて作品の意義を考えることができる。			教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができる。		教材としてとりあげた作品について、文学史における位置づけを理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	中学校で既習の「古典」の学習成果、及び1年次に学習した現代語文法に基づき、基礎的な古典文法や古典常識から古典を読解・鑑賞して、古典作品の現代的意義について考察を深める。また、同じカテゴリーに属する作品を古典・現代文と比較しながら読解することで、日本語の変遷、思想や文化の流れを理解する。 韻文については、近代詩、短歌、俳句を扱い、創造性を培う。 漢文教材においては、訓読法の基礎学習から始発し、故事・漢詩をとりあげて読解・鑑賞し、中国の思想や文化が日本の文化に及ぼした影響について考える。						
授業の進め方・方法	講義講読と演習とを融合した形式で授業を展開する。						
注意点	ノートを一冊用意してください。また、国語辞典、古語辞典も常に机の上に置き、辞書を引く習慣をつけてください。なお、提出物、授業態度に関してもしっかりチェックします。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の目標と概要を理解できる。		
		2週	古文入門		古文の言葉やきまりについて基本的な事項を学ぶことができる。		
		3週	絵仏師良秀(1)		「説話」に描かれた人物の言動や心情を読み取ることができる。		
		4週	絵仏師良秀(2)		「説話」に描かれた世界観や人間のありようを考えることができる。		
		5週	小説「羅生門」(1)		文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。		
		6週	小説「羅生門」(2)		作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解することができる。		
		7週	小説「羅生門」(3)		小説とその典拠になった説話を読み比べ、小説の読みを深める。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	漢文入門(1)		漢文の世界に分け入って、言語文化への関心をもつことができる。		
		10週	漢文入門(2)		訓読のきまりについて基本的な事項を学ぶことができる。		
		11週	故事成語(1)		本文を音読することができる。		
		12週	故事成語(2)		「故事成語」に表れた教訓や風刺などを読み取ることができる。		
		13週	詩(1)		「詩」について学び、近代詩の展開を把握することができる。		
		14週	詩(2)		「詩」に描かれた情景や、作者の心情を理解することができる。		
		15週	前期定期試験				
		16週	前期到達目標の確認		言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。		

後期	3rdQ	1週	土佐日記(1)	言語文化に特徴的な語句の量を増し、文化的背景について理解を深めることができる。
		2週	土佐日記(2)	「日記」「紀行」を読み、それぞれの場面に描かれた作者の心情を理解することができる。
		3週	土佐日記(3)	作品の中で和歌や俳句が果たす役割について考えることができる。
		4週	土佐日記(4)	「旅」という非日常的な空間が呼び起こす人生観について考えることができる。
		5週	短歌と俳句(1)	それぞれの短歌を音読し、その調べを味わうことができる。
		6週	短歌と俳句(2)	それぞれの作品に詠まれた情景や心情を理解することができる。
		7週	短歌と俳句(3)	それぞれの俳句について、季語とその季節を理解できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	漢詩(1)	「漢詩」に描かれた情景や心情を読み取ることができる。
		10週	漢詩(2)	「漢詩」の特徴や技法について理解することができる。
		11週	漢詩(3)	「漢詩」を理解し、日本の言語文化における意義について考えることができる。
		12週	小説「待ち伏せ」(1)	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。
		13週	小説「待ち伏せ」(2)	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。
		14週	小説「待ち伏せ」(3)	作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解することができる。
		15週	後期定期試験	
		16週	後期到達目標の確認	言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えることができる。
評価割合				
	試験・レポート	課題・ノート	小テスト	合計
総合評価割合	80	8	12	100
基礎的能力	80	8	12	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号		2A047		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		一般教育		対象学年	2		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		『最新図説 政経』：浜島書店					
担当教員		石関 正典					
到達目標							
☐ 広い視野からの観察を通して、政治や経済の仕組みを理解し、現実に行っている様々な問題を多面的に考察する力を身につけることができる。 ☐ 社会人・有権者として主体的に生きていくための判断基準を構築し、自分の意見を表明するための基礎的な知識や分析手法を習得することができる。 ☐ 選挙における投票や企業等における経済活動、裁判員としての裁判への参加など、今後国民として経験する重要な事柄・場面において、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識や能力を身につけることができる。 ☐ 時事問題に触れることで、現代社会の抱える諸問題についての知識・理解を深めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		民主政治の基本原理、日本国憲法の基本原理や特性について理解し、適切に説明できる。		民主政治の基本原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解している。		民主政治の基本原理、日本国憲法の基本原理や特性を理解できない。	
評価項目2		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解し、適切に説明できる。		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解している。		市場経済の仕組み、金融・財政のはたらき、経済活動に対する政府の役割を理解できない。	
評価項目3		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を身につけ、自分の意見を適切に表明することができる。		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できている。		政治的・経済的課題に対し、自ら考え、判断し、行動するために必要な知識を獲得できていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		☐ 前期は主に政治分野を、後期は主に経済分野を学習する。 ☐ 政治分野では、民主政治の基本原則、日本国憲法（国民主権、基本的人権、平和主義）、日本の政治機構（国会の仕組みと機能、内閣・行政の仕組みと機能、裁判所の仕組みと機能）について取り上げる。 ☐ 経済分野では、労働問題、社会保障、消費者保護、財政の役割、金融の役割、日本経済の歩みについて取り上げる。					
授業の進め方・方法		☐ 授業は指定の資料集を用いて、基本的に講義形式で行う。 ☐ 学生には積極的な発言や質問を期待する。 ☐ ノートやレポートの作成を通じて、学習内容の定着を図るとともに、自分で学習のポイントをまとめる力や文章表現力を身につける。 ☐ 評価は試験と提出物（ノート、レポート）の合算により行う。					
注意点		☐ 中間試験、定期試験の前にノート提出の機会を設けるので、政治・経済用のノートを用意すること（必ずクラス・番号・氏名を記載。ルーズリーフ等の使用も可とするが、紛失等を防ぐため、必ずファイルに綴じて提出すること）。 ☐ ノートや課題提出を怠らないようにすること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	政治と法の支配		ホッブズ・ロック・ルソーの社会契約説の内容や法の支配の意義を説明できる。		
		2週	日本国憲法の成立(1)		大日本帝国憲法の制定背景や基本的性格、日本国憲法との相違点を説明できる。		
		3週	日本国憲法の成立(2)		日本国憲法制定の背景や制定過程を説明できる。		
		4週	日本国憲法の基本的性格		国民主権と象徴天皇制の意義を説明できる。		
		5週	平和主義(1)		日本国憲法の平和主義の概要、憲法 9 条と自衛隊の解釈を説明できる。		
		6週	平和主義(2)		日本の防衛政策の基本、日米安全保障条約の意義や問題点を説明できる。		
		7週	平和主義(3)		冷戦後の国際社会の変化や自衛隊の国際貢献について説明できる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	基本的人権の保障(1)		日本国憲法の権利・義務、法の下での平等の意義を説明できる。		
		10週	基本的人権の保障(2)		自由権(精神の自由・身体の自由・経済的自由)の内容や代表的な判例を説明できる。		
		11週	基本的人権の保障(3)		社会権の内容や関連条文、代表的な判例を説明できる。		
		12週	国会の構成と権限(1)		国会の地位、国会の構成と運営について説明できる。		
		13週	国会の構成と権限(2)		衆議院の優越、国会の権限について説明できる。		
		14週	議院内閣制と行政(1)		内閣の成立と国会との関係について説明できる。		
		15週	前期定期試験				
		16週	議院内閣制と行政(2)		内閣の働き、内閣総理大臣の職務と権限について説明できる。		

後期	3rdQ	1週	司法と国民(1)	司法権の独立と裁判制度(裁判の種類、三審制、再審制度)を説明できる。
		2週	司法と国民(2)	違憲審査権、司法制度改革と裁判員制度の概要や意義を説明できる。
		3週	労使関係と労働問題(1)	労働基本権と労働三法の内容を説明できる。
		4週	労使関係と労働問題(2)	労働市場と労働問題、女性をとりまく労働環境の課題を説明できる。
		5週	社会保障と社会福祉(1)	日本の社会保障体系、社会保険の内容を説明できる。
		6週	社会保障と社会福祉(2)	公的扶助、社会福祉の内容と課題を説明できる。
		7週	消費者保護	悪質商法や多重債務など消費者を取り巻く問題や消費者保護行政について説明できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	財政の役割(1)	財政の 3 つの機能と財政政策の手法を説明できる。
		10週	財政の役割(2)	租税の種類と税制の課題、財政健全化を実現するためにはどうすればよいか説明できる。
		11週	金融の役割(1)	日本銀行の役割と金融政策の手法を説明できる。
		12週	金融の役割(2)	金融自由化、バブル崩壊と金融への影響を説明できる。
		13週	日本経済の歩み(1)	戦後復興期から現在に至るまでの日本経済の歩みを説明できる。
		14週	日本経済の歩み(2)	バブル崩壊以降の日本経済が抱える課題について説明できる。
		15週	後期定期試験	
		16週	学習のまとめ	試験返却およびこれまでの学習の総括を行い理解を深める。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	0	100
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号	2A048			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	佐藤 孝之						
到達目標							
☐ 健康・安全や運動についての理解を深め、計画的に運動する習慣を育てることができる。 ☐ 健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てることができる。 ☐ 各種スポーツの実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すことができる。 ☐ 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を身につけることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
		ルールを理解し、説明できる.		ルールを理解し、ゲームに参加できるが説明できるわけではない.		よくわからないし、ルールも理解できていない.	
		ゲーム中の位置取りや用具の出し入れの際には、常に安全に効率よく動けた.		友人のマネをしながら安全に効率よく動けた.		安全や効率の良さなどはとくに考えていなかった.	
		実技に対する興味が強く、積極的に動くことを心がけた.		積極的に参加したいと思っていた.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
		コートづくりや準備片付けなどを自ら積極的に行った.		とりあえず、準備片付けは手伝った.		特に何もしなかった.	
		チームメンバーに声をかけ、リーダーシップを発揮した.		とりあえず、自分の役割は果たした.		実技は苦手なので積極的になれなかった.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	一般的なスポーツ種目を実践し、基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解する。心身ともに発達が著しい青年期に、生涯を通して健康で明るく生活するための基礎を作る。						
授業の進め方・方法	実技授業中に各自が歩数計を取り付け歩数を測ります。この記録は授業ノートに記入します。また授業前には体調、朝食、睡眠を自己評価して記入、授業後は授業感想を記入します。学習の進捗状況および天候により、授業の順序や内容が変更されることがあります。						
注意点	・栄養（食事）、休養（睡眠）、運動をバランスよく取り、規則正しい生活習慣を心がけること。 ・クラス内でのコミュニケーションを高めておくこと。 ・ケガを未然に防ぐために、時計、指輪、ブレスレット、ネックレス、ピアス等の貴金属類はすべて外して参加すること。 ・サイズが合っている学校指定のジャージおよびシューズ（屋内外別、スパイク禁止）を着用の上、参加すること（ジーンパンなどの普段着での受講は不可）。 ・髪が長い学生は髪を纏めた状態で参加すること。 ・それぞれの授業を進める上で配慮を必要とする学生(ケガ等)は申し出ること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	今年一年間の授業内容の説明および、諸注意		授業ノートの書き方および授業における注意点を理解し、次講義に向けて規則正しい生活習慣を理解することができる。		
		2週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		3週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		4週	運動能力テストの実施		運動能力テストに取り組み、自己体力を把握することができる。		
		5週	ソフトボールにおける基本的技術の習得		コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。		
		6週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		7週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		8週	ソフトボールにおける基本的技術の習得とゲーム		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
	2ndQ	9週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。		
		10週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。		
		11週	球技大会に向け、出場する種目に分かれ練習および試合をおこなう		基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。		
		12週	水泳の基本的技術の習得		基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。		
		13週	水泳の基本的技術の習得		基本的な泳法や水中スポーツについて学び、その技能を高めることができる。		

後期		14週	着衣泳の基本的技術の習得	着衣泳を行い水難事故対応策や護身術を理解することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	前期の体育授業を振り返り、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		
	3rdQ	1週	バレーボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		2週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		3週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		4週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		5週	バレーボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		6週	野球の基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		7週	野球の基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		8週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
	4thQ	9週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		10週	野球の基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		11週	ドッジボールの基本的技術の習得	コートづくりや準備片付けなどを理解し、基本的技術の習得ができる。
		12週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	ゲーム中の位置取りや用具の使い方を考え、常に安全に効率よくゲームを実施することができる。
		13週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、積極的に参加することができる。
		14週	ドッジボールの基本的技術の習得とゲーム	基本的技術の習得とゲームを通してルールを理解し、リーダーシップを発揮することができる。
		15週	体育授業を通して得られた各自の体力向上を考える	授業ノートの内容と各自の主観的な運動への取り組み状況を理解し、各自の体力向上が得られた観点を理解することができる。
		16週		

評価割合

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	授業態度	技能・表現	その他	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	0	100
基礎的能力	10	10	10	10	10	0	50
専門的能力	10	10	10	10	10	0	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語A	
科目基礎情報							
科目番号	2A049			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『MY WAY : English Communication II 』三省堂 『フェイバリット英単語・熟語 コーパス4500』東京書籍						
担当教員	横山 孝一						
到達目標							
1. 教科書で学習する語彙・表現を理解し運用することができる。 2. 教科書で学習する文法の知識を運用できる。 3. 教科書の英文を読み、内容が理解できる。 4. 教科書の英語を聞いて理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	教科書で学習した語彙・表現が8割以上理解できる。			教科書で学習した語彙・表現が6割程度理解できる。		教科書で学習した語彙・表現が理解できない。	
評価項目 2	教科書で学習した文法を理解し、適切に運用することができる。			教科書で学習した文法をある程度理解している。		教科書で学習した文法を理解できない。	
評価項目 3	教科書の英文を読み、内容がよく理解できる。			教科書の英文を読み、内容がある程度理解できる。		教科書の英文の内容が理解できない。	
評価項目 4	教科書の英語を聞いて内容をよく理解することができる。			教科書の英語を聞いて内容をある程度理解することができる。		教科書の英語を聞いて内容を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	教科書の英文読解・練習問題・リスニング問題を通じて、総合的な英語力の基礎構築を目標とする。 具体的には、英検準2級～2級レベルの英語運用能力を目指す。						
授業の進め方・方法	冒頭で、人生の指針となる英語のことわざ名言を紹介する。教科書の英文読解を毎回3名の学生に発表してもらい、難しいところなどが全員で考える。レッスンごとに配布する語句プリントを全員に記入してもらい、それを使って音読の練習をする。新出単語はネイティブの音声でアクセントに注意しながら練習する。本文の読解を演習形式で進め、重要な文法事項等について解説を加える。 教科書の練習問題を全員で行ない、答え合わせをする。毎回、習った構文・表現・文法を用いるオリジナルの英訳問題を宿題とし、次回、ことわざのあとに確認して応用力を養う。 中間試験と定期試験の2週間前に復習小テストを実施し、学習事項の要点を確認する。						
注意点	外国語を身につけるには、まず授業の予習復習を習慣づける必要があります。具体的には、英語と日本語の違いがひと目でわかる「対訳ノート」を作ってください。そのためのノートを早めに用意しておくこと。辞書を活用することで英語力が飛躍的に向上するので、辞書を引いて例文を対訳ノートに書き加えていくこともお勧めします。音声は教科書のQRコードを使って聞くことができるので自宅で活用しましょう。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1 Section 1		英語の学習方法を知ることができる。 SV+ that が理解できる。		
		2週	Lesson 1 Section 2		SV+ if が理解できる。		
		3週	Lesson 1 Section 3 総復習		S ask O if が理解できる。 Lesson 1 で学習した語彙・文法が理解できる		
		4週	Lesson 2 Section 1		形式主語が理解できる。		
		5週	Lesson 2 Section 2		形式目的語が理解できる。		
		6週	復習小テスト Lesson 2 Section 3		自分の弱点が理解できる。 形式目的語の it が理解できる。		
		7週	答案返却と解説 Lesson 3 Section 1		前期中間試験範囲の要点が理解できる。 現在完了形が理解できる。		
		8週	前期中間試験		上記項目の理解度が確認できる。		
	2ndQ	9週	答案返却と解説 Lesson 3 Section 2		前期中間試験の間違ったところが理解できる。 過去完了形が理解できる。		
		10週	Lesson 3 Section 3 総復習		過去完了進行形が理解できる。		
		11週	Lesson 4 Section 1		S see O + 動詞の原形が理解できる。		
		12週	Lesson 4 Section 2		S see O + 過去分詞が理解できる。		
		13週	復習小テスト Lesson 4 Section 3		自分の弱点が理解できる。 S have O + 過去分詞が理解できる。		
		14週	答案返却と解説 Lesson 4 Section 4		前期定期試験範囲の要点が理解できる。 S help O + 動詞の原形が理解できる。		
		15週	前期定期試験		上記項目の理解度が確認できる。		
		16週	答案返却と解説 Lesson 5 Section 1		前期定期試験の間違ったところが理解できる。。 関係代名詞（主格）が理解できる。		
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Section 1		分詞構文 が理解できる。		
		2週	Lesson 7 Section 2		受け身の分詞構文が理解できる。		

		3週	Lesson 7 Section 3	完了形の分詞構文 が理解できる。
		4週	Lesson 7 Section 4 総復習	付帯状況の with が理解できる。 Lesson 7 で学習した語彙・文法が理解できる。
		5週	Lesson 8 Section 1	仮定法過去が理解できる。
		6週	復習小テスト Lesson 8 Section 2	自分の弱点が理解できる。 仮定法過去完了が理解できる。
		7週	答案返却と解説 Lesson 8 Section 3	後期中間試験範囲の要点が理解できる。 if を使わない仮定法が理解できる。
		8週	後期中間試験	上記項目の理解度が確認できる。
	4thQ	9週	答案返却 Lesson 8 Section 4	後期中間試験の間違ったところが理解できる。 no matter + 疑問詞 が理解できる。
		10週	Lesson 9 Section 1	同格の that が理解できる。
		11週	Lesson 9 Section 2	強調構文が理解できる。
		12週	Lesson 9 Section 3	倒置が理解できる。
		13週	復習小テスト Lesson 9 Section 4	自分の弱点が理解できる。 省略が理解できる。
		14週	復習小テスト返却と解説 Lesson10 Topic 1	後期定期試験範囲の要点が理解できる。 議論の基礎が理解できる。
		15週	後期定期試験	上記項目の理解度が確認できる。
		16週	答案返却と解説 Lesson10 Topic 2	後期定期試験の間違ったところが理解できる。 議論の表現が理解できる。
評価割合				
	中間・定期試験	小テスト等	合計	
総合評価割合	80	20	100	
前期	40	10	50	
後期	40	10	50	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	英語B	
科目基礎情報							
科目番号	2A050			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	『be English Grammar 30』 いいずな書店						
担当教員	伊藤 文彦						
到達目標							
☐ 教科書の文法事項を用いた英文を読んで理解できる。 ☐ 教科書の文法事項を用いて基本的な英作文ができる。 ☐ 日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
教科書の文法事項を用いた英文を読んで理解できる	教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容がよく理解できる			教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容がある程度理解できる		教科書の文法事項を用いた英文を読んで内容が理解できない	
教科書の文法事項を用いて基本的な英作文ができる	適切な英文・語彙を用いてよく作文ができる			適切な英文・語彙を用いてある程度作文ができる		適切な英文・語彙を用いて作文ができない	
日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できる	日常的な話題に関する英文を聴いて内容がよく理解できる			日常的な話題に関する英文を聴いて内容がある程度理解できる		日常的な話題に関する英文を聴いて内容が理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業では前年度に学習した英文法を定着させるとともに、高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を新たに習得することを目標としている。 具体的には英検準二級レベルの英語運用能力の獲得を目指す。						
授業の進め方・方法	教科書の練習問題を用い、演習形式で授業を進める。 適宜小テストを行い、紀州事項の定着を図る。 ライティング、リスニング、スピーキング練習も適宜取り入れる予定である。						
注意点	予習を前提として授業を進める。 毎回の授業に辞書を持参すること。(スマートフォン不可)						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1		日英語の語順の違いが理解できる。		
		2週	Lesson 2		日英語の語順の違いが理解できる。 各品詞の役割が理解できる。		
		3週	Lesson 3, 4		文の種類が理解できる。		
		4週	Lesson 5, 6		時制の使い分けができる。		
		5週	Lesson 7, 8		完了形の使い方が理解できる。		
		6週	Lesson 9, 10		助動詞の使い方が理解できる。		
		7週	Lesson 11, 12		助動詞の使い方が理解できる。		
		8週	前期中間試験		上記項目について、理解度を確認する。		
	2ndQ	9週	試験返却		前期中間試験の解説		
		10週	Lesson 13		受動態の使い方が理解できる。		
		11週	Lesson 14, 15, 16		不定詞・動名詞の使い方が理解できる。		
		12週	Lesson 14, 15, 16		不定詞・動名詞の使い方が理解できる。		
		13週	Lesson 17, 18		不定詞を使った様々な表現が理解できる。		
		14週	Lesson 19, 20		分詞の使い方が理解できる。		
		15週	前期定期試験		上記項目について、理解度を確認する。		
		16週	試験返却		前期定期試験の解説		
後期	3rdQ	1週	Lesson 21, 22, 23		関係詞の使い方が理解できる。		
		2週	Lesson 21, 22, 23		関係詞の使い方が理解できる。		
		3週	Lesson 24, 25		比較級・最上級の使い方が理解できる。		
		4週	Lesson 24, 25		比較級・最上級の使い方が理解できる。		
		5週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		6週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		7週	Lesson 26, 27		仮定法の使い方が理解できる。		
		8週	後期中間試験		上記項目について、理解度を確認する。		
	4thQ	9週	試験返却		後期中間試験の解説		
		10週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		11週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		12週	Lesson 28, 29		さまざまな構文の使い方が理解できる。		
		13週	Lesson 30		話法の使い方が理解できる。		

		14週	Lesson 30	話法の使い方が理解できる。			
		15週	後期定期試験	上記項目について、理解度を確認する。			
		16週	試験返却	後期定期試験の解説			
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
mid	40	0	0	0	0	10	50
final	40	0	0	0	0	10	50

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学A I	
科目基礎情報							
科目番号	2A051			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	4		
教科書/教材	新微分積分I改訂版（大日本図書）新微分積分I問題集改訂版（大日本図書）						
担当教員	北田 健策						
到達目標							
☐ 微分係数・導関数の定義や、導関数の性質が理解できる。 ☐ 合成関数の導関数, 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を求めることができる。 ☐ 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べることができる。 ☐ 関数のグラフの接線と法線を求められる。 ☐ 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度を求められる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		微分係数, 導関数の定義を十分理解できる。		微分係数, 導関数の定義が理解できる。		微分係数, 導関数の定義が理解できない。	
評価項目2		導関数と関数の増減の関係を十分理解できる。		導関数と関数の増減の関係を理解できる。		導関数と関数の増減の関係を理解できない。	
評価項目3		媒介変数表示された複雑な関数の導関数を求められる。		媒介変数表示された関数の導関数を求められる。		媒介変数表示された関数の導関数を求められない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		1. 関数の極限について学び、微分係数・導関数の定義や、導関数の性質、基本公式等を学習する。 2. 合成関数の導関数の求め方や諸公式の応用の習熟を図る。 3. 三角関数、逆三角関数、対数関数、指数関数の導関数を学習する。 4. 導関数と関数の増減との関係を学び、最大値・最小値を求める問題に応用する。 5. 高次導関数について学び、曲線の凹凸との関係を調べ、グラフとの関係を学習する。 6. 関数のグラフの接線と法線、ロピタルの定理。 7. 媒介変数表示された関数の導関数や速度と加速度。					
授業の進め方・方法							
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	関数の極限と導関数 (1)		いろいろな関数の極限を求めることができる。		
		2週	関数の極限と導関数 (2)		微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。		
		3週	関数の極限と導関数 (3)		積・商の導関数の公式を使うことができる。		
		4週	関数の極限と導関数 (4)		三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。		
		5週	いろいろな関数の導関数 (1)		合成関数の導関数を求めることができる。		
		6週	いろいろな関数の導関数 (2)		対数微分法が理解できる。		
		7週	いろいろな関数の導関数 (3)		逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	関数の変動 (1)		基本的な関数の接線の方程式を求めることができ、微分係数と関数の増減の関係が理解できる。		
		10週	関数の変動 (2)		関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができ、関数の最大値・最小値を求めることができる。		
		11週	関数の変動 (3)		不定形の極限を求めることができる。		
		12週	いろいろな応用 (1)		2次以上の導関数を求めることができる。		
		13週	いろいろな応用 (2)		関数の凹凸, 変曲点を求めることができる。		
		14週	いろいろな応用 (3)		関数の媒介変数表示を理解し、その導関数を計算できる。		
		15週	いろいろな応用 (4)		平均値の定理が理解できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学AⅡ		
科目基礎情報								
科目番号	2A052			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2			
開設学科	一般教育			対象学年	2			
開設期	後期			週時間数	4			
教科書/教材	新微分積分I改訂版（大日本図書）新微分積分I問題集改訂版（大日本図書）							
担当教員	北田 健策							
到達目標								
☐ 定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。 ☐ 基本的な計算方法を習得し、様々な応用ができる。 ☐ 置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。 ☐ 分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分ができる。 ☐ 積分を応用して長さ、面積、体積等を求めることができる。 ☐ 広義積分ができる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	定積分を十分理解し、積分の計算ができる。		定積分を理解し、基本的な積分の計算ができる。		定積分を理解し、基本的な積分の計算ができない。			
評価項目2	置換積分法と部分積分法を用いて複雑な積分できる。		置換積分法と部分積分法を用いて積分できる。		置換積分法と部分積分法を用いて積分できない。			
評価項目3	広義積分を十分理解し計算ができる。		広義積分ができる。		広義積分ができない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	1. 定積分の定義をし、微分の逆演算である不定積分との関係を学習する。また、基本的な関数の積分方法を学ぶ。 2. 積分の大切な計算方法である置換積分法と部分積分法について学ぶ。分数関数、無理関数、三角関数等の種々の関数に対する積分法を学ぶ。 3. 長さ、面積、体積等を求める問題に応用する。 4. 媒介変数、曲座標によって表示された図形の問題、運動との関係、広義積分等のいろいろな応用を学習する。							
授業の進め方・方法								
注意点								
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	不定積分と定積分 (1)			不定積分の定義を理解している。		
		2週	不定積分と定積分 (2)			定積分の定義を理解している。		
		3週	不定積分と定積分 (3)			微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。		
		4週	積分の計算 (1)			置換積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		5週	積分の計算 (2)			部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。		
		6週	積分の計算 (3)			置換積分法、部分積分法の応用ができる。		
		7週	積分の計算 (4)			分数関数、無理関数、三角関数の不定積分・定積分の計算ができる。		
	4thQ	8週	中間試験					
		9週	面積・曲線の長さ・体積 (1)			基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。		
		10週	面積・曲線の長さ・体積 (2)			いろいろな曲線の長さを求めることができる。		
		11週	面積・曲線の長さ・体積 (3)			立体の体積を求めることができる。		
		12週	いろいろな応用 (1)			媒介変数表示された図形の面積や長さを求められる。		
		13週	いろいろな応用 (2)			極座標を理解できる		
		14週	いろいろな応用 (3)			広義積分を理解できる		
		15週	いろいろな応用 (4)			変化率と積分の関係を理解できる。		
16週								
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100	
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学B
科目基礎情報						
科目番号	2A053			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	2	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	新線形代数改訂版（大日本図書） / 新線形代数問題集改訂版（大日本図書）					
担当教員	伊城 慎之介					
到達目標						
ベクトルや行列について学習し、次のことをできるようにする。 ☐ベクトルの定義を理解し基本的な計算（和、差、定数倍）ができ、大きさを求めることができる。 ☐ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 ☐ベクトルの内積を求めることができる。 ☐ベクトルの平行、垂直条件を利用することができる。 ☐空間内の直線の方程式、平面の方程式、球の方程式を求めることができる。 ☐行列の定義を理解して、和・差・積の計算ができる。 ☐逆行列の定義を理解し、逆行列を求めることができる。 ☐行列を利用して連立方程式を解くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求め、応用した問題を解ける。		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。		ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができない。	
評価項目2	空間内の直線・平面・球の方程式を求めて、応用した問題を解くことができる。		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる（必要に応じてベクトル方程式も扱う）。		空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができない。	
評価項目3	行列の和・差・積、数との積の計算から応用した問題を解くことができる。		行列の和・差・積、数との積の計算ができる。		行列の和・差・積、数との積の計算ができる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	前期は代数学・幾何学の基礎であるベクトルについて学ぶ。具体的には平面上のベクトル、その内積および図形への応用である。次に空間内のベクトルについて学習する。ここでは直線の方程式、平面の方程式、球の方程式などを学び、最後にベクトルの線形独立・線形従属の概念について学習する。後期は線形代数の基本である行列の性質について学習する。行列を定義して、和・差・積を導入し、いろいろな性質について学び、連立方程式と関連させて学習する。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	平面のベクトル (1)	ベクトルの定義を理解できる。		
		2週	平面のベクトル (2)	平面ベクトルの基本的な計算ができる。		
		3週	平面のベクトル (3)	平面ベクトルの成分表示ができる。		
		4週	平面のベクトル (4)	平面ベクトルの内積を求めることができる。		
		5週	平面のベクトル (5)	ベクトルの平行条件を利用することができる。		
		6週	平面のベクトル (6)	ベクトルの垂直条件を利用することができる。		
		7週	平面のベクトル (7)	直線のベクトル方程式を理解できる。		
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	平面のベクトル (8)	平面のベクトルの線形独立性を理解できる。		
		10週	空間のベクトル (1)	空間内のベクトルの定義を理解できる。		
		11週	空間のベクトル (2)	空間ベクトルの基本的な計算ができる。		
		12週	空間のベクトル (3)	空間ベクトルの大きさが計算ができる。		
		13週	空間のベクトル (4)	ベクトルの内積を理解できる。		
		14週	空間のベクトル (5)	直線の方程式を求められる。		
		15週	空間のベクトル (6)	平面の方程式を求められる。		
		16週				
後期	3rdQ	1週	空間のベクトル (7)	球の方程式を求められる。		
		2週	空間のベクトル (8)	空間ベクトルの線形独立・線形従属について理解できる。		
		3週	行列 (1)	行列の定義を理解している。		
		4週	行列 (2)	行列の和・差・数との積の計算ができる。		
		5週	行列 (3)	行列の積の計算ができる。		
		6週	行列 (4)	行列の積の性質を理解できる。		
		7週	行列 (5)	零因子や単位行列を理解できる。		
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	行列 (6)	転置行列を理解できる。		

		10週	行列 (7)	2次の正方行列の逆行列を求めることができる。
		11週	連立 1 次方程式 (1)	消去法を理解できる。
		12週	連立 1 次方程式 (2)	消去法から無限個の解を持つ連立方程式を解ける。
		13週	連立 1 次方程式 (3)	消去法で逆行列を求められる。
		14週	連立 1 次方程式 (4)	逆行列を使って連立一次方程式を解ける。
		15週	連立 1 次方程式 (5)	行列の階数を求められる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物理 I	
科目基礎情報							
科目番号		2A054		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		一般教育		対象学年		2	
開設期		前期		週時間数		4	
教科書/教材		教科書：総合物理1―力と運動・熱―, 総合物理2―波・電気と磁気・原子― (数研出版) 問題集：リードα物理基礎・物理 (数研出版), フォローアップドリル物理基礎 仕事とエネルギー・熱, 波・電気 (数研出版), フォローアップドリル物理 力と運動・熱と気体, 波, 電気と磁気 (数研出版) 図解：フォトサイエンス物理図録 (数研出版)					
担当教員		猿谷 亮司,高橋 徹					
到達目標							
☐ 熱力学第一法則を様々な過程に適用することができる。 ☐ 正弦波の式について理解し, 図示することができる。 ☐ 波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。 ☐ 電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 応用問題を解くことができる。		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができる。		熱力学第一法則を様々な過程に適用し, 基本問題を解くことができない。	
評価項目2		正弦波の式について十分に理解し, 図示することができる。		正弦波の式について理解し, 図示することができる。		正弦波の式について理解し, 図示することができない。	
評価項目3		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を十分に説明することができる。		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができる。		波の重ね合わせについて理解し, それを用いて音波の共鳴や光波の干渉現象を説明することができない。	
評価項目4		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する応用問題を解くことができる。		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位に関する基本問題を解くことができる。		電場・電位とは何かについて理解し, 点電荷が作る電場と電位を求めることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		高校物理教科書に則して, 熱力学, 波動, 静電場の電磁気学について講義する。					
授業の進め方・方法		座学, 演実実験など					
注意点		様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です。復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい。また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう。このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	熱と物質 (問題集単元11)		熱と熱量, 仕事について説明できる。 熱容量と比熱に関する計算ができる。 物質の三態について説明できる。 熱量の保存, 固体の膨張に関する計算ができる。		
		2週	気体のエネルギーと状態変化(1) (問題集単元12)		気体の法則について説明できる。 気体の状態方程式に関する計算ができる。		
		3週	気体のエネルギーと状態変化(2) (問題集単元13)		気体の分子運動について説明できる。		
		4週	気体のエネルギーと状態変化(3) (問題集単元13)		熱力学の第一法則について理解し, 気体の状態変化に関する計算と説明ができる。		
		5週	波(1) (問題集単元14, 15)		縦波と横波について説明できる。 波の伝わり方, 重ね合わせについて説明できる。		
		6週	波(2) (問題集単元14, 15)		波の反射について説明できる。		
		7週	波(3) (問題集単元16)		平面上の波の干渉と回折, 反射と屈折について説明できる。		
		8週	中間試験		第1週-第7週の講義内容に関する試験		
	2ndQ	9週	音(1) (問題集単元17)		音波の性質について説明できる。 共振と共鳴について説明できる。		
		10週	音(2) (問題集単元18)		ドップラー効果に関する計算と説明ができる。		
		11週	光(1) (問題集単元19)		光の性質と進み方について説明できる。 レンズ・鏡による像を作図し, 説明できる。		
		12週	光(2) (問題集単元20)		光の回折と干渉について説明できる。		
		13週	静電場(1) (問題集単元21)		電荷と電気力に関する計算と説明ができる。		
		14週	静電場(2) (問題集単元21)		電場・電位に関する計算と説明ができる。		
		15週	定期試験答案返却		答案返却・まとめ		
		16週					

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

群馬工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物理Ⅱ
科目基礎情報						
科目番号	2A055			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育			対象学年	2	
開設期	後期			週時間数	4	
教科書/教材	教科書：総合物理 2ー波・電気と磁気・原子ー (数研出版) 問題集：リードα物理基礎・物理 (数研出版), フォローアップドリル物理基礎 波・電気, フォローアップドリル物理 電気と磁気, 原子 (数研出版) 図解：フォトサイエンス物理図録 (数研出版)					
担当教員	猿谷 亮司,高橋 徹					
到達目標						
☐ コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則などを用いて電気量・電流・発熱量などを求めることができる. ☐ 単純な形状の電流が作る磁場と磁場から電流が受ける力を求めることができる. ☐ 電磁誘導現象を理解し, 誘導起電力の計算や交流回路へ応用できる. ☐ 光や電子の二重性とは何かを説明でき, ボーアの原子模型を使って電子の状態の遷移に伴って放出・吸収される電磁波の波長を求めることができる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って複雑な電気回路に関する問題を解くことができる.		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができる.		コンデンサー, 抵抗, コイルの働きを理解し, キルヒホッフの法則を使って電気回路に関する問題を解くことができない.	
評価項目2	電流によって作られる磁場の特徴を十分に理解した上で計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる.		電流によって作られる磁場が計算でき, さらに電流が磁場から受ける力を求めることができる.		電流によって作られる磁場の計算, および電流が磁場から受ける力を求めることができない.	
評価項目3	誘導起電力を求めることができ, 発電や複雑な交流回路への応用できる.		誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できる.		誘導起電力を求めることができ, 発電や交流回路に応用できない.	
評価項目4	光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について十分に説明できる.		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できる.		光や電子の二重性について理解し, それを用いて光電効果などのミクロな系特有の現象について説明できない.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	高校物理教科書に則して, 電磁気学と前期量子論について講義する.					
授業の進め方・方法	座学, 演示実験など					
注意点	様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です. 復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい. また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう. このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします.					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	電気容量(1) (問題集単元22)		コンデンサーの性質について理解することができる.	
		2週	電気容量(2) 直流と電気抵抗 (問題集単元23)		コンデンサーの並列接続, 直列接続について理解できる. オームの法則を用いて, 電圧, 電流, 抵抗に関する計算ができる.	
		3週	直流回路 半導体 (問題集単元24)		抵抗の直列接続, 並列接続時の合成抵抗を求めることができる. キルヒホッフの法則を用いて, 電気回路に関する問題を解くことができる. 半導体の性質を理解することができる.	
		4週	磁界 電流が磁界から受ける力(1) (問題集単元25)		磁界の性質を理解することが出来る. 電流の作る磁界について理解できる. 電流が磁界から受ける力の性質について理解できる.	
		5週	電流が磁界から受ける力(2) ローレンツ力(1) (問題集単元25)		電流が磁界から受ける力の性質について理解できる. 荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる.	
		6週	ローレンツ力(2) 電磁誘導(1) (問題集単元26)		荷電粒子が磁界から受ける力について理解できる. ファラデーの電磁誘導の法則およびレンツの法則について説明できる.	
		7週	電磁誘導(2) 自己誘導と相互誘導 (問題集単元26)		誘導起電力を求めることができる. 自己誘導・相互誘導の特徴を理解することができる.	
		8週	中間試験		第1週-第7週までの内容	
	4thQ	9週	交流回路 電磁波 (問題集単元27)		交流電流・交流電圧の特徴を理解し, 交流回路に関する問題を解くことができる. 電磁波の性質を理解することができる.	
		10週	電子の発見 (問題集単元28)		電子の性質を説明できる. 電子の比電荷の計算ができる.	

		11週	波動と粒子の二重性 (問題集単元28)	アインシュタインの光量子説および光電効果について説明できる。 X線の特徴を説明できる。 コンプトン効果の計算ができる。 粒子と波動の二重性について、電子の干渉実験などを通して理解することができる。
		12週	原子模型 原子核の構成 (問題集単元29)	ラザフォードの原子模型について説明できる。 ボーアの水素原子理論から、水素原子内の電子の軌道半径およびエネルギー準位について計算できる。
		13週	原子核の崩壊と放射能 (問題集単元29, 30)	原子核の構成について説明できる。 放射線および放射性物質の特徴を理解し、 α , β , γ 崩壊の違いの説明ができる。 半減期の計算ができる。
		14週	原子核の変換と核エネルギー (問題集単元29, 30)	質量とエネルギーの等価性の関係から、原子核の結合エネルギーを計算できる。 核反応における核エネルギーの大きさの計算をすることができる。 核分裂、核融合の違いについて理解できる。
		15週	定期試験答案返却	答案返却・まとめ
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0